

# 1999 AIDS文化フォーラム in 横浜

## 報告書



写真：長澤 勲「アジアの子どもたち」より

## 【総合目次】

● 「1999 AIDS文化フォーラムin横浜」ごあいさつ	1
● 開催概要	2～12
・ 継続するAIDS文化フォーラム(開催経過)	2
・ プログラムスケジュール	6
・ 会場図	7
・ 会場風景(写真)	8
・ 寄稿「私にとってのAIDS文化フォーラム」	10
● プログラム報告	13～52
・ 発表プログラム	14
・ 展示プログラム	41
・ 関連プログラム	52
● 資料・統計報告	53～72
・ 来場者の動向(来場者アンケート集計)	54
・ 参加団体アンケート	56
・ 参加団体との連携	58
・ ボランティアについて	62
・ 新聞等への掲載記事	66
・ 支えた人／グループ一覧	68

## 「1999 AIDS文化フォーラム in 横浜」ごあいさつ

1994年から6年間「AIDS文化フォーラム in 横浜」を開催できたことを皆様方に感謝するとともに、喜びをわかちあいたいと思います。

このフォーラムはボランティアによる市民による市民のためのフォーラムとして手弁当型で運営することができました。

今年は、「今を生きる」をテーマに70のプログラムを実施し、約3,240名の参加者を得ました。参加者は、北は北海道から南は沖縄まで、さらに海外はタイからのプログラム参加もありました。しかし、残念ながら昨年に比べ2,754名の減少という結果になりました。

フォーラムは14歳から73歳までの市民ボランティア、131名によって例年以上にスムーズに運営され、ボランティアの時代にふさわしい活躍を見せてくれたことは大きな成果でした。

フォーラムの内容については、「今を生きる」というテーマを考える上で重要な「ボランティア」、「教育」、「医療」の3つのシンポジウムが実行委員会企画で開催されました。新しいプログラムとしては「新聞記者が語るエイズ」、「アロマセラピー」、「マッサージ」といった領域が加わりました。また6人の写真展（石田吉明、ビリー・ハワード、土橋正之、大塚敦子、李東桓、長沢勲）は様々な視点から「今を生きる」ということを表現してくれました。

HIVに感染している人が確実に増加しているにもかかわらず、HIV/AIDSに対する基礎的な理解がまだ十分に浸透していないという社会状況の中で、フォーラムへの参加者が減少したことについては、更なる大きな課題として受け止めて行きたいと考えます。社会の中でエイズが深く静かに浸透して来ている現実を見るにつけ、最近では教育現場をはじめとして人々の関心がエイズから薬物問題とヘシフトしてきています。今後もエイズに対して社会の関心を高めていくようなプログラムや広報の工夫を図ることが求められています。

HIV/AIDSを通して、人々が「今を生きる」ことを大切にする社会を築いていきたいものです。

以上、簡単ですが報告書の発行によせてご挨拶申し上げます。

2000年3月

「AIDS文化フォーラム in 横浜」組織委員会委員長 山根誠之  
実行委員会委員長 広瀬 誠

## 継続するAIDS文化フォーラム

(開催の経過)

### 1 開かれた場

『「AIDS」というキーワードは、人間のことを真剣に考える切り口の一つだと思います。そういうキーワードに人が集まるとキマジメでないと許されないという雰囲気になりがちです。文化フォーラムのすばらしさは、握り拳をふるわなくても参加していいというスタンスにあると思います。これは大事にしていきたい。』ある実行委員の言葉です。

『AIDSという病気に影響を受けた人たち、今後、確実にこの病気に出会っていく人たち、特別な病気ではないけど、特別に関わろうとする人たちが、人間の根源に関わる切実な課題を、多様性という最も人間的なアプローチで、社会と自らの偏見と差別のハードルを超えて、安心できる場を成立させること』が、文化フォーラムの文化の所以です。

### 2 多様性と手弁当

自分の言いたいこと。やりたいことを持ち寄って全国から集まる文化フォーラムの参加者は、北海道の医者も、九州の弁護士も、千葉の教師も、都内の歴史あるNPOも、横浜で動き出したばかりの市民グループも、みな同じ条件、手弁当で集まってきました。

このフォーラムのフィールドには、医療・教育・人権・女性・企業・異文化・セクシュアリティ・ボランティア・若者・命・PWA（患者・感染者・家族）等の幅広い視点と、シンポジウム・講演・ワークショップ・公開授業・電話相談・映画・写真展・スライド・朗読・舞踏・合唱・ビデオ・キルト・展示といった様々な手法が、バイキング料理のように並びます。全国からの参加者も、自分の求めるものを得ながら、自分の経験と情報を提供していきます。そういう対等で双方向の関係が、開かれた場を実感させてくれます。

### 3 開催の経過

#### ▷ 市民のフォーラム

AIDS文化フォーラムは、1994年8月に

横浜で開催された「第10回国際エイズ会議」に連動して始まり、医療関係者中心の国際エイズ会議（参加費8万円）に対して、市民のためのエイズ会議を市民の手で実施しようという趣旨で、国内のNGO・NPOが集い、様々な視点でHIV/AIDSの問題に取り組み、偏見と差別でのみ語られたAIDSという病気に対する市民レベルの新しいアプローチとの高い評価を得ました。

そして「この成果を一過性のものに終わらせることなく継続して」という全国からの強い要望を受け、第2回（1995年）、第3回（1996年）と、開催を継続してきましたが、HIV/AIDSに関するマスコミ報道の激減など社会的な関心の薄れと共に、参加者数の減少やプログラムのマンネリ化という様々な課題も明らかになりました。

#### ▷ 新たな工夫と挑戦

第4回（1997年）を開催するに当たり、徹底した評価・検証の中で、「社会的な関心が落ち込んできている時だからこそ、より積極的に打ってでよう」という結論に達し、実行委員会主催のシンポジウムや、より多くの関心を得るために映画を上映したり、手を上げてくる参加団体を待つだけでなく、教育や企業、PWA（患者・感染者）といった幅広い視点で参加してほしい団体へ積極的に呼びかけていくこと、更に、会場を県国際交流協会から、より交通至便のかながわ県民センターに移し、幅広いボランティアの参加の可能性を探るとともに、会場規模も倍に拡大し、新たな挑戦の年としました。

その結果、4,600人（前年の約3倍）もの入場者を迎えることができ、低落傾向に歯止めがかかりました。関心が低下している状況でも、一か所にエネルギーを集中させれば、いままで集まりきれいでなかったエネルギーが、行き場を見つけて集まってくるし、AIDSに関する潜在的な関心は決して低くなかったという自信も生まれました。

## ▷ 量から質へのシフト

そして第5回(1998年)は、ターゲットを絞り全国の拠点病院やエイズ教育推進校に参加を呼びかけ、過去最高の5,700人の参加者を迎えることができました。しかし、3日間にギュウギュウに詰め込んだプログラムと、参加者の大幅な増加は、落ちつきのない参加者やボランティアの動きを生み、実行委員も会場運営だけに追われ、自分たちは何を提供するためにこのフォーラムを開催しているのかという原点の問い直しができました。特にボランティアが成長する場として機能しきれないという反省が大きくなりました。

そこで第6回(1999年)は、ゆったりとした会場構成と時間設定、そして、複数のチームボランティアを中心とした事前ワークと自主的な会場運営など、新しい工夫が加わりました。結果、入場者は3,200人と半減しましたが、各コマとも落ちついた議論と交流を生み、ボランティアの活躍や、全国からの専門職の参加は、量から質の市民フォーラムへの新しい一歩を確認させてくれました。

## 4 フォーラムの仕組み

このフォーラムは、第1回から地域の民間団体等が、責任の所在として組織委員会を作り、県内のHIV/AIDSに係わるキーパーソンたちが、実行委員としてフォーラム全体のフレームを企画・構成し発表を全国に呼びかけ、その中で全国の市民団体が手弁当でコマ毎の講座などを主催し、会場運営を市民ボランティアが支え、参加者は入場無料とする。という体制を創ってきました。言わば基本ラインは全て市民が担ってきました。

今回(第6回)も、事務局を横浜YMCAが引き受け、カトリック横浜司教区、横浜商工会議所、エイズ予防財団等が資金を提供し、14歳から73歳のボランティア140名が会場運営を支えました。また、行政との連携という点では、県衛生部は、映画の上映や、写真展で、横浜・川崎市も展示や講座でフォーラムに参加し、市民が作った枠の一コマに行政が参加するというスタイルをとっています。

また、「専門職が一般市民を指導・教育・啓発する」という従来からの発想を、「市民側が専門職に情報交換と市民の手法を学ぶ場を提供していく」というように逆転させ、今では市民団体のみならず全国の医療や教育の専門家たちからも、横浜の夏の恒例行事としてすっかり期待されています。

このフォーラムが行政主導のイベントだったら、3年目の入場者の減少の段階で「初期の目的は果たした」として打ち切られていたかも知れません。運営費に税金を使わず、側面協力を得るだけで開催してきた自律的な活動だからこそ続いているのだと思います。

## 5 継続することの意味

このフォーラムが継続できている事の社会的な意味はとても大きいと思います。それは毎回数千人の人たちが参加する国内では、唯一の全国規模のHIV/AIDSに係わる情報交換と交流のかけがえのない場になっていること。また、この全国規模のフォーラムを市民のネットワークが支えていること。

これは、市民が地域で全国規模の催しを支えるとてもいいモデルとなると思います。自律した団体や個人が、お互いに本当にやりたいこと伝えたいことを独立採算で持ち寄り協力して働くことで、大きな力を生み出すというこのスタイルは、個々の持てる力を紡ぐ中で、信頼関係という副産物も作りだします。

そしてこの信頼関係が、時代に沿った知恵を生み、継続する力となります。AIDS文化フォーラムの、このスタイルが、様々な課題やテーマに応用されることを期待します。

## 6 これから

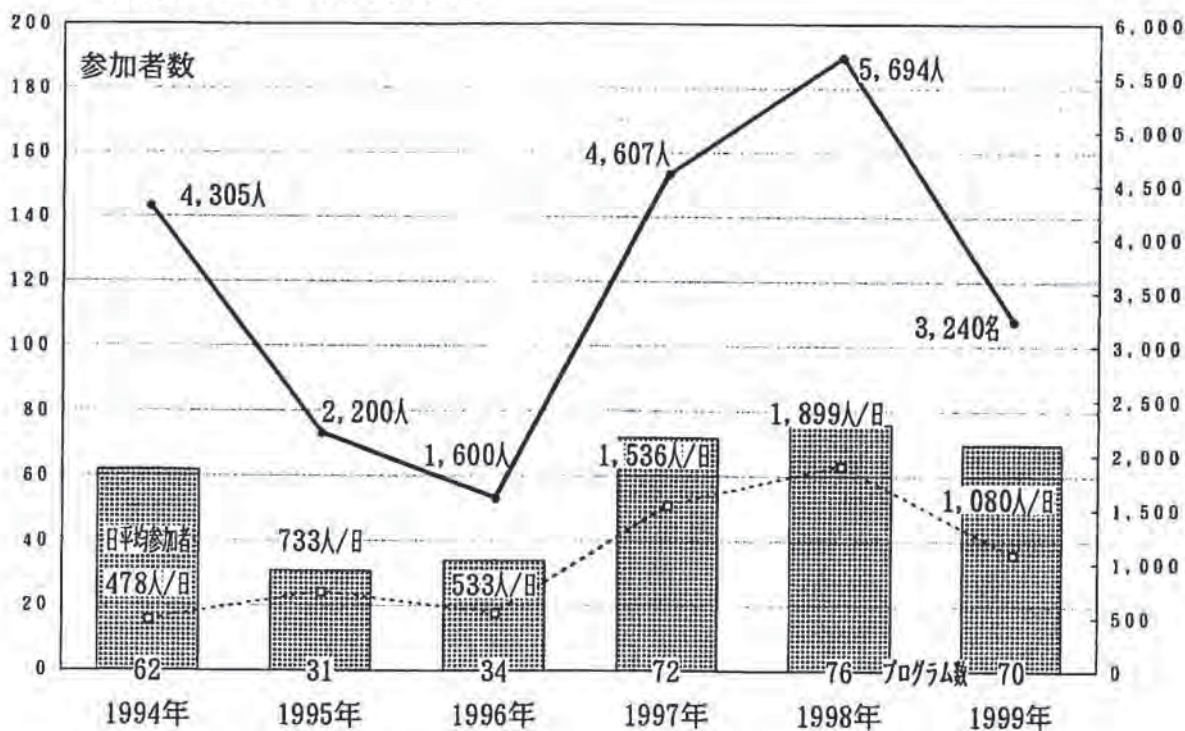
手弁当で集い始めたこのフォーラムも、いまや6回の開催実績の中で、全国から期待される存在となっています。期待に応える心地よい責任感の中で、いつも時代のニーズを見きわめ、新しい動きをリードする学び合いの場として、これからも継続できればいいなと考えています。皆さんとともに。

AIDS文化フォーラム実行委員会

## 7 参加者等の推移

回数 概要	第1回 1994年	第2回 1995年	第3回 1996年	第4回 1997年	第5回 1998年	第6回 1999年
開催日 開催日数	8/6~14 9日間	8/11~13 3日間	8/9~11 3日間	8/8~10 3日間	8/7~9 3日間	8/6~8 3日間
会場	神奈川県国際交流協会			かながわ県民センター		
プログラム数 (1日あたり)	62 (6.9)	31 (10.3)	34 (11.3)	76 (25.3)	76 (25.3)	70 (23.3)
参加者数 1日の平均参加者	4,305名 478名	2,200名 733名	1,600名 533名	4,607名 1,536名	5,697名 1,899名	3,240名 1,080名

■ 文化フォーラム6年間の推移



# A I D S文化フォーラム

## 開催の概要と経過

年	94	95	96	97	98	99
回	1	2	3	4	5	6
会場	神奈川県国際交流協会			かながわ県民センター(株-センター)		
会議室の数	3会議室			6会議室	8会議室	
他の会場				ホール 展示場		
開催日数	8日間		3日間			
開催テーマ	市民と海外 NGOによる AIDS会議	ともに 生きる	ともに 生きるから 連帯へ	未来への つどい	エンパワーメント 自立と共働 にむけて	いまを 生きる
プログラム数	会場内 58	31	34	72	76	70
	会場外 4			発表プログラム + 展示プログラム		
実施主体	個別プログラム毎に団体が責任を持つ			+実行委員会企画を加えテーマを深める		
話題		母親が語る薬害エイズ	性風俗とAIDS	映画：秋桜	TV番組もう少しだけ	数々の作家の写真展
	PWAの主体的な参加					
入場者数	4,305	2,200	1,600	4,607	5,694	3,240
特徴	感染経路を問わず、エイズとそれを取り巻く状況を、多様に考えていく					
市民版の AIDS会議 として		参加者の減少傾向		参加者の増加傾向		減少
	国際AIDS会 議との連携	国際会議をきっかけとし た市民グループの参加		様々な市民活動グループの参加 (県民活動株-センター利用団体の参加)		
参加団体	東京の団体 が中心	地元の新しい団体の参加 (実験的プログラム)		テーマに沿ったプログラムを実現する ために意図的な参加呼びかけも行う		
来場者	会議参加者 と一般市民	地元の市民が中心		全国からの参加		一般の減
				医療・教育関係者の増加		専門職の増
広報	ポスター・パンフレット			暫定プログラムで配布し版を重ねる。全国の保健所、エイズ教育指定校にも		
マスコミ	取り上げ大	減少傾向		毎年夏の定番記事としての取上げ		
社会背景	アジアで初 の国際会議	薬害エイズ の報道増加	薬害エイズ の和解	カテル療法	障害者認定	ピル解禁 感染症予防法
組織委員	民間団体の代表者(7名)で構成し、フォーラムの社会的責任を担う					
実行委員	約50名	15名	15名+毎年2名位づつ実行委員の増			
実行委員の 構成	プログラム 参加団体	医療関係者と、HIV/AIDSに 係わるボランティア団体関係者中心			AIDS関連以外のボラ ンティア経験者も参加	
実行委員会 の開催状況	3回	4回		約15回(準備会も含む)		
					小委員会も開催	
報告書	未作成	A4版/54頁	A4版/54頁	A4版/120頁	A4版/76頁	A4版/68頁
	「活用できる報告書」を目指し作成					
ボランティア	会場運営に市民ボランティアを公募					
	かながわエイズボランティア育成講座(県からYMCAに委託)					
	かわさきエイズボランティア講座					
	夏休み中のボランティアの増加 +ボランティア担当実行委員 1-7ボランティア制					
事務局	横浜YMCA					
当日窓口	県国際交流協会・交流ラウンジ			30人会議室	+ロビー	90人会議室+ロビー
課題	継続	社会的関心の低下・人場減		ボランティアのコーディネート		内容と対象の明確化

# 「1999 AIDS文化フォーラムin横浜」プログラムスケジュール

\*プログラムによっては、プログラム内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがあります。

日付	会場	時間帯	10:00~12:00	13:00~15:00	16:00~18:00	
8月6日(金)	フロア	部屋番号	10:00~12:00	13:00~15:00	16:00~18:00	
	2階	ホール	11:00~12:20 映画「ファザーレス 父なき時代」上映	シンポジウム<ボランティア> (実行委員会) 『AIDS文化フォーラムからみえてきたボランティア』		
	3階	301室	開会式(12:30~ 1階 展示場)		北沢杏子の公開授業「コンドームをつける?つけない?」 (性を語る会)	ますますPositive (パトリック&紳也)
		302室			物販コーナー(Red Knot・HEARTY NETWORKほか) HIV感染者を支援するためのティンベア・衣類などの販売	
		304室			一緒に騒おうベビーキルト (ABCキルト)	性教育とエイズ学習 ("人間と性"教育研究協議会かながわサークル)
		305室			* 研修会利用	バリアフリー99...自分を大切に、自分らしく生きるとは (ソクラテスプロジェクト)
	306室	タイ北部の子どもたちとAIDS (横浜YMCA)	* 研修会利用			
4階	403室	医師が語るエイズ基礎知識 (西村有実)	女性とAIDS (百永陽子)			

◆18:00~20:00 交流会 \*3F 301室/会費制

日付	会場	時間帯	10:00~12:00	13:00~15:00	16:00~18:00		
8月7日(土)	フロア	部屋番号	10:00~12:00	13:00~15:00	16:00~18:00		
	2階	ホール		シンポジウム<教育> 『現場が使える手法とは』(実行委員会)	ミニ 演奏会		
	3階	301室	開会式(12:30~ 1階 展示場)		保健福祉課・ホームヘルパーのための エイズ講座 (実行委員会)	医師が語るエイズ基礎講座 (岩室紳也)	
		302室			物販コーナー(Red Knot・HEARTY NETWORKほか) HIV感染者を支援するためのティンベア・衣類などの販売	ドラマづくりの舞台裏から見たエイズ	
		303室			知っていますか? HIV検査のこと (AIDSネットワーク横浜)	医療者と患者のコミュニケーションギャップを なくすために (AIDSネットワーク横浜)	ゲイ・ユース・セッション *ゲイユースのみ (動くゲイとレズビアン会)
		304室			AIDS教育 昔と今 ~*高校生は何を考えるか (弥栄東エイズ学習会)	新しいエイズに関する特定感染症予防指針 理解のために (動くゲイとレズビアン会)	エイズ教育における感染者の役割 (せかんどかみんぐあうと)
	305室	リラクスのためのマッサージ (エイズネットワークみやざき)	ぼーたま報告(レポートとしての食・料理) (ぼーとたまがわ)	3年目組ホン先生 (サークルホン)			
	306室	* 研修会利用	子ども買春・子どもポルノ根絶のために (ストップ子ども買春会/EGPAT)	生活の中でアロマセラピーを楽しむ (社)日本家族計画協会クリニック 清水敬子)			
4階	403室	お茶会ははじめ (桜屋伝衛門&ぐるーぶめると)		はじめての性教育-中・高校生編- (横浜エイズ勉強会)	はじめての性教育-おとな編- (横浜エイズ勉強会)		
	405室			タイ北部の子どもたちとAIDS (横浜YMCA)	ちょっと待って! ビルって安全なの? (からだのおしゃべり会)	身体表現+交流サロン *16:30開演 (成田右子)	

◆18:00~20:00 交流会 \*3F 301室/会費制

日付	会場	時間帯	10:00~12:00	13:00~15:00	16:00~18:00		
8月8日(日)	フロア	部屋番号	10:00~12:00	13:00~15:00	16:00~18:00		
	2階	ホール		シンポジウム<医療> 医師と患者のトークバトル! (実行委員会)			
	3階	301室	開会式(12:30~ 1階 展示場)		中学校でのAIDS教育の実際 (びーはいぶ市川)	閉会式/交流会 16:00~ 3F 301室 *会費制	
		302室			物販コーナー(Red Knot・HEARTY NETWORKほか) HIV感染者を支援するためのティンベア・衣類などの販売		
		303室			東京地裁の判決から控訴まで (鹿児島大学HIV民事訴訟を考える会)		地域における直接支援活動報告と ビデオ「Positive Voices」上映(ぶれいす東京)
		304室			性的指向と健康問題 (動くゲイとレズビアン会)		AIDSと都市政策 (エイズアクション)
	305室	免疫力を高めるためのマッサージ (エイズネットワークみやざき)	どうしてアロマセラピーには効果があるのか (デン・グリデン 曲方ヨコ)				
	306室	YSP(ヤング・シェアリング・プログラム) (HIVと人権・情報センター)	YSP(ヤング・シェアリング・プログラム) (HIVと人権・情報センター)				
4階	403室	保健婦とHIV/AIDS~地域から みえてきたもの~ みんな子育ての座談会		薬害エイズ被害者の現状と今後の課題 (HIV訴訟を支える会)			
	404室			ビル・ワークショップ part. 2 (AIDS & Society研究会)	* 研修会利用		
	405室			ピア・カウンセリングへの取り組み (ライフ・エイズ・プロジェクト(LAP))	HIV啓発パンフレットの考案はいかに (HIV不当解雇訴訟支援団)		

## ●●●1階 展示場のご案内●●●

写真展「今を生きる」	大塚敦子「いのちの贈り物」 李 東相「生きたい」	土橋正之「エイズを生きる」 石田吉明「いのちの輝き」	ビリー・ハワード「おれなりに人生を」 長沢勲「アジアの子どもたち」
市民グループ活動紹介展	H.L.Voice編集局 横浜AIDS市民活動センター JAPANNetwork エイズを伝えるネットワークTENCAI 横浜エイズ勉強会 AIDS & Society研究会 HIVと人権・情報センター東京支部	かながわレッドリボンクラブ 性を語る会 "人間と性"教育研究協議会かながわサークル 動くゲイとレズビアン会 Red Knot(3F 302室) 横浜YMCA Kラウンジ	有終支援いのちの山彦電話東京支部 びーはいぶ市川 エイズアクション 鹿児島大学HIV民事訴訟を考える会 からだのおしゃべり会 HEARTY NETWORK(3F 302室)

「聞かせて! 教えて! エイズのあれこれ」~エイズ啓発用DVD操作体験コーナー~

●●●特別プログラム「ソーシャルワーカーによるエイズ電話相談」(主催: HIVソーシャルワーカーネットワーク)●●●

8月8日(日) 10:00~17:00 045-319-0544

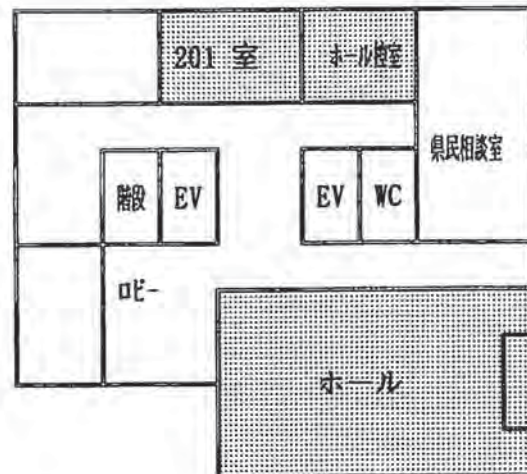
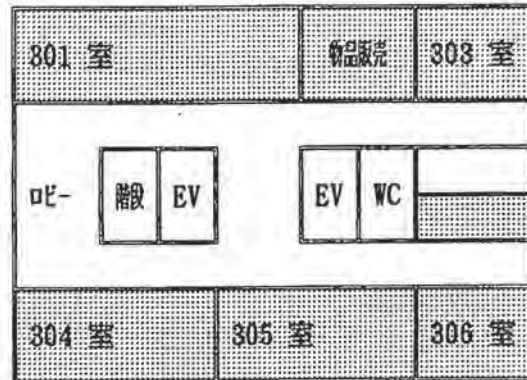
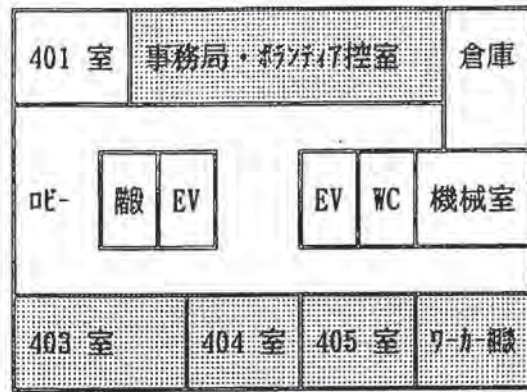
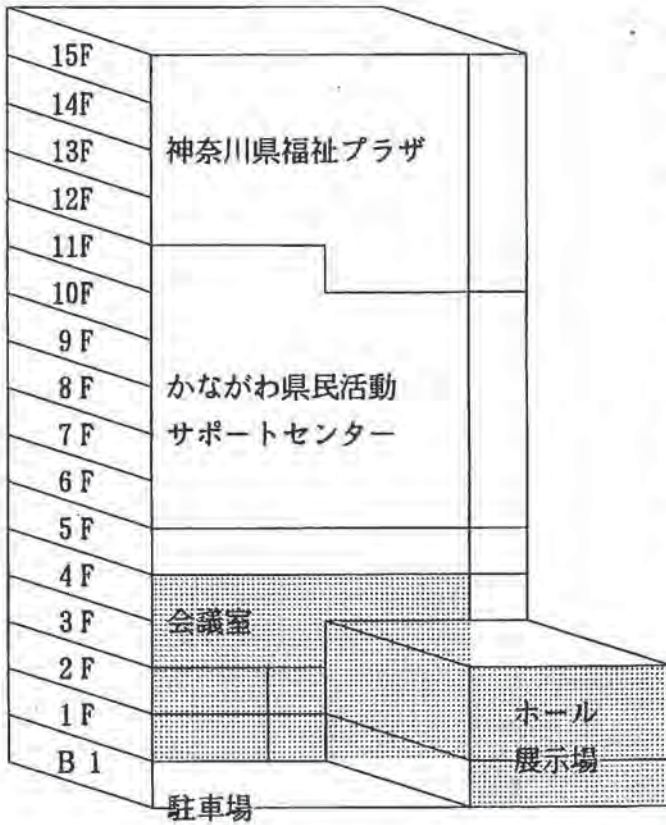
●●●特別プログラム「開成水神雷太鼓保存会」ミニ演奏会●●●

8月7日(土) 12:20~12:40/15:20~15:40 2Fホール



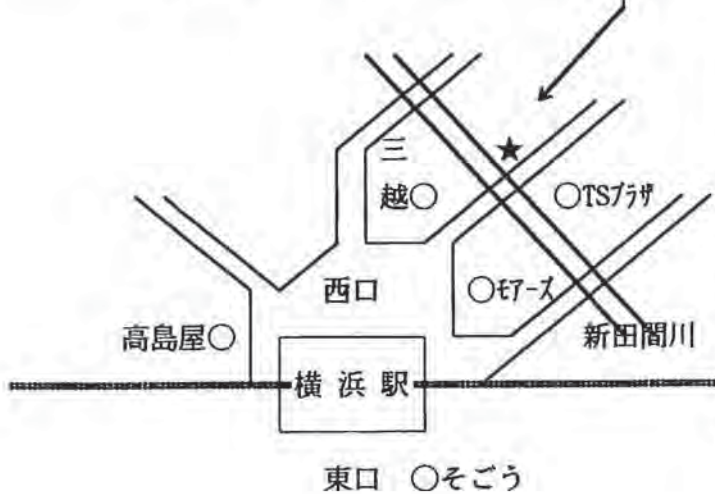
■AIDS文化フォーラム会場図■

■かながわ県民センター■

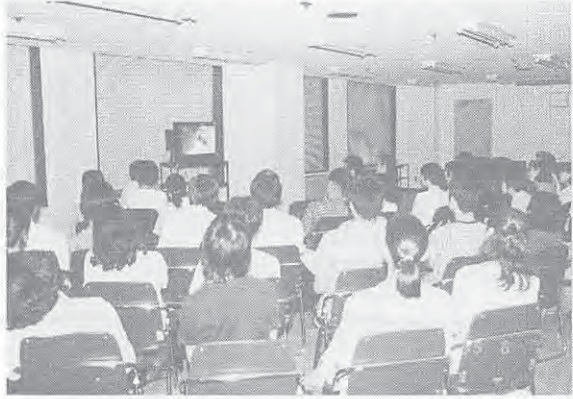
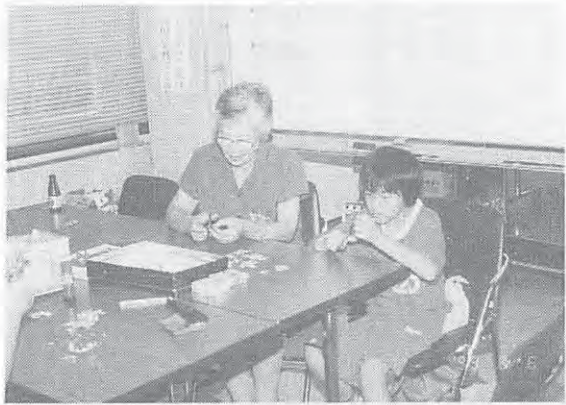
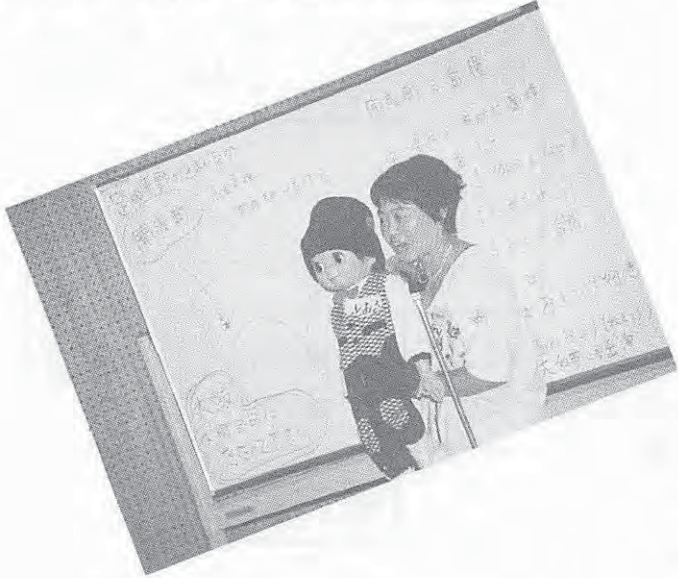


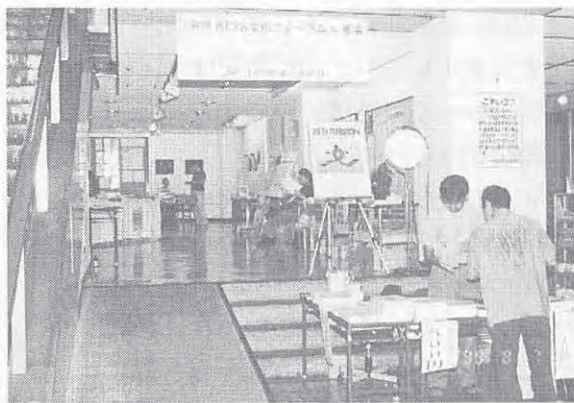
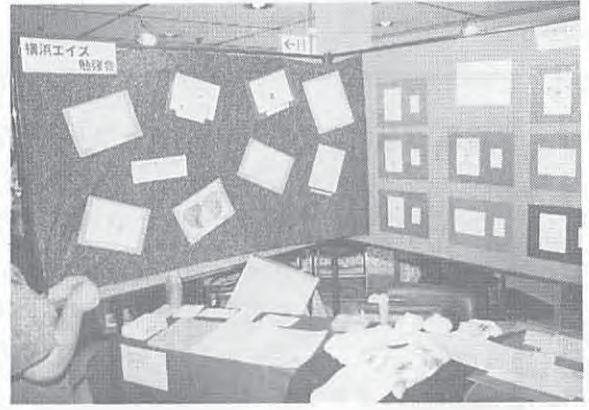
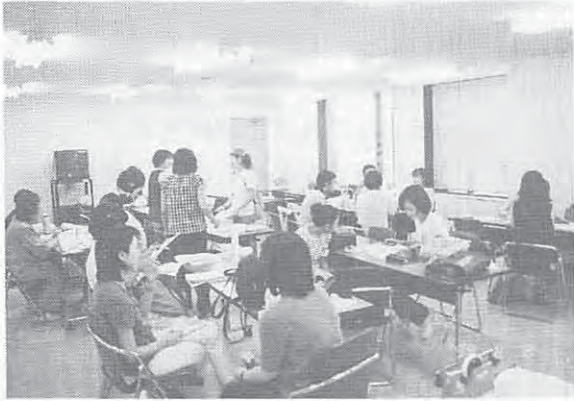
〒221 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2  
 かながわ県民センター  
 TEL 045-312-1121 FAX 045-312-4810

横浜駅西口より徒歩5分



# 会場風景 (写真で見るAIDS文化フォーラム)





### 寄稿「私にとってのAIDS文化フォーラム」

このたびの報告書作成にあたり、これまでAIDS文化フォーラムにさまざまな形で参加して下さった方に寄稿をお願いしました。ご多忙な毎日にも関わらず、快く原稿を寄せて下さった方々に、心より感謝申し上げます。

#### ■南 定四郎さん■

(エイズアクション代表)

#### 「AIDS文化フォーラムのはじまり」

AIDS文化フォーラムは1994年8月に開催された第10回国際エイズ会議の民間団体主催版として計画されました。

その提案は私がいたしました。横浜市内の団体、個人が集まって画期的な催しとなりました。当時の新聞記事をひもとくと、どれほど盛会だったかがよく分かります。

特にこのフォーラムが入場料無料ということで多くの人々に共感を得られました。

同時に、計画した側としては会場の使用料が無料であったからこそ出来たことだということ強調したいと思います。これは神奈川県理解を得られたことに負うことが大きかったのです。

このような例は全国でただ一つです。

今後も皆様とともにこのフォーラムを盛り上げていきたいと思ひます。

#### ■大石敏寛さん■

(せかんどかみんぐあうと 代表)

AIDS文化フォーラムが開催された1994年8月、横浜で第10回国際エイズ会議が開催されました。実際、国際会議は参加費が高額なため、せっかくの機会なのに市民には狭き門となってしまいましたが、同時期に

開催されておりましたAIDS文化フォーラムは広く市民に開かれた場として、AIDSを日本人に今一度考えてもらうために貢献したのではないかと思います。

国際会議は台風のように日本を去ってしまいましたが、市民の手によって開催されたAIDS文化フォーラムはこれまで継続され、エイズに対する市民の意識をあげることに貢献してきたのではないかと思います。

さて、これまでを振り返って考えてきたとき、私自身、エイズ患者・HIV感染者の自助グループである「せかんどかみんぐあうと」として参加させていただきました。参加することで一番印象的なのは、やはり、参加者との交流ではないかと思います。全国から集まってくる人々に患者・感染者の状況や予防啓発、患者・感染者との共存について議論できたことは言うまでもありませんが、それだけでなく、こうした場があることで、なかなか出会うことができない人々と対面できたことは、人の和を広げ、同時に様々な考え方を学び合う機会ともなりました。

実際にエイズを予防するのは市民であり、患者・感染者が市民として日常生活を送っていることを考えると、エイズ対策は行政主導型ではなく、市民が自ら理解し行動していくことが望ましいでしょう。

AIDS文化フォーラムが市民のエイズに対する理解や行動につながっていることを考えた時、今後も継続されることで、感染から免れる若者や社会と共存できる患者・感染者が増えていくのではないのでしょうか。

今年、2000年を迎え、そして21世紀もすぐそこまで来ています。20世紀はエイズにどう立ち向かっていけばいいのか、私たちは多くの犠牲をはらって考えてきました。エイズによって亡くなった多くの仲間のために、そして、同じ過ちを繰り返さないために、私たち一人一人、エイズを「知っている」から「理解し、行動している」に変えていかなければなりません。そのためにも、これからも、こうした場を大切に活用していきたいと思ひます。

■加藤哲夫さん■

(東北HIVコミュニケーションズ代表)

早いものですね。「AIDS文化フォーラム」が初めて開催されてから、もう6回になるのですね。「国際エイズ会議」に参加した足で、不便なところだと汗をかきかき、第1回の会場に向かった覚えがあります。あのときは暑かったですね。狭い廊下を右往左往しながら、いくつかの分科会を廻ったことを覚えています。それから毎年のように、私たち、東北HIVコミュニケーションズのメンバーが参加し、交流と学習をさせていただいております。全国規模での総合的な民間・在野のエイズ関係者の集まりというのは、このとき以前にも以後にも、この「AIDS文化フォーラム」をおいて他はありません。私たちのような地方の組織にとって、このような全国的な交流や学習の機会は大変ありがたいものです。

振り返って見ると、私がエイズ問題に関わりを持ったのが1986年、メモリアルキルト仙台展の開催が、1991年ですから、もう10年を超えています。薬害訴訟支援とサポートを両立させる活動を、限られた人数で担ってきた初期段階から、ここ数年は、行政とエイズデーの実行委員会を組み、地域リーダー養成講座を企画するなど、ようやく地域全体の政策を視野に入れた関わりを政策提言して、一緒に取り組むことができるようになりました。隔世の感があります。行政・医療・青少年育成・教育・それにNPOなど、それぞれの取り組みはあっても、地域で面的な政策として取り組むことは、縦割りの行政システムではなかなか難しく、私たちNPOの出番でしょう。幸い新しい若いスタッフにも恵まれ、何とか信頼性のある地域組織として活動を継続しています。何の後ろ盾もない市民の活動が、それなりの社会的な成果をあげているのも、時代の変化でしょう。そのうち「AIDS文化フォーラム」でも何らかの担い手としてお返しができるようになりたいものです。

■わたらい むつこさん■

(山形県村山保健所保健婦)

「1999 AIDS文化フォーラム in 横浜」において、私は、HIV感染者・AIDS患者の友人、ボランティアメンバー、県保健所保健婦という中立的な立場で、初参加させていただきました。

HIV/AIDSに関わる者として、全国的な交流や学習の機会を与えていただけることは大変貴重な意味があり、今後の活動に対する目標を持つ良い機会でもありました。また、参加者それぞれがHIV/AIDSに関する活動をしており、隔たりなく対等に皆で話し合えることは、私にとって、とても安心のできる居心地の良いフォーラムでもありました。

フォーラムの中で、今回、HIV感染者・AIDS患者の方、ボランティア・NGO、行政のそれぞれが自分達の役割を考え、お互いに協力・活用し合い、より意味のある活動を展開していくことを目的として“座談会”を開かせていただきました。“座談会”では、保健婦とはどういった役割なのかを知らないのはもちろん、保健所でHIV抗体検査をしている事自体を知らないとの声も聞かれる等、もっと、活用しやすい保健所でなければ、今後の保健行政は期待していただくことすら不可能に近い現状であると切に感じたところです。

今後、HIV/AIDSに関わる者同士が協力・活用し合い、市民がHIV/AIDSを身近な問題として感じ理解・行動に繋ぐことができるように活動していくべきと考えます。今までの歴史もあり、保健行政には難しいところも多いのかもしれませんが、しかし、少しでも皆の目標に近づけるよう努めていきたいと思えます。

現在、一般的には、HIV/AIDSは非常に重大な問題であるにも関わらず、軽視されている現状にあります。今後、知識を持つことだけでなく、多くの人々との出会いによって学び合い、視野を広げ、様々

な立場を理解できる活動をしていきたいと思ひます。H I V / A I D S についての全ての活動の意味を、多くの人々に理解していただけるようにしていきたいものです。

まだまだ不足な点の多い私ですが、H I V 感染者・A I D S 患者の友人、ボランティアメンバー、保健所保健婦という立場を大切に、皆の気持ちを心に感じながら活動していけるよう、今後も、A I D S 文化フォーラムに協力させていただきたいと思ひます。

どうぞ、これからも御指導ください。  
よろしくお願ひいたします！！

#### ■小嶋文夫さん■

(エイズネットワークみやざき)

思い起こせば、私は、過去6回のフォーラムにすべて参加している。それより少しまえはじめて、ある団体(都城青年会議所)のメンバーとして、エイズのイベントを企画実施したのが、確か1992年。その当時の自主制作VTR「A I D S は、怖くない?!? 正しい知識と認識のために」・無知が偏見差別を生む。自分の意識改革こそが大切なんだ!・そんなメッセージをこめたイベントだった。その思いは、その後の啓発活動の原動力として、いまでも心の奥に燃え続けているのかもしれない。

忘れてならないのは、毎回フォーラムに参加して、その時代のA I D S への捉え方を肌で感じとることができること。このことは、とくに地方で、活動が続けている私にとっては、「井のなかの蛙」? 一人合点にならないならないために、そして 疲れてしまいがちな活動への元気をいただく・今となっては不可欠な行事となっている。

そして、「A I D S」という共通項を持つ人たちが、その立場や性別、地域、人種を越えて一同に会する大切な機会でもある、フォーラムの、あの安心できる空間。これが、ビ

アな関係なのかなと最近思う。むろん運営スタッフの努力の賜であろうが・・感謝です。

2000年を迎え、今後のA I D S 文化フォーラムは・・・

現在の手法を継承させながら、敷居の高くない、様々な立場の人が、様々な思いで、気楽に、楽しく、ゆったりと、そして、参加したスタッフも参加者もみんなが、感動と元気を分かち合えるすてきな『出逢いの場』としていけたら・・と。

# プログラム報告

## 【プログラム目次（発表）】

No.	タイトル（主催）	掲載項
A	シンポジウム『ボランティア』（AIDS文化フォーラム実行委員会）	15
B	シンポジウム『教育』（AIDS文化フォーラム実行委員会）	16
C	シンポジウム『医療』（AIDS文化フォーラム実行委員会）	17
1	模擬授業「コンドームをつける？つけない？」（性を語る会）	18
2	一緒に縫おうベビーキルト（ABCキルトの会横浜支部）	18
3	性教育とエイズ学習（“人間と性”教育研究協議会かながわサークル）	19
4	医師が語るエイズ基礎知識（AIDS文化フォーラム実行委員会）	19
5	自分を大切に 自分らしく生きるとはーバリアフリー99ー（ソクラテスプロジェクト）	20
6	女性とAIDS（吉永陽子）	20
7	ますますPositive（パトリック&紳也）	21
8	リラクスのためのマッサージ（エイズネットワークみやざき）	21
9	学校や地域に役立てる朗読ワークショップ（H.I.Voice・ACT）	22
10	知っていますか？HIV検査のこと（AIDSネットワーク横浜）	22
11	エイズ教育 昔と今ー若者は今、何を考えるー（弥栄東エイズ学習会）	23
12	タイ北部の子どもたちとAIDS（横浜YMCA）	23
13	保健福祉職・ホームヘルパーのためのエイズ講座（AIDS文化フォーラム実行委員会）	24
14	医療者と患者のコミュニケーションギャップをなくすために（AIDSネットワーク横浜）	24
15	医師が語るエイズ基礎講座ードラマづくりの舞台裏から見たエイズー（岩室紳也）	25
16	ゲイユース・セッション（動くゲイとレズビアン）の会）	25
17	新しい「エイズに関する特定感染症予防指針」理解のために（動くゲイとレズビアン）の会）	26
18	ぼーたま報告ーサポートとしての食・料理ー（ぼーとたまがわ）	26
19	子ども買春・子どもポルノ根絶に向けて（ストップ子ども買春の会）	27
20	エイズ教育における感染者の役割（せかんどかみんぐあうと）	27
21	はじめての性教育ー中高校生編ー（横浜エイズ勉強会）	28
22	開成水神雷太鼓 演奏会（AIDS文化フォーラム実行委員会）	28
23	ちょっと待って！ピルって安全なの？（からだのおしゃべり会）	29
24	生活の中でアロマセラピーを楽しむ（（社）日本家族計画協会クリニック）	29
25	初めての性教育ーおとな編ー（横浜エイズ勉強会）	30
26	東京地裁の判決から控訴まで（鹿児島大学HIV訴訟を考える会）	30
27	3年B組ホン先生（サークルホン）	31
28	新聞記者が語るエイズーエイズ検査を受けてみてー（神奈川新聞「よこはま瓦版」取材チーム）	31
29	性的指向を健康問題（動くゲイとレズビアン）の会）	32
30	ピル・ワークショップ Part.2（AIDS&Society 研究会議）	32
31	ヤング・シェアリング・プログラム（HIVと人権・情報センター）	33
32	保健婦とHIV/AIDS～地域から見えてきたもの～みんな本音の座談会（わたらいむつこ）	33
33	免疫力を高めるためのマッサージ（エイズネットワークみやざき）	34
34	中学校でのAIDS教育の実践報告と中高生のトークセッション（BeeHIVe 市川）	34
35	ピアカウンセリングへの取り組み（ライフ・エイズ・プロジェクト）	35
36	村ゾナビデオ「Positive Voices」上映と地域における直接支援活動についての研究報告（ぶれいす東京）	35
37	AIDSと都市計画（エイズアクション）	36
38	どうしてアロマセラピーには効果があるのか（デン・グリデン）	36
39	薬害エイズはまだ終わっていない～薬害エイズ被害者の現状と今後の課題～（HIV訴訟を支える会）	37
40	HIV啓発パンフレットの考課はいかに（HIV不当解雇訴訟支援団）	37
41	身体表現+交流サロン（成田右子）	38
42	お茶会ははじめ（桜屋伝衛門+ぐるーぶめると）	38
43	映画「ファザーレス 父なき時代」（神奈川県衛生部）	39



No. A	タイトル	シンポジウム <ボランティア> —AIDS文化フォーラムからみえてきたボランティア—
	主催	AIDS文化フォーラム実行委員会
	シンポジスト	本村弥恵子 (横浜エイズ勉強会) 矢部尚美 (ボランティアコーディネーター) 沢崎 康 (財団法人エイズ予防財団) 岡島龍彦 (H. I. Voice・ACT)
	司会	長澤 勲 (AIDS文化フォーラム事務局長)

ねらい AIDS文化フォーラムという共通のフィールドの中から、このフォーラムをヒントに、  
1. ボランティアの可能性 2. 活動を継続するための手法 3. 市民の活動と行政の協働について  
4. ボランティア支援機関・組織の役割 など、日本の現状や、アジアや世界とつながる今後の方向性  
について議論する。

ながれ

①趣旨説明

(長澤) AIDS文化フォーラムの基礎知識として、開催経過とボランティアの関わり。

②各パネリストの発表

(矢部) フォーラムから見えてきたボランティアの可能性

(本村) フォーラムと共に成長するボランティア団体の事例

(岡島) 行政との協働事例としての手法

(沢崎) ボランティア支援の取り組みと、日本のエイズボランティアの課題など

③フロアとの意見交換

もっともっとこのフォーラムの必要性を伝えること。

世代交代をしていかないといけないこと。

ボランティアとは自己満足で終わってはいけないこと。 等々

来場者感想

- ・市民グループや支援団体が地道に活動を進めていることはひとつの救い、今後に期待する。
- ・ボランティアとしての新しい見方を知ることができました。
- ・HIVに関連したボランティアにエネルギーを注いでいるグループや個人の存在を知りました。
- ・エイズ予防財団の沢崎さんから辛口の「ボランティアとは」という意見をうかがえて良かった。

連絡先 AIDS文化フォーラム実行委員会



No. B	<p>タイトル シンポジウム &lt;教育&gt; ー現場が使える手法とはー</p> <p>主催 AIDS文化フォーラム実行委員会</p> <p>シンポジスト 湯口美恵子(二宮町立一色小学校養護教諭) 古石木末(川崎市立宮前平中学校養護教諭) 安藤晴敏(神奈川県立弥栄東高校教諭) 桜屋伝衛門(葉書エイズ当事者)</p> <p>司会 岩室紳也(神奈川県厚木保健所・神奈川県立厚木病院)</p>
-------	--

ねらい エイズは日本人が、あるいは人類全体が抱えている様々な問題(偏見、差別、貧困、買春、性感染症、権威主義、等々)に対してどのように立ち向かうことができるかを試している。HIV/AIDSに立ち向かう方法として「教育」が重要であることについては一定の理解が得られるようになり、エイズ教育が小中高で行なわれるようになった。しかし、未だに「どのように実施すれば良いのかわからない」という声も聞かれる。「エイズ」を取り巻く環境は様々であり、多様な視点からの情報提供が必要で、学校でのエイズ教育の理想と現実を確認すると共に、感染している立場から見たエイズ教育の視点、地域の保健所等々の連携も視野に入れた教育の方法を示すことをねらいとする。

シンポジスト発言要旨 (湯口) 小学校5.6年生に2時間ずつ時間を取ってエイズ教育を行なっている。二宮町の教育委員会がエイズ教育の重要性を認識して時間を確保することが出来ている。「教育が予防の一番のワクチン」と言われ、小学生では「病気の予防」の観点から教えているがエイズ患者、HIV感染者の生活の様子等の情報が得られにくい。地域の保健所等の専門家の協力を得て教員では伝えられない情報を与えるようにしている。今後は総合学習時間を活用し小学生が理解できることを伝えたい。

(古石) 自分自身の中で「AIDS」について整理する必要があると思って取り組み始めた。横浜YMCAのエイズボランティア育成講座に参加し、「知識」ではなく「共感」に重点を置く内容にすることにした。1年生には「NHKスペシャル・少女エイズ」、学校保健委員会では「H.I.Voice Act」で父母、生徒、教職員が参加した劇場を上演し、感染者の思いを含めて多くの共感を得ることができた。4月に転勤になったので新しい学校でもエイズ教育を浸透させたい。

(安藤) エイズは学校教育を変革させるパワーがあり、「生きる」ことを問える題材である。知識を教えることも重要であるが、教師サイドがメッセージを生徒に伝えることが重要である。

(桜屋) 教育には「教える」だけではなく「育てる」ことが求められている。学校で講演をするときには「そこにいる自分」を感じてもらうことが大切であると思っている。HIV感染が自分で理解できるようになってからは「生きる」こと、「生きている」こと考えるようになった。生徒からは「恋人がいますか」といった率直な質問が出て、一人の人間として生きていることを感じてもらえたと考えている。

教科書の比較 小中高のどの教科書も「知識」偏重であり「予防」が中心の内容であった。「エイズウイルスは空気にふれただけでも死んでしまう」といった間違いもあったが、教科書が検定を受けた5年前の状況の考えるとやむをえないかもしれない。今後は「共感」を得られる内容に改訂されることを期待したい。

まとめ エイズ教育は「予防偏重」の時代から「共生」を求める時代へと社会が変化している中で教育手法にも変化が求められている。「共感」を得られる教育手法はまだ模索の段階であるが、少しずつ成果をあげているところがある。学校だけではなく、感染当事者や地域の関係機関との連携が求められている。

来場者感想 ・教師の立場としてAIDSを見すぎているのでは?教育は生徒と教師が学んでいく場なのではないでしょうか。私は今大学生なのですがAIDS教育が予防だけだった中高のころ、はっきりいって予防だけ続けていく上で「もういい・・・」と思うばかりだったと思います。AIDS教育は生きるための教育、社会問題全てが関わってくるものだと思います。

・桜屋さんの言葉が一つ一つ心に残りました。教えるだけではなくいかに育てるか勉強していきたいと思えます。桜屋さんと同じくらいの世代として“生きる”ことについて改めて考えさせられました。

・AIDS教育は知識を教えるだけではいけない。心を、人間性を育てなければならないという考えに納得です。『差別や偏見をしてはいけない』といって教えることも必要ですが、頭でわかるだけではないでしょうか。心から理解する方法がいます。

・何かつまづいたり、むずかしいことがあったら「外部の人」「専門家」ということばかり言っていたら「内部の人」「学校の先生」は何をするのでしょうか。先生が生徒と一緒に外へ飛び出すことが大切なんじゃないでしょうか。

連絡先 AIDS文化フォーラム実行委員会

No. C	<p>タイトル シンポジウム &lt;医療&gt; ー医師と患者のトークバトル！ー</p> <p>主催 AIDS文化フォーラム実行委員会</p> <p>シンポジスト 松浦基夫 PWA</p> <p>司会 吉永陽子 (長谷川病院)</p>
-------	--

ねらい 診察室という空間では、時間、設備、立場、等様々な制約が存在し、PWA (患者・感染者) はそのニーズを伝えきれない事がある。また、日本は患者にとってのインフォームドチョイスを可能にするためのセカンドオピニオンを得る機会が少ない。そこで、実行委員会が HIV 診療に携わる医師を招聘し、PWA が本音で語る場を設定した。これを一般公開で開催し、HIV 診療の問題点を明確化し、解決法を探る事を目的とした。

ながれ 会場は、PWA を含め参加者がリラックスできるように、ステージは使用せず、円形に椅子を配置しアットホームな雰囲気をつくれた。司会者を含め講師と PWA の簡単な自己紹介。司会者が PWA に対して、感染から現在までの問題点を時系列として聞き出し、これに講師が答える形式で進めた。途中、専門用語について、司会者を含め講師の解説を加えた。司会者は、PWA の心情をなるべく丁寧にききとるようにした。最後に質疑応答をして終了した。

内容 PWA からは、感染の告知をうけてからの医療や生活は、当事者にとっては医療拒否、転院、経済的な限界、退職等々諸処の問題が山積され、決して平坦なものではなく、心理的負担も大きかったが、PWA 同士のネットワークを通して、自分自身の主張が可能となり、道が開かれた様子が語られ、医療者間にも偏見が存在するのではないかという点が指摘された。医師からは医療者側の過剰防衛があったこと、医療者側も手探りであったことが述べられた。現在はこれらの経験を踏まえ、かつ、この数年の治療の進歩とともに、一貫してインフォームドコンセントの重要性が強調された。また、障害者認定制度の事についても言及された。

会場の声 もっと軽快なテンポの進行を期待。医療関係者以外の参加者には解りづらかったのでは、何の病気にせよ、医師と接する際の参考になった。

感想 アンケート 33 通一本音が聞けてよかった。貴重な体験。良い企画等 (15) 現状問題点が良く理解できた。(12) AIDS に限らず両者が理解しあう事が重要。(9) 専門用語が難しい (3) 感染者の生の声を聞くのははじめて (3) 会場との話し合いがもっとほしかった (3) 企画ミス、打合せ不足。単調でイライラした。等 (2) 歯科のことを取り上げてほしい (1)

反省点と今後の課題 本音で語り合う場を提供することが目的であり、語り合った内容をショーのごとく再現する事が目的ではなかった。この点が誤解されなかったのは、良かったと思う。事前の入念過ぎる打合せが、両者の馴れ合いを招くことを恐れたため、時間の配分、会場とのやり取り等については、多くの課題を残したのも事実である。専門職から、全く AIDS についてはじめてという文化フォーラムの幅広い参加者を対象にした際、専門用語の説明、歴史的背景等についてある程度の説明をしなければならないし、話し合いの土俵をどう作るのか、どの層を対象にすべきか、すべきでないのかも含め、今後更なる検討をしたい。

連絡先 AIDS文化フォーラム実行委員会

No. 1	タイトル	模擬授業「コンドームをつける？ つけない？」
	主催	「性を語る会」
	講師	北沢 杏子

ねらい 沈静化してしまった HIV/AIDS 情報。患者/感染者は確実に増えている事実を伝え、参加者が教育現場ですぐできる小学校/中・高校生への模擬授業を实践。また、劇団「DAIKON 座」による「コンドームつけるか、つけないか」のロールプレイを初上演。

- ながれ ①小学校模擬授業  
②中・高校生模擬授業  
③ロールプレイ

#### 来場者感想

- ・ロールプレイが楽しかった。
- ・ロールプレイなど小、中、高という流れで年齢に応じた授業の方法がわかった。
- ・北沢杏子さんのお話もロールプレイも面白かった。
- ・具体的でとてもわかりやすく、ロールプレイも笑いながら1つ1つがすべて役に立つ知識となった。
- ・全国津々浦々の中・高生に聞いて欲しいと思った。
- ・劇団 DAIKON 座の方々、とても上手でしたよ。ご苦労さま。



連絡先 「性を語る会」事務局 / 〒158-0097 東京都世田谷区用賀 3 - 5 - 6  
TEL 03 - 3708 - 7326 FAX 03 - 3708 - 7926

No. 2	タイトル	一緒に縫おうベビーキルト
	主催	ABCキルトの会横浜支部

ねらい HIV/AIDS 感染の子どもたちやエイズで親を亡くした孤児たちに贈るベビーキルト作りを通してエイズ問題を考えるきっかけとなるようボランティア参加してもらおう。

ながれ (1) 参加者にABCキルトについての説明。1998年と99年のスタディツアーの写真を見てもらいながら話しをした。タイへは毎年必ず訪れ、病院や孤児院を訪問して子供やその家族の様子を聞き、キルトの寄附できる場所を探している。ネパールへは去年初めて訪れ、人身売買で犠牲になった少女たちが収容されているマイティ・ネパールでキルトを指導し、今年も10月に再び訪問する。横浜支部から参加した会員のタイとネパールの2つの訪問記を参加者に配布。(2) 学校でABCキルトに取り組んでいる話しをした。中学生に心で伝えるキルトにふれてもらい、そこからエイズについての理解を深めてもらおうという保健所、学校、ボランティアが協力して行っている学校を紹介。(3) 実際にキルトを縫ってもらった。(4) ワークショップに参加した水俣保健所から以前は水俣病、今はエイズについて市民に働きかけをしているという話しがあった。狭山保健所からキルト作りをしたがどうしたらよいか相談を受けたのでエイズ予防のパネルと一緒に展示するようにアドバイス。八幡浜保健所(愛媛)の男性職員も参加し、キルト作りに挑戦していた。(5) 最後に感想をひとことずつ言ってもらった。

主催者感想 一般の参加者、会員、スタッフが一体となってキルト作りや歓談があり、いいワークショップができた。

連絡先 ABCキルトの会横浜支部  
上村春子 〒233-0015 横浜市港南区日限山 3-1-11 TEL 045-844-8124

No. 3	タイトル	性教育とエイズ学習
	主催	“人間と性”教育研究協議会かながわサークル
	講師	中野久恵 鎌田美代子

ねらい エイズ学習を進めていくには、性教育を充実させていくことが求められています。子どもたちが自分のからだを通して、からだや性について学べるのが大切です。小学校5年生対象の模擬授業「おとなへのからだの変化 初経と精通」について展開し、性教育とエイズ学習について考えたい。

ながれ

- ・参加者の雰囲気を和らげる為、じゃんけんゲームをする。
- ・模擬授業を展開。会場から感想、意見の交流。
- ・2年生のクラスで扱った実践事例報告。
- ・小学校におけるエイズ学習の現在の課題について報告。

主催者感想 一時間扱いの内容としては、伝えたい思いが先行して盛りだくさんになった。

来場者感想

- ・性教育という分野はとてもプライベートな部分でもある。大人たちがはずかしい分野と思って子どもに接している人が多い。大事なことは性の本当の意味を伝えていくことが性教育。
- ・自分のからだの変化を肯定的にとらえられるよう、図や絵本などでくわしく教えて頂き、安心する子どもも多いのではと思いました。

連絡先 “人間と性”教育研究協議会かながわサークル代表 鎌田美代子  
〒247-0063 神奈川県鎌倉市梶原 1-18-2 TEL 0467-44-5185

No. 4	タイトル	医師が語るエイズ基礎知識
	主催	AIDS文化フォーラム実行委員会
	講師	西村 有史 協力 「HIVとつきあう開業医」の会

ねらい この講座では、開業医として HIV 診療に取り組む西村医師にエイズの基礎知識から現在の診療状況までをわかりやすく講義して頂く。

ながれ 組織委員より初日、初回のプログラム開催に先立ち挨拶。司会者より、趣旨説明。HIV 診療に取り組むきっかけを含め講師自己紹介。日頃、生徒を対象にした講演会と同様のやさしい語り口ではじまる。会場参加者へ講師からいくつかの質問をする中で、エイズがうつるのでなく、HIV という病原体が感染することの確認。「癌」との共通点、ウィルス量測定、プロテアーゼ阻害剤の使用等医学の進歩と、カクテル療法が抱える問題点が述べられた。

また、地域でエイズを診る事の意義と、氏が代表を勤める HIV とつきあう開業医の会の紹介（連絡先）があった。

来場者感想

- ・わかりやすかった。これほど詳しく聞いたことは初めて。  
〔行政職、保健所勤務〕
- ・久しぶりに当たり前の事が復習でき、ちょっと自分のスタンスの土台が膨らんだ気がする。
- ・先生の人柄に感激。直接会えてうれしかった。
- ・興味をみだして本質をみようとしないう質問があり、このようなフォーラムが必要だ。



連絡先 西村くりにつく  
福岡県豊前市大字八屋 2 2 6 7-1 Tel:0979-82-2161 Fax:0979-82-2162

No. 5	<b>タイトル</b> 自分を大切に 自分らしく生きるとは — バリアフリー '99 — <b>主催</b> ソクラテスプロジェクト <b>出演者</b> 中畑幹洋 (横浜中福祉事務所ソーシャルワーカー) 富田恵子 (鎌倉市富士塚小学校教諭) 大本正樹 (トヨタ社 人権啓発室) 長谷川俊雄 (関内メンタルクリニック ソーシャルワーカー) <b>進行</b> 逢澤詳子 (ソクラテスプロジェクト/ソーシャルワーカー)
-------	--

**ねらい** 私たちの希求する「かけがえのない固有の暮らしを大切にしたい」という願い。それを阻害しているのは何か。自分の問題として考えあい、エンパワーメントの機会とする。

**ながれ** 「私の制度?あなたの制度?」身体障害者手帳の申請手続きで改めて考えさせられたこと(中畑)「10歳と考えるヒューマンライツ」大切な自分のことを自分で考える力を育てる教育とは(富田)「ユニバーサルデザイン」障害の有無、違い、差、にとられない共用の社会を目指す(大本)「境界と親密さ」家族関係をはじめとする人間関係の困難性から生まれる生きづらさを(長谷川)

1)次年度に繋げる問題提議の場としたい、が 2)十分なディスカッションの時間はとれない、と判断し、各パネラーの発表の要点をキーワードとして書き出した。

**来場者感想** エンパワーメントを感じさせてくれる内容だが、各パネラーの話の質の高さに比して割り当て時間が短すぎた。/自分を知ること、バリアーを知ることとはとても大切。/コミュニケーションについて。/この場はパネラーにとっても、自分の生き方を振り返る好機として活かしている。

**連絡先** ソクラテスプロジェクト  
 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民活動サポートセンター レターケース109

No. 6	<b>タイトル</b> 女性と AIDS <b>主催/講師</b> 吉永 陽子
-------	--

**ねらい** ワークショップ形式で行い、女性限定を解除として、「性的存在」としての自己認識と「いたみ」を分かち合うことで癒される過程を同一の空間で、体験する試み。

**ながれ** 会場には、香を焚いて演出。女性限定を解除した理由について、講師から説明。リラクゼーションを目的として、ゲームを楽しみながらグループわけ。全体のルールの説明。各グループでのルールづくり。AIDS について、知識の整理。女性の感染について。何故今まで知らないのか。の3つをテーマにして、話し合い、全体へフィードバック。講師よりコメント。参加者は、女性と AIDS についての諸問題を把握できた。その上で、今後どのように、参加者以外、次の世代に伝えていけばよいのだろうかというテーマに焦点を当てる必要性を、全体で認識して、最後に話し合った。瞑想と軽いボディワークをして終了。

**来場者感想**

ワークの行い方は参考になったが、もっと掘り下げてほしかった。女性の性感染の問題が男の身勝手な立場によって疎外されている事をした。しきりたがりの男性がいるのは、心地よくなかった。[女性]

毎年こんなに女性だけで、充実したワークをしていたのかとうらやましい。来年も限定解除で実施希望(男性)



**連絡先** 長谷川病院精神科  
 東京都三鷹市大沢2-20-36 FAX 0422-31-8878

No. 7	タイトル	ますます Positive
	主催	パトリック & 紳也

**ねらいとながれ** HIV Positive のパトリックと主治医であり友人の岩室医師のトークは今回で 6 回目。「HIV に感染している人」を画一的な目で見ると多い中で、人「パトリック」を全面に出し話を聞いた。

**内容** パトは現在 AZT、3TC、Indinavir の 3 種類の薬を飲みながらとりあえず CD4 が 300 を超えている。仕事が減ったこと、国道 246 沿いに住んでいたため喘息になりやむなく転居をした結果借金返済におわれていること、等々の日常の報告をした後「障害者」の視点からつい先日起こったことを話した。「障害者」であるパトは高速道路料金が半額になるなど多くの恩恵を受けている。しかし、航空料金は 25%引きだけ早割りを使えばもっと安い。障害者こそ早めに予約をとって無理のないスケジュールを組もうとするのに恩典が使えないのはおかしい。映画館も割引があるが深夜営業では割引が使えない。都営のプールは割引があるのに明治神宮にあるプールを利用しようとしたら割引がなかった。宗教学者なのに障害者に対する理解がないことは許せないと文句を言ったら割引引き制度を作ってくれた。日本人は文句ばかり言わないでもっと権利を主張するべきで、何より選挙で 1 票を行使しないのは理解できない。早く日本人になって選挙をしたい。いつものように聴衆（日本人）に説教をしながらストレス解消をしていた。でも、話すことでストレス解消ができ、おかげで長生きができそう、どうもありがとう (From パト)。

**来場者感想** 私はパトリックがゲイで本当に残念です。日本では好青年に「お嫁さんを世話してあげたい」というのですがそれはいやでしょうからやめておきますが、私の娘達を見たらあなたの気がもしかしたら変わるかもしれませんね (冗談)。パトリックの存在を知ったことは、今年の夏を切ないけれども心豊かな夏に変えてくれました。どうぞ、いつまでもお元気で。???/?/障害者としての見解等をストレートに話してくださって来て良かったなと思いました。この AIDS 文化フォーラムの意義の“文化”は毎年続けていくことの中で生まれてくるものであると思います。

<b>連絡先</b>	パトリック	岩室紳也	厚木市水引 1-16-36 県立厚木病院泌尿器科
	TEL&FAX 03-5725-2347	TEL046-221-1570	FAX 046-222-7836
	E-mail:pppcco@crisscross.com	E-mail:shin.iwamuro@nifty.ne.jp	

No. 8	タイトル	リラックスのためのマッサージ
	主催	エイズネットワークみやざき
	講師	小嶋文夫 (エイズネットワークみやざき代表/鍼灸師&薬剤師)

**ねらい** ストレスだらけの現代生活の中で、一時のリラックスタイムは、必要不可欠。このセッションでは、実技を中心に、ゆったりスッキリを体感。

**ながれ** 講師自己紹介。参加者となり同志自己紹介。波長合わせ。手の温もりを感じる。タッチング・パートナーはどう感じる？あなたはどんな感じ？  
快い感じ・安心を互いに確認しながら実習。

背中、腰、手・足のマッサージを通して、ゆったり&リラックスを実感。

**来場者感想** すごくリラックスできて良かった。  
相手の呼吸に合わせてって 他にも共通することだと思います。

<b>連絡先</b>	エイズネットワークみやざき 代表 小嶋文夫
	PHS 070-5494-7710 Eメール:genki@mxu.mesh.ne.jp

No. 9	タイトル	学校や地域に役立てる朗読ワークショップ	
	主催	H. I. Voice・ACT	
	講師	岡島 龍彦	協力 H. I. Voice編集局

ねらい 感染者・患者と家族の様々な声を伝える通信誌「H. I. Voice」を活用したワークショップの手法を紹介し、参加者それぞれが、学校や地域、家庭で応用しHIV/AIDSについての理解を広げていく。

発表内容・ながれ ①保健所などの事業として地域で実施する場合②学校の授業の中で実施する場合③AIDSボランティアのための講座として実施する場合を想定して、どのようなスタイルで伝えるかを具体的に解説した。まず、第一にリラックスすること。リラクゼーションとして①や③の大人対象の場合は、相互にパートナーを交換しながらのマッサージ（肩もみ）が有効→背後に立つ人と身体を触れながらのコミュニケーションは安心感もあり、非情に話しやすくなること、②の中高生を対象とする場合は、アップテンポな体操（エナジー）で一気に一体感を作ってしまうことなどを解説。

第二に楽しむこと。今回は参加者全員が豚・馬・牛・羊を選び、一斉に鳴き声を出しながら同じ動物同士が集まるという仲間探しゲームで、次の朗読で声を出すこと、耳をすますことに慣れてもらった。このほか、握手や、額に色シールを貼って仲間を探すゲームを紹介した。そして最後に感じること。H. I. Voice誌の抜粋文章を配り、全員で輪読し、感想を発表しあった。AIDSを入り口に「違い」と「同じ」を感じ、自分で考え自分のあゆみを意識する。

連絡先 横浜市金沢区並木 3-6-8-302 岡島龍彦 TEL&FAX 045-784-9659

No. 10	タイトル	知っていますか？HIV検査のこと
	主催	AIDSネットワーク横浜

ねらい エイズやHIV検査に対する一般の方々の認識を考察し、今後のボランティア動の方向性を話し合う。

ながれ

1. AIDSネットワーク横浜の活動内容紹介
2. アンケート調査を実施した主旨説明
3. 1493人分のアンケート集計結果報告
4. まとめと提言
5. 意見交換

来場者感想

- ・ボランティア活動でこれ程の調査データをしかも2000人を対象とする、集計作業に本当に頭が下がります。調査結果のまとめに対する参加者のするどい指摘や現状（現場）からの報告や実態など、数多くのご意見を聞かせていただき感動いたしました。ボランティア活動の皆様、今後とも頑張ってください。
- ・知識・問題点などわからないまま参加したのですが、アンケートの結果とそれに対する現場の方々を中心とした生の意見から、わずかながらではあるとは思いますがわかることもありました。これを機にこういったような様々な問題に関して取り組んでいこうと思うきっかけになりました。

連絡先 AIDSネットワーク横浜 TEL:045-262-8811 FAX:045-262-8812



No. 11	タイトル	エイズ教育 昔と今 (若者は今、何を考える)
	主催	弥栄東エイズ学習会
	講師	安藤晴敏 (県立弥栄東高等学校保健体育科教諭) 福本 礼・古木莉紗子・市丸光雄・石川博基・山口真央・鈴木美里 (県立弥栄東高等学校2年)

ねらい アンケート調査とエイズ教育実践からみるエイズ教育の昔と今の現状及び、現役高校生はエイズについて今何を考えているか。

内容 6年前の神奈川県下高校生全体のアンケートと本年度弥栄東高校1・2年に実施した結果の考察により、エイズパニックを経験した高校生と現在の高校生を比較し、現在の高校生はエイズにおける基礎知識や差別偏見等の知識上の理解はできているが、自分の問題になった時の対応に疑問がもたれる。知識上は危機感を持っていそうであるが、それが自分のものになっていない。本校で実践したエイズ教育の変遷を振り返ると、知識の習得を中心とし、生徒の生き方や、性に対する生徒自身の考え方を深く探る授業を行っていなかった。また、本校生徒とのフリートークで高校生がエイズをどのように考え、どのように教育されてきたかをテーマに、自由な発言の中で、話はエイズ教育にとどまらず、学校教育全般に渡った。現在の学校教育における知識とは期末試験が終わると忘れてしまうそうである。学校教育に生徒自らが参加し、自ら学ぶ姿勢の必要性を痛感した。

来場者感想 今の教育現状や高校生の声を聞く有意義であった。/ 現状の必要足るべき教育というものを考えさせられた。/ 高校生の生の声が聞けて良かった。

連絡先 県立弥栄東高等学校 安藤晴敏

No. 12	タイトル	タイ北部の子どもたちとエイズ
	主催	主催：横浜YMCA
	講師	スワン・リムサンファン (バンコクYMCA)
	協力	草の根ネット「麦の会」 通訳 福田なりこ

ねらい HIV/AIDSの問題は世界中に拡大している。特に途上国ではHIV感染者が急増しており、最近では母子感染や、AIDS発症で保護者をなくしたエイズ孤児の問題が深刻化している。今回はタイにおけるHIV/AIDSの現状と問題や、現地での取り組みについて理解を深め、自分たちに何ができるのかを考えることをねらいとした。

ながれ 前半ワークショップ (自己紹介・HIV感染シュミレーションなど)  
後半タイのHIV/AIDSについての現状報告 (スライドを使用)

来場者感想

- ・タイのエイズ感染者の現状についてよくわかった。特にタイの伝統的な性意識についてはあまり知られていないので少し驚いた。
- ・エイズ孤児の抱える問題の大きさを知った。
- ・通訳がわかりやすくて良かった。
- ・教育がいかに大切かということがわかった。
- ・現地で活動している人から直接話をきけてよかった。



連絡先 横浜YMCA 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7  
TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169

No. 13	タイトル	保健福祉職・ホームヘルパーのためのエイズ講座
	主催	AIDS文化フォーラム実行委員会(プログラム委員会)
	発言者	横浜市立大学附属病院 藤崎氏(病院のソーシャルワーカーの立場から) 町田市役所障害福祉課 富岡氏(ケースワーカーの立場から) 横浜市福祉サービス協会 綱氏(ホームヘルパー研修担当の立場から) 茅ヶ崎保健福祉事務所 星野氏(保健婦の立場から)
	協力	県立厚木病院 杉田氏(ソーシャルワーカー)
	進行	北里大学病院 取出(ソーシャルワーカー)

ねらい PWAが身体障害者手帳を利用できるようになって一年半、医療費の助成制度だけではなく、本当の意味で「地域で生活を支援する」ことが保健婦・訪問看護婦・福祉事務所ケースワーカーやホームヘルパーに求められる。求められている支援を提供できているか、支援にあたって知らないこと、わかちあいたいこと、不安なことをわかちあう。

ながれ 発言者それぞれの立場からの発言と会場とのフリーなディスカッション

来場者感想 HIVに関する基本知識があり、かつヘルパーとしての基本知識があつて、ヘルパーのためのAIDSに関する討議が出来るのだと思う。/経験豊富な方の話を聞きたかった。/ヘルパー依頼が少ないと聞いて驚いた。/今日の討議は10年前にNGOでも交わされていた話だと感じた。来年続きの講座を是非とも期待している。/福祉事務所における対応はシステム自体がプライバシー保護に限らずソーシャルワークの質の格差も貧困なのだと痛感。/これから日本各地で今日のようなプログラムが必要になる。

連絡先 AIDS文化フォーラム実行委員会

No. 14	タイトル	医療者と患者のコミュニケーションギャップをなくすために
	主催	AIDSネットワーク横浜(ANY)
	講師	佐々木昭仁、大谷重夫

ねらい ANYではHIVを持つ人、彼らの身近にいる人をサポートする中で医療者の意思の疎通や治療者の説明など悩みが大きい事を知った。医療者、患者、NGOがそれぞれの立場で意見を出しあい解決に繋がる方向を会場の参加者も交え考えていきたい。

ながれ

1. ANYがPWAをサポートしてきた中で起きたケースについてのケースレポート。  
(服薬、経済的な負担、告知、プライバシー)
2. ケースレポートを受けてそれぞれの立場での発言。  
・医師、患者、看護婦の立場から。
3. 解決に向けての提案。
4. 会場の参加者と講師とのディスカッション
5. まとめ。

来場者感想 医療を受ける立場の話をたくさん聞いてとても参考になった。/ケースレポートを会場にも配ってほしかった。/多様な意見が聞いて参考になった。/医療スタッフのモラル等当事者の意見が聞いて良かった。/看護婦さんの話を聞き、また自分の経験からその役割の大切さを痛感した。/テーマが多かったので少し減らし、余裕のある展開が出来れば更に良かった。意見を述べようとしても時間を気にしてしまった。

連絡先 AIDSネットワーク横浜 TEL: 045-262-8811 FAX: 045-262-8812

No. 15	タイトル	医師が語るエイズ基礎講座—ドラマづくりの舞台裏から見たエイズ—
	主催	岩室紳也 (神奈川県厚木保健所医師)

**ねらいとながれ** 1998年夏にフジテレビで放映された「神様、もう少しだけ」はHIVに感染した少女真生と恋人啓吾の純愛物語であった。しかし、HIVの感染経路が援助交際であったこと、AIDS発病までの期間が3年と短かったこと、出産が経膈分娩であったこと等が一部から批判され、「HIV/AIDSを正しく描いていない」という声があった。医学的なシーン中心に編集し、医療指導を担当した医師がコメントしながら上映をした。



**ポイント** 現代の若者の心理をうまくとらえたオープニングと、所々にちりばめられたプロデューサーの「お説教」の面白さとドラマの内容が医学的に矛盾がなければ医療指導担当者は設定を変えられないことから説明。援助交際の場面でコンドームを使っていればドラマは成立しなかった。感染翌日のセックスでは啓吾は感染しない。針刺し事故はテロップで「三ヶ月後」と明記。告知は未成年でも本人直接（と事前にインフォームドコンセントしてあった）。「三年後」とテロップに出したのは発病時期を明らかにするため、早かったのは薬が飲めなかったことと啓吾に振られたストレスが原因。啓吾がコンドームを使わなかったのは「おれのことはおれが決める」とHIV感染は自己責任であると岩室の考え。出産は感染していてもできるが、帝王切開ではなく経膈になったのは切迫早産等の合併。子供の感染を否定するのに10ヶ月（子供がつかまり立ち）はかかる。死因はHIVによる拡張型心筋症で激しい運動は禁止されていた。

**来場者感想** ドラマをみていて気になっていたことがすべてわかってよかった。／ 트렌ディードラマは見ない質なので放映された頃は見てなかったがエイズ教材として大変面白かった。／確かに設定には無理がありましたが、うそのないことがわかりました。

**連絡先** 岩室紳也 〒243-0004 神奈川県厚木市水引2-3-1 神奈川県厚木保健所保健予防課  
TEL046-224-1111 FAX 046-225-4146 E-mail: shin.iwamuro@nifty.ne.jp

No. 16	タイトル	ゲイユース・セッション
	主催	動くゲイとレズビアン会 (アカー)
	講師 (進行)	柏崎正雄、太田昌二

**ねらい**  
ゲイユースが同性愛について肯定して、HIV/エイズについて話したり、考えたりする機会が少ない中で、小人数で「ゲイライフとエイズについて」話し合った。

**ながれ**  
参加者は計8人あり、(1)自己紹介 (2)今、問題意識をもっていること (3)自由討議の順で進行した。

**来場者感想**  
とても面白いセッションだったと思います。／自分で悩んでいたことや考えていたことをみんなと話し合うことができ、とても嬉しかったです。／いろんな意見をシェアできて良かった。／うーん。いろいろ考えました。

**連絡先** 動くゲイとレズビアン会  
〒164-0012 東京都中野区本町6-12-11 石川ビル2階 OCCUR 内  
TEL 03-3383-5556 FAX 03-3229-7880 E-mail occur@kt.rim.or.jp

No. 17	タイトル	新しい「エイズに関する特定感染症予防指針」理解のために
	主催	動くゲイとレズビアンのか
	講師	大石 敏寛 (公衆衛生審議会エイズ指針作成小委員会委員) 稲場 雅紀、菅原智雄 (動くゲイとレズビアンのか指針対策ワーキンググループ)

ねらい 「エイズに関する特定感染症予防指針」の経緯・内容の報告と検討。

ながれ まず主催団体の稲場より、これまでの日本のエイズ対策の問題点の整理、エイズ指針の法的な位置づけ、エイズ指針の内容についての報告が行われました。ついで大石が、患者・感染者の委員として起草作業に参加しての感想と、感染者の立場から指針の内容についてどう考えるかを講演、最後に菅原より、本指針で新しく導入された「個別施策層」という概念をどのように地域の施策に結びつけるかという報告がありました。

来場者感想 日本では当事者参加による政策立案が遅れており、もどかしいことが多いので、当事者委員の話に感銘を受けた。／感染症医療・予防法の施行の中でエイズ対策はどうなるのか疑問を持ちながら、職場が変わってしまったので、勉強する機会があつて嬉しく思います。／外国人労働者の多い地域でもあり、不法就労者(担当者注：在留資格のない外国人)のエイズ問題についての対策の必要を感じています。

連絡先 動くゲイとレズビアンのか <資料請求等は 担当：稲葉 雅紀まで>  
〒164-0012 中野区本町6-12-1 石川ビル2F OCCUR内  
TEL 03-3383-5556 FAX 03-3229-7880 e-mail occur@kt.rim.or.jp

No. 18	タイトル	ぼーたま報告 (サポートとしての食・料理)
	主催	ぼーとたまがわ

内容 最近は何故か「エイズ」「AIDS」「HIV」の文字すら目に入ってくるのが、極端に少なくなってきました。それらの影響でしょうか、「エイズ」に対する関心が薄れてきているのは、とても残念な事です。そうした風潮の中で、毎年開催される「AIDS文化フォーラム」の果たしている役割は、とても大きいと思います。

感染者への直接支援を行っている「ぼーとたまがわ」では、今回も前回(昨年)に引き続き「食」について広く考え、継続をしている勉強会「レクチャー&クッキング」の内容紹介や解説を行いました。食にまつわる様々なことを、まずは理論で学び、その後、実際に手を動かす料理教室という勉強会です。レクチャーと担当している先生、クッキングを担当している先生が、それぞれに、今まで行ってきた内容について、そしてそれぞれの立場から伝えたいことを話していただきました。話の中には専門的な部分もありましたが、内容はとても素晴らしいものでした。また、進行構成上の反省と致しましては、当日、会場には実際にこの勉強会に毎回参加している方が数人いらっしゃいましたので、その方々の感想を直接聞く時間も設けていれば、他の方々に対して内容が、より身近に感じられたのかも知れません。今回は手作りの試供品を持ち込む努力をしての「食」へのアピールを行いました。

次回は「直接支援のぼーとたまがわ」として「感染者が今を語る(仮題)」と題して、感染者自身に、感染後の今の状況・問題点・心情について語ってもらい、それに対して参加者の感想を聞き、しばしの時間、AIDSを取り巻くいろいろな事柄について、自分の身近なこととして語り合ってみたいと考えております。…次回もぜひご参加をいただけたらと思います。

連絡先 ぼーとたまがわ 〒214-0012 川崎市多摩区中野島6-7-9 ともえ荘1F  
TEL&FAX 044-900-9180

No. 19	タイトル	「子ども買春・子どもポルノ根絶に向けて」
	主催	ストップ子ども買春の会
	講師	中原真澄 (同会共同代表)

**発表のねらい** 今年成立した「児童買春・児童ポルノ処罰法案」の考え方の説明に併せ、今後の有効な執行のため、および3年後の見直しに、私たちが取るべき考え方と行動を話し合う。

**発表内容** 1. タイでの AIDS と買春低年齢化, 2. ポルノ生産基地としての日本の現状, 3. 法律の内容; ①子どもの権利擁護, ②買春を処罰, ③非親告罪, ④国内外での人身売買, ⑤国外犯の確実な処罰, ⑥子どもポルノ頒布等の処罰, ⑦教育・啓発等と総合的な協力体制整備, 4. ECPAT の立場; ①子どもの人権が最優先。②視覚に限定せず, 実際か疑似かを問わない。③単純所持も, ④趣味的な交換も処罰。⑤ポルノ出演の同意年齢を 18 歳 (親が認めても駄目)。⑥合成画像も禁止, ⑦プロバイダーの役割, ⑧子どもの被害を防ぐ教育・地域の体制, 5. 3 年後の見直しに向けて; ①国内行動計画の早急な策定, ②子どもポルノ定義の見直し, ③単純所持の禁止・処罰, ④被害者である子どもが安心して相談できるシステムの立ち上げ。

**来場者感想** 少しでも良い方向に進めるよう自分でも行動できることを考えたい/最新の情報を得られた。今後 ECPAT にも参加したい/人権の尊重=私が大切なら他の人も大切という当たり前のことが疎かになっている/売れ・売れと煽るのは大人・産業界, だから構造的。それが商業的搾取と言われる所以/声を上げられる私たちが少しでもやれることをやっていかなければ 等

**連絡先** ストップ子ども買春の会  
〒160-0003 東京都新宿区本塩町7, 日本 YMCA 同盟内  
Tel.03-3352-7903, Fax.03-5367-6641, e-mail : [stop@jca.apc.org](mailto:stop@jca.apc.org)

No. 20	タイトル	エイズ教育における感染者の役割
	主催	せかんどかみんぐあうと
	講師	大石敏寛、他

**ねらい** 感染者がエイズ対策において果たすべき役割を考える。

**内容** この企画では、せかんどかみんぐあうとの行なっている講演活動にスポットをあてて、感染者の役割にはどんなものがあるのかを考えました。今回の企画は感染者自身による活動の効果やその意味について考えるきっかけをつくるものでした。前半では、せかんどかみんぐあうとが目的としている当事者としてのエイズ問題への取り組みの説明と、その一環で行なっている講演活動の意味と取り組みの現状について話し感染者の活動の意味を考えるきっかけにしました。後半部分ではディスカッションをおこないました。テーマは感染者との共存のために必要なことと、その実現のためにできること、できないことをあげ、できないことを実現するにはどんな風にしたら良いのかを話し合いました。参加された方は教育現場の方など実際に自分の分野でエイズに関わる活動や仕事をされている方も多く、話し合いはとても充実したものになりました。



**連絡先** せかんどかみんぐあうと  
東京都中野区本町6-12-11 石川ビル2階  
電話 : 03-5385-0542 ファックス : 03-3229-7884

No. 21	タイトル	はじめての性教育—中高校生編—
	主催	横浜エイズ勉強会

ねらい 自分の性のことを抜きにしては、性感染症としてのHIVやAIDSのことを考えたり、主体的に理解することは難しいのではないのでしょうか。先生や親が一方向的に教えるのではなく、ゲームやシミュレーションで実際に身体や脳みそを使って性のこと、HIV/AIDSのことを一緒に考える環境を作りたいと私たちは考えています。このプログラムでは1年間私たち横浜エイズ勉強会が、中学校や高校で実際に行なったワークショップを中心に中高生向けのアクティビティを紹介しました。中高生の参加者には、実際に体験して、自分で発表し、考えることによって、自らの「気づき」を深め、HIV/AIDSに関する理解を経験的に感じてほしいと思いました。また、学校教育や保健衛生に携わる成人の参加者には、教育現場における性教育やエイズ教育のアプローチのヒントになったり、私たちのようなグループを上手に活用するきっかけとなればと思っています。

ながれ 1. アイスブレイク 2. YES/NOゲーム 3. 感染シミュレーション 4. エイズの基礎知識 5. コンドームの正しい装着法 6. お茶会

来場者感想 YES-NOゲームが面白かった。自分の考え方が、自分ではじめてわかったような気がしました。/中高生の参加者からも正直な感想が聞かれ、現場での性教育をもっと充実しなければと改めて思いました。/参加者がリラックスできる工夫からはじまって、どれも楽しく参加できました。/コップのシミュレーションみたいなものは参加しやすく理解してもらいやすい。

活動場所・連絡先 横浜エイズ勉強会 <活動日：毎月第1・第3土曜日 18:00より>  
〒231-0014 横浜市中区常盤町1-7 横浜中央YMCA NPOサポートセンター内  
TEL 045-662-3721 FAX 045-651-0169 E-mail motomura@yk.rim.or.jp  
お問合せ TEL 046-264-3235 (大和YMCA・高村)

No. 22	タイトル	開成水神太鼓 演奏会
	主催	AIDS文化フォーラム実行委員会
	演奏	開成水神雷太鼓保存会 12名
	協力	開成町教育委員会

ねらい 1. 和太鼓のエネルギッシュなリズム、奏者を生演奏で感じる。2. 保存会のメンバーにAIDS文化フォーラムを知ってもらう。3. AIDS“文化”フォーラムを盛り上げる。

内容 8月7日(土)に2回演奏を行う。

1回目/12:20~12:40 3曲演奏。2回目/15:20~15:40 4曲(アンコール含む)演奏。

演奏団体 神奈川県足柄上郡開成町の歴史に残る郷土芸能を永久保存するために、平成2年5月に結成された団体。開成町のあじさい祭りや県下のイベント等に参加し、演奏活動を行いながら後継者の育成を行っている。

来場者感想 佐賀にも「はがくれ太鼓」等いくつかの組があります。こちらは女性が多いので華やかですね。九州の男性的な太鼓を久しぶりに聞きたくなりました。/迫力があり、ファイトが腹の底からわき出るような気分になりました。/気持ちの良い時間をありがとう。/元気になる。素晴らしい。



連絡先 AIDS文化フォーラム実行委員会

No. 23	<b>タイトル</b> ちょっと待って！ピルって安全なの？ <b>主催</b> からだのおしゃべり会 <b>共催</b> 「エコロジーと女性」ネットワーク <b>スピーカー</b> 森 冬実・吉田由布子
--------	---

**ねらい** 6月16日厚生省は16品目のピルを一括承認したが、その中にはヨーロッパで規制のかかった「マーヴェロン」も含まれている。海外での死亡事故や訴訟の現状を報告し「薬害」にもつながりかねないピルの問題点への理解を深めてもらう。

**ながれ** アメリカでピルの副作用被害者のビデオ放映。

(吉田) 日本でのピルの臨床試験と、厚生省の審議の問題点ならびに現在の海外での死亡事故や訴訟の現状を報告。(展示の部 参照)

(森) 出産や中絶の立ち会いなどを続けてきた活動から、ピルが健康を害しその後のお産も難しくするなどの現状を報告。自分のからだは自分でまもるセルフ・ヘルプの考え方や避妊を医療化するピルは相いれないことを報告。

<b>連絡先</b>	準備出産&からだのおしゃべり会 (森 冬実方) TEL 03-3386-0382 「エコロジーと女性」ネットワーク (吉田由布子方) FAX 047-430-3702
------------	--

No. 24	<b>タイトル</b> 生活の中でアロマセラピーを楽しむ <b>主催</b> (社) 日本家族計画協会クリニック <b>講師</b> アロマセラピーアドバイザー、助産婦 清水 敬子
--------	--

**ねらい** いつもいつも時間に追われて忙しい・・・そんな私たちの毎日には、悩み・イライラ・ゆううつなことがたくさんあります。そんな時、香りを快く感じほっとしたり、疲れを感じると自然に手で肩や足をなでたりします。私たちは、香りや手に癒す力があることを本能的に知っているのかもしれない。アロマセラピーは植物の持つ自然な芳香を使ってストレスを取り、こころを落ちつかせてくれます。アロマオイル(精油を植物油で希釈したもの)を使ったマッサージは皮膚を通して有効成分を身体に浸透させる方法です。その時行われるボディタッチによる肌の触れ合いは安心感やリラックスにもつながり、精神的にもすばらしい効果をもたらすことができ、心身両面に有効なものといわれています。最近では、医療や介護・ケアの場にも使われはじめており、ケアを受ける人だけでなく、ケアする側にもその効果は評価されてきています。

**ながれ**

- ① 家庭でアロマセラピーを楽しむための安全基準・精油の希釈濃度・保存方法について
- ② アロマオイルを使ってのマッサージの紹介
- ③ 温足浴・ハンドマッサージ・背中と肩のマッサージなどを実施

**来場者感想** 話しだけでなく実践的なものも組み込まれていて楽しく過ごせた。／とても気持ちがよかった。／普段なかなか体験できないので、とてもゆったりと気持ちよいひとときでした。／人と人と触れ合う安心感を感じることができました。／穏やかな雰囲気の中で芳香がいつそう身体をリラックスさせてくれました。／アロマポットで香りを楽しむことはやっているが、マッサージもぜひやってみたい。

<b>連絡先</b>	(社) 日本家族計画協会クリニック 〒 162-0843 東京都新宿区市ヶ谷田町 1-10 TEL: 03-3235-2694
------------	--

No. 25	タイトル	はじめての性教育—おとな編—	協力	H.I.Voice Act
	主催	横浜エイズ勉強会		

ねらい このプログラムでは1年間私たち横浜エイズ勉強会が、ボランティアグループや自治会など、成人を対象に行なってきたHIV/AIDSのアクティビティを紹介しました。夫婦や恋人、友達に、または子どもや孫に「伝え」「語り」「学び会う」ための性教育、AIDS教育の提案です。ゲームなどで実際に身体や脳みそを使って性のこと、HIV/AIDSのことを一緒に考える環境を作りたいと私たちは考えています。また、この1年間ワークショップの共催もしてきたH.I.Voice Actの協力を得て、H.I.Voiceの朗読も内容に入れました。HIV/AIDSに関わる様々な立場の人の声を聞くことで、HIV/AIDSの問題を身近に感じてもらえたらと思っています。一般の参加者には、言いにくいと思われる性のことやエイズ的话题をこんな風にすれば話せるといった提案ができればと思いました。また、教育や医療の現場の方、他のボランティア団体の方には、HIV/AIDS啓発活動で他団体とジョイントした例として紹介できたらと思いました。

ながれ 1.アイスブレイク 2.YES/NOゲーム 3.エイズの基礎知識 4.コンドームの正しい装着法 5.H.I.Voice朗読 6.お茶会

来場者感想 皆さんの意気込みと姿勢を感じました。その学びあおう、人の声を聞こうという会の進み方にあったかいものを受取って終わることができて、うれしく思います。／とてもとても基礎的なところのお話でした。

活動場所・連絡先 横浜エイズ勉強会 <活動日：毎月第1・第3土曜日 18:00より>  
〒231-0014 横浜市中区常盤町1-7 横浜中央YMCA NPOサポートセンター内  
TEL 045-662-3721 FAX 045-651-0169 E-mail motomura@yk.rim.or.jp  
お問合せ TEL 046-264-3235 (大和YMCA・高村)

No. 26	タイトル	東京地裁の判決から控訴まで
	主催	鹿児島大学HIV訴訟を考える会
	講師	原告 中前康友

ねらい 裁判に関する詳細説明と報告

ながれ 前半 一審判決の報告と経時的説明  
後半 参加者とのディベート

来場者感想

連絡先 鹿児島大学HIV訴訟を考える会  
TEL 042-358-1031 E-mail xb3y-nkme@nifry.ne.jp



No. 27	タイトル	3年B組 ホン 先生
	主催	サークルホン

**ねらい** 学校の中で当事者が（自分にはエイズだと）（エイズだと）カミングアウトとしたらどんな問題が起こるだろうか。

**ながれ** 中学校で国語の授業を行なうつもりだったホン先生が、隣のクラスの生徒がアレルギーが原因でいじめられている事を知りました。その生徒は、アレルギーによるアトピー性皮膚炎を（エイズだ）と言われいじめられている事から、ホン先生は、授業を変更し（エイズ授業）を行ない、ホン先生自身がHIV感染している事を生徒の前で、カミングアウトして、エイズの体験談そして、治療法などについて話しました。

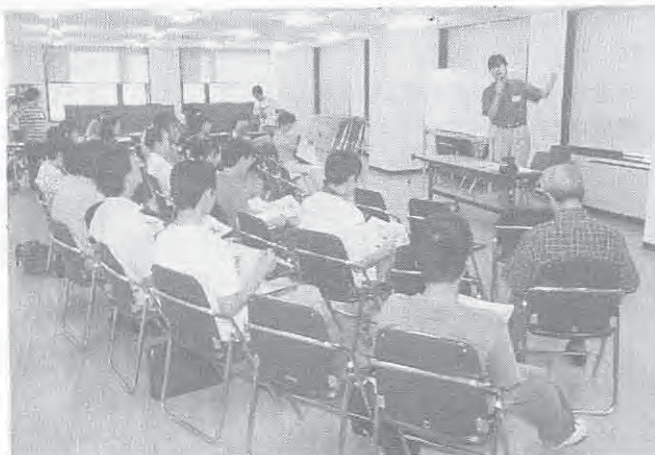
**来場者感想** HIVについてまだ知らない事がたくさんありました。3年B組ホン先生のを聞いて少しは、わかったけれど、きちんとわからない。でも、ホン先生は、質問にきちんと答えていたので、すばらしいと思いました。／ホン先生の話は、すごく良かったです。エイズについて、今までよりよくわかりました。／今までは、エイズというと、偏見を持ってしまったりしていました。もっとよく勉強しなければならないと思いました。今日は、重要な話をありがとうございました。

連絡先	サークルホン 代表 洪 久夫（ホン ヒサオ）
	〒164-0003 東京都中野区東中野3-16-8 山水ハウス103号室
	電話 03-5386-0338 携帯 090-2912-0752

No. 28	タイトル	新聞記者が語るエイズ —エイズ検査を受けてみて—
	主催	神奈川新聞「よこはま瓦版」取材チーム
	講師	鈴木 博喜／菱倉 昌二

**ねらい** 地域でエイズ啓発報道に携わっている記者がいることと、記者が何を考えて日々の取材をしているのか、その一端を知ってもらえればと思った。

**ながれ** 神奈川新聞で積極的にエイズ関連の記事を書いている鈴木は、自分がエイズに関心を持ったきっかけや、これまでに執筆した記事についての概要や裏話を話した。6月にエイズ検査（抗HIV抗体検査）を受けた体験をルポ記事にまとめた菱倉は、なぜ検査を受けたのか、なぜ掲載を思い立ったなどの経緯を、中学校時代に受けた性教育の実態や、現在のパートナーとの関わりなどを交えながら話した。質疑応答では、鈴木が執筆した記事中にある「彼女のエイズ検査結果はもちろん非感染だった」の「もちろん」について、その是非を問う論議が繰り広げられた。



**来場者感想** (1)エイズに関する事を理解して記事にしている記者の、取材の背景がよく分かった。(2)エイズ検査の詳しい内容について、もう少し説明してほしいかった。(3)エイズ検査を受けたあなた（菱倉）は、どうせ興味本位だったのだろう。タイでは毎日たくさんのエイズ患者が死んでいるのをあなたは知っているのか。そういう実態があることを、彼女と一緒に現地に行けばいい。

**主催者感想** 一人当たりの持ち時間が少なく言葉足らずの面があり、反省している。講座の途中で出入りし、話を半分しか聞いてない方々に、こちらの意とするものがきちんと伝わらなかったようで、とても残念だった。

連絡先	045-411-7648（神奈川新聞社編集局）
-----	-------------------------

No. 29	タイトル	性的指向と健康問題	
	主催	動くゲイとレズビアンのか (アカー)	
	講師	風間孝・野崎真治	司 会 菅原智雄

ねらい HIV 保健医療・相談の現場のために、同性愛者が抱えているエイズ問題、同性愛者が置かれている状況との関係性についての理解を深め、普段の活動に役立てて貰う。

ながれ

- (1) 同性愛と異性愛の理解
- (2) 電話相談の現場から
- (3) 質疑応答

来場者感想

心の中の葛藤とエイズ (セーフセックス) についての関係がとてもよく分かった。同性愛についてあまり学べるチャンスがなく、本日のお話し、資料が大変参考になりました。同性愛=SEX、STD、AIDSというイメージでネガティブに捉えていた部分があることに気付かされた。



連絡先 動くゲイとレズビアンのか

〒164-0012 東京都中野区本町 6-12-11 石川ビル 2階 OCCUR 内

TEL 03-3383-5556 FAX 03-3229-7880 E-mail occur@kt.rim.or.jp

No. 30	タイトル	ピル・ワークショップ Part.2	
	主催	AIDS&Society 研究会議	講師 池上千寿子・野田和子

発表のねらい

今秋に解禁される低用量ピルについて参加者自身が考える機会をもつこと。また、HIV/STD や避妊、性の自己決定、ネゴシエーションについて、ロールプレイやグループワークなどのワークショップを通して、参加者が主体的に体験し、みずから考える方法を学ぶこと。

発表内容

- ・オリエンテーション：本研究会議の活動紹介→「ピル・ワークショップ Part.1」の報告→ピルについてのレクチャー→本ワークショップの趣旨説明
- ・アイスブレイキングとグループ分け：ゲームにより参加者の緊張をほぐし、お互いを知り合う。
- ・ロールプレイとフィードバック：保健所での STD 検査でクラミジア陽性とわかった男性と、ピルによる避妊を実行している女性との間で、どのようなネゴシエーションがなされるか。
- ・デザインスゴロク (物事を構築し直し、新たな概念を生み出すための発想法の1つ) によるポイントの整理：ロールプレイの経験を活かして、「性の健康管理と自己決定を自分のものにするために、パートナーとのネゴシエーションに必要な考えや手法」を整理する。
- ・参加者による発表：OHP を用いて、整理した内容をグループ (ペア) ごとに発表を行う。
- ・主催者からのコメント：参加者の発言に考慮しながら、出された内容に関しコメントを行う。

来場者感想 体験する内容だったので、ピルやネゴシエーションについて自分のこととして考えられた。デザインスゴロクは難しかったが、新しい発想法としておもしろかった。

連絡先 〒162-0045 東京都新宿区馬場下町 60 まんしょん早稲田 401

TEL&FAX : 03-3200-0399

E-mail : tarui@flet.keio.ac.jp

No. 31	タイトル ヤング・シェアリング・プログラム 主 催 HIVと人権・情報センター
--------	--

ねらい これからの時代を担う若い世代が、差別や偏見なく一人ひとりの人権を尊重し、自分を含めてすべての人の生命を大切に共生の社会をつくっていくことを目指す。若い人たちが性や AIDS について考えたり気づくためのきっかけとして、同じ立場の若いスタッフが彼らと共に分かち合うプログラム。

ながれ 今回は、参加者の皆さんに高校生になりきっていただき、模擬プログラムを実施した。一方的な講義形式ではなくゲームやグループワークを交えて学ぶ。プログラムの内容は、HIV と AIDS についての基礎知識、セーフターセックスに関して自己決定できるようにするためのコンドーム実習、コンドーム使用交渉のロールプレイ、セックス以外の愛情表現を考えるワーク、感染者の手記を読んで話し合う共生のためのワークなど。

来場者感想 とても良かったです。勤務先の高校にもぜひ来ていただきたいと思います。／初めて参加しましたが、とても楽しく参加することができました。若い方がここまでうまく進行されることにおどろかされました。／とても充実したワークに大変勉強になり、元氣もわいてきました。

連絡先	HIVと人権・情報センター 東京支部事務局 Tel&Fax 03-5259-0622 名古屋支部事務局 Tel&Fax 052-831-2290
-----	---

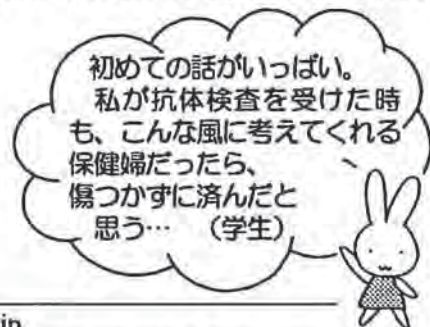
No. 32	タイトル 保健婦とHIV/AIDS ～地域から見てきたもの～みんな本音の座談会 主 催 わたらいむつこ 協 力 大谷重雄 (HIV感染者) (Thanks : ボランティアの皆さん 清彦君 さなえ号 ななちゃん)
--------	--

ねらい 感染者・患者の方、ボランティア・NGO、行政、それぞれが大事な役割を持っています。ボランティア・NGO、行政のそれぞれが自分達の立場を再認識し、そして、お互いに協力・活用しあい、より意味のある活動を展開していくことを目的に座談会を行いました。

ながれ 感染者・患者の友人、ボランティアメンバー、保健所保健婦という中正な立場で、座談会を進めさせていただきました。ゲストとして親友の大谷さんを招き、様々な立場から自由に本音を話し合える座談会となりました。ボランティア・NGO、行政として、知識を伝える事はできます。しかし、それ以上に、どこまでピアな関係で対等な立場になれるか、かわいそうという気持ちで押し付けになっていないか…等々、改めて考えていきました。これらの意見から、お互いに歩み寄り活用しあい、本当の意味での活動をしていこうと話し合われました。

#### 来場者感想

- ・皆が柔らかい雰囲気の中で一緒に話し合えた。(ボランティア)
- ・ボランティア活動の重要さが分かった。(検査技師)
- ・保健婦は知識だけでなく共感できる心が大切。そして、多くの人と出会い視野を広げていきたいと感じた。(保健婦)



連絡先	わたらいむつこ E-mail : mutsuko@nub.biglobe.ne.jp TEL : 090(2272)0122 〒990-0067 山形県山形市十日町 1-6-6 (村山保健所)
-----	---

No. 33	タイトル	免疫力を高めるためのマッサージ
	主催	エイズネットワークみやざき
	講師	小嶋文夫 (エイズネットワークみやざき代表/鍼灸師&薬剤師)

ねらい 鍼灸医学の基本治療理念は、その人が持つ「自然治癒力」を引き出すこと。このセッションでは、皆が本来もっている「パワー」を応援し、「気持ちいい!」を皆で共有することを目的とする。

ながれ 参加者がペアをつくって自己紹介。それぞれのバリアを少しずつ除く。「手当て」の意味を体感。マッサージの注意点・基本手技・テクニックをOHPを使って解説。背中、肩、足裏、手のひら、腰臀部等のマッサージを通して、「気持ちいい!」を体感。「気持ちいい!」は、いい事!! その時があなたの「免疫力」を高めるチャンス! さらに、潜在意識に働きかけ、あなたの夢も叶うかも!

主催者感想 終わったあとの参加者の笑顔に「このセッションはうまくいった!」と実感。はじめての実験的な試みであったが、参加者の間に漂う不思議な雰囲気、同じ場所を共有する安心がこちよかった。これってピアな関係!?

来場者感想

連絡先	エイズネットワークみやざき 代表 小嶋文夫
	PHS 070-5494-7710 Eメール:genki@mxu.mesh.ne.jp

No. 34	タイトル	中学校でのAIDS教育の実践報告と中高生のトークセッション
	主催	BeeHIVE市川 協力 米崎美智子さんと堀江中卒業生

ねらい 今、学校ではAIDS教育はどんな内容で実施されているのか。千葉県の市川と浦安、二つの市の報告と、それらの授業を受けた生徒の皆さんを交えて、中学生・高校生の本音を弾き引き出したい。

内容 中学校にPWAをひとり招き、思いを語ってもらう授業風景をビデオで上映、その後、中学生、高校生にAIDSとのかかわりやボランティアを通しての人とのかかわりや日常の話の中から、何を思い、どんなことを考えているのかなどが、語られた。

来場者感想 中学生、高校生の本音が聞けてよかった。「性の教育は生き方教育」とか「繰り返しの教育が、必要」とおっしゃって、実際教育を実践されている二人の先生のお話は、説得力がありました。参加した中高生が、自分の言葉でしっかり発言できていることにも感心しましたが、本心で誠実に子どもに接する先生方がいらっしゃるからこそ、子どもたちの育ちであるのではないかと思いました。危機感を持ちながら、今、何をどうしたらよいかということを考えています。考えた結果、このプログラムに参加しました。現実には、フロアの声のまま、それ以上かもしれません。AIDS教育についてテキストが、あるわけでもありません。でも、新しい教育の動きがある今、(総合的な学習など) 働きのかっかけを探しています。発言した前田さん、大学生の梅村さんのような方が総合学習の中で「教える」事ができればいいなあと思いました。ピアカウンセリングとかのピアの考え方になるのでしょうか。

連絡先	BeeHIVE市川
	千葉県市川市鬼越 2-6-16 TEL&FAX 047-334-8881

No. 35	タイトル	ピアカウンセリングへの取り組み		
	主催	ライフ・エイズ・プロジェクト (LAP)		
	講師	清水茂徳、他		

ねらい 私たちは社会福祉・医療事業団（高齢者・障害者福祉基金）の助成を受け、今年度3回のピアカウンセリング研修を行っている。そのピアカウンセリングがHIVコミュニティのエンパワメントにどういったインパクトを持ちうるのかを参加者と一緒に考えていく。

- ながれ
- ・ピア (peer) カウンセリングについての解説
  - ・ピアカウンセリング研修 (2泊3日) の概要紹介
  - ・ピアカウンセリング研修参加者の研修体験とその後の実践についての発表
  - ・来場者を交えたディスカッション

来場者感想：

- ・対等な立場で行われるピアカウンセリングと専門家によるカウンセリング。それぞれに利点があるのだと感じた。
- ・ピアカウンセリング研修の雰囲気を感じとれた。参加を検討してみたい。

---

連絡先 ライフ・エイズ・プロジェクト (LAP)  
〒100-8691 東京中央郵便局私書箱 490 号  
TEL03-5685-9716 FAX03-5685-9703 E-mail lap@lapjp.org  
HomePage <http://www.lapjp.org/>

---

No. 36	タイトル	オリジナルビデオ「Positive Voices」の上映と地域における直接支援活動についての研究報告		
	主催	ぶれいす東京	進行	池上千寿子 生島嗣 野坂祐子

ねらい ビデオの前にたち、感染したことやその後の生活を話してくれませんか？そんな願いを快諾してくれた2人。そしてパートナーや同僚まで参加してくれ、セクシュアリティ、セックス、家族パートナー告知などについて率直に語ってくれた。こんなビデオは初めてです。音楽もオリジナル。ウイルスや免疫の話ではなく HIV と共に生きることのイメージがわきあがります。ビデオの後はスライドを使って、「HIV 陽性者によるカウンセリング等への認知および評価について」「陽性者のための相談活動、バディ活動からみるニーズの変化分析」を発表します。治療方が進んで多様化個別化したニーズ、情報支援から生活支援へのシフトがあきらかです。

ながれ 303号室にあふれそうな参加者でまずビデオが上映され、出演者の「語り」に聞き入りました。ついで研究発表。相談支援でのCBOへのニーズの高さ、相談支援の強化とネットワークの要となるコーディネート機能の必要性があげられました。参加者から家族への支援、バディトレーニングの内容、陽性者との関わりとスタンスの取り方の難しさなどそれぞれの活動を反映した発言があり共通の課題を認識することができました。

---

連絡先 ぶれいす東京  
〒169-0075 新宿区高田馬場 4-30-23-203 Tel 03-3361-8964

---

No. 37	タイトル	AIDSと都市計画	講師	南 定四郎
	主催	エイズアクション		

ねらい HIV感染者が地域において共生するための提案

ながれ (1) 講師の話: 1時間 20分 (2) 質疑応答: 40分

話の内容

- (1) 地域社会の実体→町内会、商交会(商店会)、老人クラブの役員資格と運営の実体。
- (2) 地域社会の合意形成過程→多数決原理ではないことのメリットとデメリット。
- (3) 地域社会の崩壊→1967年よりすでに崩壊がはじまり、現在ではほとんど再生不能にまで進んでしまっている。
- (4) 福祉社会としての地域社会→「福祉」「環境」「伝統」のキーワードで町づくりをしている実例。
- (5) HIV感染者と共生する街(町)→HIV感染者が「福祉」の町づくりに参加することから共生が生まれる。

来場者感想 ①他のグループとは違った視点からのAIDSに関する内容で興味深かった。②問題提起としては非常にユニークだ。③資料もわかりやすく、OHPも使って説明され良かった。④AIDSだけではなく若者も老人も一緒に生活できるようにしていく面白い提案だ。

連絡先 エイズアクション  
東京都新宿区市谷薬王寺 70 プラザ若林 301 TEL&FAX:03-3235-5071

No. 38	タイトル	どうしてアロマテラピーには効果があるのか?	講師	曲 カヨコ
	主催	デン・グリデン		

ねらい アロマテラピーのサロンを主宰している講師本人が、HIVポジティブの方に施行しているセッションの経験を基に、エッセンシャルオイルとタッチングの効果を実感してもらう。

ながれ

エッセンシャルオイルの肉体と精神への作用の流れ

→HIVポジティブの方への実践例とその効果をおりませながらの説明。

日常での簡単で便利な活用法

→空間への香りや抗菌に適したオイルの説明とその簡単な使い方。

タッチング体験

→肩こりや足のつかれといったちょっとした身体の不調を軽減するオイルタッチングの実践。

来場者感想 本を読むより直接お話を聞きながらの実践だったので、すーっと頭に入り、楽しかったです。/香りとマッサージで心地よくなりました。講師の方と参加者のコミュニケーションがとれていました。/こういうアプローチの仕方もあるんだな、と新鮮な気持ちでした。

連絡先 デン・グリデン  
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 1-1-63 シャトー代官山 101  
TEL&FAX: 03-3794-9095

No. 39	タイトル	薬害エイズはまだ終わっていない～薬害エイズ被害者の現状と今後の課題～
	主催	HIV訴訟を支える会
	講師	原告3名・原告遺族1名・支援者2名

ねらい HIV訴訟（薬害エイズ）の和解から3年、薬害根絶・真相究明・恒久対策とそれぞれの課題をいろいろな形で活動を続けてきた。世間の風潮は薬害エイズは終わったかのような様相だが、薬害エイズはまだ終わっていない。では、どう終わっていないのか？原告と共に、実生活の中で具体的にどのようになっているのか一緒に考えてみる。

ながれ 原告から現在の体調や、服薬の種類・方法や副作用について、そして、それが日常生活にあたる影響について語られた。また、人間としてあたりまえに生きたいという切なる願いも語られた。次に原告・原告遺族から、医師から告知されず、病院・医師に対する不信感が語られた。原告・原告遺族とも医師に対する憤りを切々と語られた。さらに、大学病院の体制にはじまって、厚生省・製薬企業・病院（医師）等の癒着、そして薬害が繰り返される構造について話し合われた。

来場者感想 今起こっている問題をきちんと問題点を洗い出し検証して対策をこうじていくこと、自己の問題としてとらえることが大切であると感じた。／患者・家族の方々の心の安まる方向に近づけていく様に、自分の出来ることを出来る範囲で行動していくことが大切だと思いました。／薬害エイズの根本的な責任はまだ明らかにされていないように感じました。薬害根絶のためにも、まだまだこうした活動を続けて行かなければならないと思いました。／（教師として）エイズについて知らない生徒が多くショックを受けました。今日の会を生かして若い世代に伝えていく気持ちを強く持ち続けていこうと思いました。

連絡先 HIV訴訟を支える会  
 東京都文京区大塚5-6-15 Yビル301 保田法律事務所内  
 TEL 03-5978-4335 FAX 03-5978-4330

No. 40	タイトル	HIV啓発パンフレットの考課はいかに
	主催	HIV不当解雇訴訟支援団 アドバイザー 増井 秀昭

ねらい 今までのHIV啓発パンフレットでは本当に感染予防に役立ってきたのだろうか、色々なパンフレットの考課を検証してみる。

ながれ 今まで出されたパンフレットを例として検証してみる。対象者が誰なのか分からないものや、各都道府県の担当部署の電話のみで、検査を受け付けている保健所の連絡先も不明なものも多く、これでは何処に行けばいいのかが分からない等を例としてあげる。

次に感染経路が分かっているのになぜ広まったり、HIV検査を受けないのか。いまだに「こんなことでは移りません」等の列挙型のパンフレットが多いのはなぜか等の事例研究11例をあげ、どの様な記述が望ましいかを提言した。最後はフリーディスカッション。

連絡先 HIV不当解雇訴訟支援団  
 〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町2-66 満利屋ビル8階  
 横浜AIDS市民活動センター内

No. 41	タイトル	身体表現+交流サロン			
	主催・出演	成田 右子	協力	中山 直美	

ねらい

【身体表現】「今この瞬間生きている」という状態を常に実現する。その状態から逃げ出さない。その輝きやリズム、波動だけを連続される。そこには生命エネルギーと光だけが存在する。

【交流サロン】かつては H.I.Voice・ACT として、'99 年は現在の自身の活動を通じて、フォーラムに参加した経緯やテーマに対する取り組みを語る。それ以外は場の自由な話の展開に任せ、「身体表現」を一つの伝達交流機能として完了させることを試みる。

ながれ

①身体表現 約25分間（自ら創作した踊り）

②交流サロン 飲み物を片手にフリートーク。感想・質問など。

来場者感想 今年のテーマに相応しいプログラムの一つ。／受け手の感受性との共鳴でダンスができあがっていく面白さを感じた。／これはスキルの問題ではない。意志です。／身体と言葉の両方を使って、生きていく上で必要だな。／言葉ではうまく伝えられないけれど十分伝わってきた。／イキイキ生きている人達がそれを広げる力となるといいな。

連絡先 本人 TEL&FAX 042-362-4564

No. 42	タイトル	お茶会はじめ			
	主催・講師	桜屋伝衛門・ぐるーぶめると（藤江直樹）			

ねらい

HIV感染者と未感染者の交流

ながれ

HIV感染者である桜屋氏の感染してからの出来事、生活を、インタビューを交えながら話し合った。

来場者感想

いい雰囲気でした。昔「人間の鎖」に参加したりもしましたが、あまりに積極的すぎる某会の方々に違和感のあった私としては、こういうノリの感染者の方がいて安心したって感じです。（福岡県 大学院生）／リラックスした中でいろいろ聞いて楽しかったです。（福岡県 医療関係職）

連絡先 ぐるーぶめると（藤江直樹）

横浜市神奈川区齊藤分町1 TEL: 045-482-0694



No. 41	タイトル	映画「ファザーレス 父なき時代」 (1998年 VTR/カラー/上映時間78分)
	主催	神奈川県衛生部保健予防課
	ゲスト	村石雅也(企画・主演) 久保啓史郎(プロデューサー)
	協力	万福寺シネマ・安岡フィルム

## ねらい

この映画は1996年6月、日本映画学校ドキュメンタリーゼミの卒業制作作品として始まった。主人公は都会で一人暮らしをしながら自分を見失っていた。だが、自分のありのままの姿をカメラにさらけ出しながら、自己を再発見し、カメラを通して親たちを見つめることで、失われた家族の絆を取り戻そうとする。エイズをテーマにした映画ではないが、セクシュアリティ、家族の絆、差別や偏見など、HIV/AIDSの問題に共通するテーマも多く、様々な視点からAIDSのことを見つめていくきっかけになることを期待して、上映した。

## ストーリー

大都会で一人暮らしをする村石雅也(22才)は、学校にもバイトにも熱中できず、悶々と部屋にとじこもる日々をすごしていた。バイセクシュアルの彼は、夜になると街で見知らぬ男に抱かれ、ほんのひとときのなぐさめをえていた。両親は早くに離婚し、あたらしく来た義父とは断絶。そんな家族や自分自身をカメラにさらすことで、すさんだ日々が変わるのではないかと、ある日、彼は故郷に帰る。はじめて本音をぶつけあう親と子…。傷つけあいながらも、次第に家族の絆が引きよせられてゆく。

## 感想

感動した。涙が止まらない。自分の内面を問い返す思いです。自分と自分の父母(私も生後直後に両親が離婚し、義父が育ての父です)また、夫と二人の娘との今の家族。課題が大きいですがじっくり考えてみます。/一部聞き取れない会話があり、残念。/ここまで赤裸々に語ってくれた家族に感謝です。/景色もとてもよかったです。/事実はやはり小説に勝ると感じた。親子関係にどれくらい期待できるのか、それを示唆してくれたように思います。/かつて家族との葛藤があったので見てみたいと思ったが、想像を絶する厳しさだった。最後にお母さんが抱っこしてくれて本当によかったと思った。私も子どもに戻った気がした。/エイズと関係ない。つまらない映画だった。/感じるもの・共感するものが多く、とても良い時間をすごせた。/素直な人々の映画だと思った。重いテーマだったのに美しかった。/人間の闇の部分の部分を照らすことは、生きることに繋がると思った。/エイズと直接関係ないテーマだったが、逆に新鮮で良かった。/自分探しをすることはともしんどかったろうし、決心のいるつらい作業だったと思った。どういう結末になるか撮り始めた時には検討がつかなかったでしょうから。/すごい。人の心にぐいぐい迫った。義父の「普通の人間なんだよ」実父の「いつまでも父親なんだよ」という言葉に主人公の心が解かれていく様子に感動。/自分自身が離婚を経験し、3人の息子を育てているので、身につまされる内容だった。/男性に身をまかせるところには気持ち悪さがなかったが、母親との濃密な触れあいの方に違和感を感じた。/家族とはなんだろうと思った。夫と子ども3人のフツーらしい家族。でも私はこの家族が結構苦しい。子育てはある意味抑圧することだし、子供の存在が私を抑圧していると思うときもある。しかし同時に依存しあってもいる。一筋縄に行かないのが家族だ。/誰でも苦悩や葛藤を抱え、それらとどのように折り合いをつけるか、乗り越えるかを手探りしながら生きている。自らそれをできない主人公が行動を起こし、家族に「問いつめ」て自分で納得していく様子にこれでよいのかという思いがあるので、非常に複雑な思いが残った。大人になることの大変さを主人公は理解できたでしょうか。自分の気持ちに気づき、人に伝え、理解し、乗り越えていく、人生は大変だけど、でも素晴らしいと信じたい。/今の若者には特に見て欲しい。/家族の問題というよりは差別の映画だと、見終えてまず思った。

連絡先 神奈川県衛生部保健予防課 エイズ・感染症対策班  
〒231-8588 (住所表記不要) TEL 045-210-1111 (内5116) FAX 045-210-8863



かあさん、これで僕を嫌いになった？

# FATHER-LESS

ファザーレス  
父なき時代

なに言ってるの。よけいに愛しいよ

マンハイム国際映画祭  
ドキュメンタリー部門  
グランプリ  
国際批評家連盟賞受賞

企画・出演 村石雅也  
監督 夜野風祥  
1998年 / カラー / 78分  
製作・配給 万福寺シネマ  
協力 日本映画学校

- 98・マンハイム・ハイデルベルグ国際映画祭  
ドキュメンタリー部門グランプリ  
国際批評家連盟賞受賞
  - 98・ニューヨーク国際学生映画祭特別賞受賞
  - 98・ソフィア国際学生映画祭
  - ソフィア大学ジャーナリズム学科学賞受賞
  - 97・日映協フィルムフェスティバル  
学生監督部門グランプリ受賞
  - 98・アムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭招待
  - 98・東京国際テレビ・アンド・ゲイ映画祭出品
  - 98・台湾国際ドキュメンタリー映画祭招待
  - 98・テルアビブ国際学生映画祭招待
- [上記の受賞は日本映画学校卒制作による]

## 父なき時代 ファザーレス

企画・主演 村石雅也  
監督 夜野風祥  
製作 山谷哲夫  
プロデューサー 久保啓文郎、寺田晴範  
制作権 崎津敬  
編集 齊藤大樹、村石雅也  
録音 久保啓文郎  
音楽・音響 竹山智宏  
美術 金井美樹  
協力 安岡卓治、浜口文幸  
取材協力 中溝裕一  
字幕原案 小宮裕治  
字幕原案 曾我隆志  
字幕原案 石原正佳  
制作・配給 万福寺シネマ  
協力 日本映画学校  
(本作は、日本映画学校・卒制作に基づく)

傷つけない人間などいない。  
傷を負っていない人間もいない。  
しかし、傷に向き合える人間は少ない。  
傷を語ることでできる人間はさらに少ない。  
その稀有な、はつとするような人間たちがここにいます。  
ここに生きています。  
あなたもきつと語りたくなる。  
「ファザーレス—父なき時代」はそういう映画である。

——吉岡 忍(ノンフィクション作家)

心の奥深いところをギュッとわしづかみにされるような、新鮮な感動があります。

——服部弘一郎(映画批評家)

自分の出自を訪ねる旅の思いがけない緊迫した展開、抑制された感情表現、「ふつうの人々」の抱える闇と涙の溢れた祈りのすわり方、そして美しくすぎる信州の映像と音楽、これほどの映像表現を与えたこと、そしてこれがドキュメンタリーでつくられたということ……

奇跡を見たような思いです。

——上野千鶴子(東京大学大学院教授)

思いもかけない展開に胸を打たれた。豊かな社会で育ったいまの若者たちには悩みなどないのだからと想过いだが、ひとりよがりな心の中には容易に言葉には出来ない複雑な想いがあつたのだ。

カメラに揺られるほうも、カメラを揺るほうもつらかったらう。その苦痛を乗り越えたところに家族の再生が見えてきた。「切ないぞ」「母さんを誰がかばうんだ」という親父の言葉に胸が熱くなる。「切ない」「かばう」市井の喜怒哀楽の人間が流す言葉はなんと心優しいのだから。

これは映画というよりカメラによる魂の記録である。

——川本三郎(映画評論家)

これは「きわめてまともな映画だ」ともつた。この作品は、もつれた親子関係がどのようにほぐれていくか、そのような問いにきわめてシンプルな解答を与えてくれていると思う。それは、親子関係とはつまるところ何がみつたればいいのかという解答でもある。

——信田さよ子(原宿カウンセリングセンター所長)

種の肉を自ら万力で傷つけるだけしか、「仰天」や「絶望」から逃れられない青年が故郷の信州に帰り、己の過去を隠さずに正直に暮らしてゆく。この青年の奔放な母は再婚し、新しく父となった男は酷い差別にあって「小学校一年で家出し、魚をとって畑々とするという凄まじい生き方をしてきた。現在の青年を母は抱き締めて「愛おしい」と云う。この母を認め、愛することのできる親父をはじめて尊敬し、

ドキュメンタリーを作ることで闘う気力を持つに至った青年の物語である。

——多村昌平(映画監督)

この作品の魅力は、悪鬼悪魔少年の両親が書いた手記が両親の側からの家族史の検証であることと対照的に、子供の側から両親の育て方、その罪を告発してゆくところにある。雅也は、カメラという武器を出るに駆立てることで、少年時代の復讐を企んだかのように、幼かった雅也にはわからなかったさまざまな責めが浮き出てくる。記憶のなかで一度死んだはずの過去の日常が別の彩りを帯びて立ち上がったとき、新しい群がつけられるのだった。

——播磨直樹(作家)

「家庭の味」を知らずに育った主人公が映画する行為(＝アクションドキュメンタリー)を武器に家族の関係を新たに作るべく、懸命に模索していく。その姿が痛ましい、など他人事ふうには言ってはいけないのだと思う。そんな時代を作ったのは私たちがなのだから。

——原一男(映画監督)

フィルムに偶然定着された万福寺の親許は、それがどんなに反復された物語だとしても万人を写しさせる。誰だけでは絶対化不可能な物語があり、この不自由こそが切なくも私たちを規定しているからだ。そして、この不自由を知るものだけが自由になれるのだから

——宮台真司(東京国立大学助授)

「自傷、無気力、同性愛、登校拒否、いじめ」こういった、現代の若者に普遍的にみられる社会病理を取り上げて、作品に仕立てた視点の正しさと勇氣に對して、まず稱賞の言葉をおくりたい。よくここに登場したようなファミリーを表現したとの、努力に對してでも。

さいごの息をのむようなドラマチックなエンディングがみる者の心をつかむが、私はそのあとにつづく彼の人生を想像する、そしていかなる展開がみられるのかを、いま考えている。

——斎藤茂太(精神科医)

愛父と義父、村石は、映画を撮ることで、この二人の「父親殺し」を扱った。だが、義父の押し手と愛父の勇氣に魅れ、父と子の壁が氷解する。ところが、その壁のむこうには、母が一人の「女」として立ちすくんでいた。その意外性にこの作品の感動がある。

——佐藤 真(映画監督)

父権の喪失は何をもたらすのか、単にそれは一家庭の問題ではなく、巨大な渦巻く一社会の普遍性そのものを揺るぎ出すのかも知れない。この映画は一家庭を揺りつつ社会そのものを問い込んでいる。

テレビドラマやフィクションの映画では、絶対にありえない皮膚感覚のリアリティの重さに圧倒された。激しい始まりと静かな終わり、多の社会を論議するような側面と過渡、混血、カオス、父親喪失——彼の生を想像するのは、つまりその社会の先をも想像することになるのだからと思う。

——見沢知雄(作家)

親の育て方の罪を子どもが問いたす行為は、この国では長らくタブー視されてきた。子どもは自分ごとのように育てられたかの検証をやり、親から受けた教育のマイナス部分を一方的に終わらせたことに対し、長い苦しみの原因なくさるる書だけを無視してきた。だが、親の罪を検証することは、本当の親子になる為の通過儀礼。「ファザーレス—父なき時代」が掲げたのは、愛を信じる勇氣だ。人は「親」に受け入れられてこそ、一人でも生きられる。

——秀一生(「日本一讀み頼たちへ手紙」企画編集者)

大都會で一人暮らしをする村石雅也(22才)は、学校にもバイトにも熱中できず、問答と部屋にとじこもる日々をすごしていた。バイセクシュアルの彼は、夜になると街で見知らぬ男に抱かれ、ほんのひとときのなぐさめを受けていた。両親は早くに離婚し、あたらしく来た親父とは断絶。そんな家族や自分自身をカメラにさらすことで、すさんだ日々が変わるのではないかと、ある日、雅也は故郷に帰る。

はじめて本音をぶつあう親と子……。傷つけあひながらも、次第に家族の絆が引きよせられてゆく。

追加モーニングショー決定！  
7/17(土)～23(金) 連日11:20より1回上映

特別鑑賞券・上映協力券有効  
●当日一般¥1,500 ●学生¥1,200 ●シニア¥1,000  
ユーロスペース

井の頭線  
東急プラザ  
JR線  
有明駅  
JR線  
有明駅  
JR線  
有明駅

渋谷駅南口下車2分 JR線有明駅より徒歩5分 電話03-3461-0211 至恩比寿

## 【プログラム目次（展示）】

No.	主催	掲載項
1	性を語る会	42
2	BeeHIVeいちかわ	42
3	有終支援いのちの山彦電話東京支部	42
4	AIDSを伝えるネットワークTENCAI	43
5	H. I. Voice編集局	43
6	AIDS&Society研究会議	43
7	横浜エイズ勉強会	43
8	”人間と性”教育研究協議会かながわサークル	44
9	エイズアクション	44
10	動くゲイとレズビアンの会	44
11	鹿児島大学HIV明時訴訟を考える会	44
12	横浜AIDS市民活動センター	45
13	HIVと人権・情報センター東京支部	45
14	横浜YMCA	45
15	JAPANetwork	46
16	からだのおしゃべり会	46
17	かながわレッドリボンクラブ	46
18	Kラウンジ	47
19	RED KNOT	47
20	HEARTY NETWORK	47
21	神奈川県衛生部保健予防課	48
22	HIVソーシャルワーカーネットワーク（HIV/AIDS電話相談）	48

### 【特別展】

写真展「今を生きる」	49
------------	----

**No. 1 主催者名 性を語る会 (資料提供 アーニ出版) 展示担当 長谷川瑞吉**

**展示内容** 「性を語る会」は、学校や職場でエイズについて指導・学習するときに役立つ新教材を展示することになっています。今回は、「注意！クラミジア激増中—STD (性感染症)にかかっていると HIVに感染しやすい—」がテーマ。

特に高校生や若い人たちに急激にクラミジアが広まっている現状をふまえ、STDによる粘膜の炎症と HIV 侵入の関係をわかりやすく図示してみました。

同時に「性を語る会」主催「エイズエドゥケーター36時間セミナー」での、3年間にわたる先鋭の講師陣の講義を集大成した書籍「エイズ集中講義」も、一般にさきがけて発表。HIV/AIDSの過去と未来を探求していきます。



**連絡先** 〒158-0097 東京都世田谷区用賀 3-5-6 アーニ出版内「性を語る会」事務局  
TEL 03-3708-7326 FAX 03-3708-7324 URL <http://www.ahni.co.jp/>

**No. 2 主催者名 BeeHIVE (ビーはいぶ) いちかわ**

**内容** BeeHIVE 市川は、毎週第4土曜日 1:30～市川教育会館 (JR 本八幡下車徒歩8分) の4F 図書室で定例会をしています。1ヶ月にせめて1度PWA/HとしてAIDSのことを考え、そのために時間を作ると決心した人々の集まりです。今年もメンバーが制作した肌がけふとんと手作りテディベアー、お手玉などの展示と作り方講習会を行いました。啓発パンフレットの配布などもさせていただきました。皆さんの参加とご協力を歓迎します。



**連絡先** 千葉県市川市鬼越 2-6-16 TEL&FAX 047-334-8881

**No. 3 主催者名 有終支援いのちの山彦電話東京支部**

**内容** 限りあるいのちの「有終」を支援するために、がん・エイズ・難病などで、ターミナルの段階にある患者さん、ご家族、その他関係の方々の「こころ」を、電話を通して少しでも支えることができれば、というのが趣旨のボランティア活動です。山彦電話を多くの方々を知っていただき、悩みを持っている方に届くことを願って、AIDS文化フォーラムのパネル展示に3年連続で参加しています。十分な展示とはいえませんが、対外的な活動が少ない我が会としては貴重な経験です。微力ながら今後もエイズを取り巻く人々のお力になればと願っています。山彦電話は、毎週月・水は午前10時から午後4時に、金は午前10時から午後10時に、一定の研修を受けた約30名のボランティアが交替で電話を受けさせていただいています。ご相談はすべて匿名で、会費等は一切なく、一期一会としての電話を大切にしています。

医療的な相談や専門的な解決方法をお答えする訳ではありませんが、特定の宗教や政治価値観や先入観にとらわれず、悩みの傾聴と共感的理解そして電話をかけていただいている方をできる限り受容しようとして心がけています。あなたのお電話お待ちしております。

**連絡先** 〒113-0022 東京都文京区千駄木 3-36-10 千駄木センチュリー21. 603号  
相談電話：03-3827-5310 事務用電話：03-3827-5318

No. 4	主催者名	AIDSを伝えるネットワークTENCAI
内容 「AIDSを伝えるネットワーク」活動紹介、予防教育のパネル展示及びパンフレットの配布、本の販売		
連絡先 AIDSを伝えるネットワークTENCAI		
〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋 1-36-3-305 TEL: 03-5256-3534		
e-mail: AYUKAWAY@jca.apc.org		

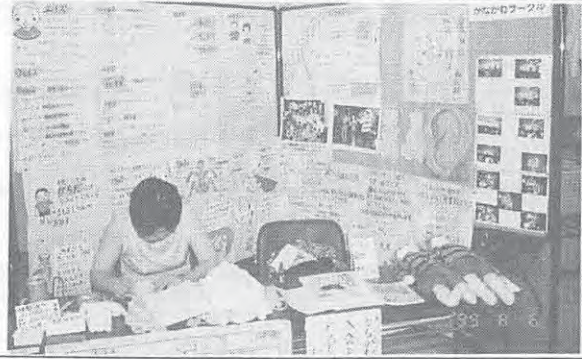
No. 5	主催者名	H. I. Voice編集局
内容 H. I. Voice・DigestⅡ		
「H. I. Voice」は感染者と未感染者が考えや思いを分かち合い、互いに理解を深めるための声のフォーラムとして、93年8月に創刊された通信誌です。展示では今年も紹介小冊子「H. I. Voice・DigestⅡ」の拡大コピーをパネルにして展示した他、増刷をして参加者に無料配布しました。		
また、今回は、編集局が主催して「HIV感染の事実を身近な人にどう伝えるか」をテーマにPW Aと家族の座談会を会場内で実施しました。この座談会の内容は、後日誌面で紹介することになりました。メンバーがなかなか一同に会することが少ない編集局ですが、AIDS文化フォーラムという場（に参加したこと）がこういう機会を提供してくれたようにも思います。		
連絡先 〒198-0032 東京都青梅市上町 2-7-4-106 e-mail:KHB00661@nifty.ne.jp		

No. 6	主催者名	AIDS&Society研究会議
内容 AIDS&Society 研究会議/活動紹介と発行物等の展示、関係団体の活動紹介		
＜本研究会議の活動紹介＞ HIV/AIDS 問題に取り組む各分野の専門家や、国内のおもな ASO (HIV/AIDS にかかわるサービスを提供する団体) によって構成される NGO。2 か月ごとにフォーラムを開催するほか、HAIN プロジェクト (国内外の ASO やエイズ拠点病院に関する情報を整理した冊子を発行) や JAWS プロジェクト (ジャズライブをとおしてエイズに対する理解を深める場を提供する) などの活動を行っている。		
＜本研究会議の発行物等の展示＞本研究会議の設立趣意と活動内容を紹介したパネル/本/研究会議のパンフレット/活動内容・フォーラムの実績・運営委員を示したチラシ/発行物の PR チラシと現物の展示/JAWS プロジェクトが行うジャズライブの PR チラシ		
＜関係団体の活動紹介＞日本エイズ学会の PR チラシ/埼玉県エイズホットラインの PR チラシ/RED KNOT が製作したグッズの展示と販売		
連絡先 〒162-0045 東京都新宿区馬場下町 60 まんしょん早稲田 401		
TEL&FAX: 03-3200-0399 E-mail: tarui@flet.keio.ac.jp		

No. 7	主催者名	横浜エイズ勉強会
内容 つ・く・る性教育		
横浜エイズ勉強会のワークショップなどで作成された性教育カルタの展示。布の絵本の展示。性教育絵はがきの紹介。ニュースレター「みちくさ」及びオリジナル性教育グッズ紹介チラシの配布。布の絵本を使って「赤ちゃんはどうやって生まれてくるのかっていうお話」「免疫のお話」の発表。		
活動場所・連絡先 横浜エイズ勉強会 横浜中央YMCA NPOサポートセンター内		
〒231-8458 横浜市中区常盤町 1-7 活動日: 毎月第1・第3土曜日 18:00より		
TEL 045-662-3721 FAX 045-651-0169 E-mail motomura@yk.rim.or.jp		
お問合せ: TEL 046-264-3235 (大和YMCA・高村)		

**No. 8 | 主催者名 “人間と性” 教育研究協議会かながわサークル**

**内容** 性教育の教材（赤ちゃん人形、子宮模型等）・エイズについての掲示用資料展示、書籍紹介。



**連絡先** “人間と性” 教育研究協議会かながわサークル代表 鎌田美代子  
〒247-0063 神奈川県鎌倉市梶原 1-18-2 TEL 0467-44-5185

**No. 9 | 主催者名 エイズアクション**

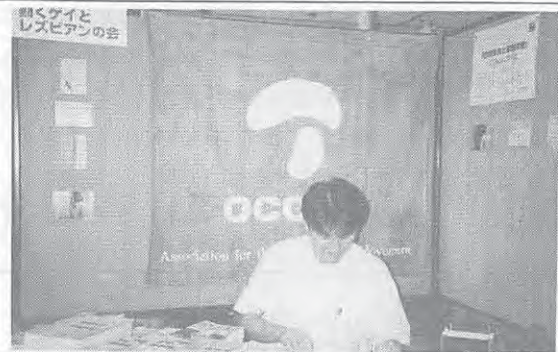


**内容** (1) 問題提起として「HIV感染者と共生する都市計画案」(2) 地域社会の再生に関する課題とその解決 (3) HIV感染者と共生する都市計画案 (4) 「HIV感染者と共生する都市計画案」実現の三つのポイント→以上を文字情報で展示。(5) 谷中芸工展 (6) 横浜市旭区二俣川フォンテ (7) 早稲田エコステーション (8) エイズアクションの活動→以上をビジュアル展示。

**連絡先** 東京都新宿区市谷薬王寺 70 プラザ 若林 301 TEL&FAX:03-3235-5071

**No. 10 | 主催者名 動くゲイとレズビアンのかい (アカー)**

**内容** 当会がこの数年発行した予防啓発冊子、HIV感染者向けの情報冊子、保健医療の現場向けに作成した冊子をはじめとして、電話相談カード、STD情報カードの配付、展示を行った。来場者からは、同性愛や性的指向についての率直な相談や、発表企画についての質問、今後の活動予定についての問い合わせ、会員になるための方法などのやりとりがあった。



**連絡先** 〒164-0012 東京都中野区本町 6-12-11 石川ビル 2階 OCCUR 内  
TEL 03-3383-5556 FAX 03-3229-7880 E-mail occur@kt.rim.or.jp

**No. 11 | 主催者名 鹿児島大学HIV民事訴訟を考える会**

**内容** 裁判資料、陳述書、準備書面

**連絡先** TEL 042-358-1031

**No. 12 | 主催者名 横浜AIDS市民活動センター (Yokohama A.A.I.C.)**

内容 横浜AIDS市民活動センターは、地域や学校、職場などでのエイズへの取り組みを推進するために開設され、市内のボランティア活動をサポートしているほか、ニュースレター『おーぶん』の発行など、各種の情報提供を行っています。今回は、活動センターのPRとオリジナルコンドームケース「オーケース」の展示及び配布を行いました。

オーケースは、HIV感染予防に有効なコンドームを若い人たちに携帯してもらおうとセンターで企画し作成した啓発物品です。

活動センターには情報スペース（エイズに関する資料・書籍・ビデオ・関連グッズなどを多数そろえて閲覧及び貸し出しを行う）作業スペース（印刷機や紙折器などが自由に使うことができる）ミーティングルームなどがあります。個人利用・団体利用どちらでも結構です。一度いらしてください、お待ちしております。



連絡先 〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町2-66 満利屋ビル8F  
TEL: 045-262-8881 FAX: 045-262-8882  
開館時間: 平日(月曜休館) 13:00~20:00 土・日・祝日

**No. 13 | 主催者名 HIVと人権・情報センター東京支部**

内容 「AIDSに学ぶ」、「感染者の手記」などの書籍類と、レッドリボンピンや、レッドリボンをあしらったイヤリング、バンダナ、シールなどグッズ類を、全国のAIDS啓発に関心のある人々に展示・販売し、好評を博した。

また、HIV・AIDSについて有意義に情報・意見交換することができた。



連絡先 東京都千代田区内神田1-2-2 吉田ビル2F TEL 03-5259-0622

**No. 14 | 主催者名 横浜YMCA**



内容 タイにおけるHIV/AIDSについての統計とバンコクYMCAでの取り組み、横浜YMCAとバンコクYMCAの共働プロジェクトなどを紹介した。

※ 写真はYMCAの国際協力プログラム「国際ボランティアinタイ」。毎年春休みに学生たちがプロジェクト現場を訪問している。

連絡先 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169

No. 15 | 主催者名 JAPANetwork (Japan Aids Prevention Awareness Network)

内容 活動紹介

(AIDS/HIV啓発ポスター展示など)



連絡先 ルイス・ヘインズ

TEL/FAX 052-806-5534

No. 16 | 主催者名 からだのおしゃべり会 共催 「エコロジーと女性」ネットワーク

内容 海外での低用量ピルによる死亡事故や副作用被害を報じる新聞・雑誌の記事を紹介。

イギリス：保健大臣が過去10年間のピル服用中の死亡例は104人、副作用の報告例は2408件であることを公表(1999年5月デイリー・メル紙)。死亡や重傷に至ったのはピルの副作用であるとして製薬会社と医師を訴えていた原告170人に法的(財政)援助が与えられることが決定。ドン・ワトソン(19歳)はピルを服用して4ヶ月で血栓が心臓にたっし死亡。キャロライン・ベーコンは14歳半でピルを飲み始め6ヶ月後に脳卒中で倒れ全身麻痺となり、その11ヶ月後に死亡。21歳のビバリーは服用2ヶ月で肺の血栓と心臓麻痺で死亡。リサ・スミス(16歳)は服用4か月で肺塞栓症で死亡。(1998年2月メール・オン・サンデー紙)

スウェーデン：97人の女性がピルの副作用で血栓が出来たと製造元のオルガノン社を提訴。訴訟代表のイングリッド(23歳)は14歳でピルを飲み始め、10か月後に脚や背中に血栓ができ脚を切断(1995年5月アクトンブラーデット紙)。

連絡先 準備出産&からだのおしゃべり会(森 冬実方) TEL 03-3386-0382

「エコロジーと女性」ネットワーク(吉田由布子方) FAX 047-430-3702

No. 17 | 主催者名 かながわレッドリボンクラブ

内容 かながわレッドリボンクラブでは、横浜YMCAで行われている「かながわエイズボランティア育成講座」の修了生が中心になって、春・夏・秋に行われている「かながわレッドリボン月間」などでボランティアを行っています。今回は、99年春のエイズボランティア育成講座の内容を、今回の受講生有志で結成されたグループ「ハートショップ」が紹介しました。またグループ・ロビンによる自費出版「あなたがエイズになったとき」の紹介、販売も行われました。




連絡先 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA内

TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169



No. 18	主催者名	Kラウンジ (東京都立駒込病院内患者会)
内容 K ラウンジは、駒込病院に通院している感染者が気軽に会話ができるようにと作られたスペースです。そのK ラウンジが、第13回日本エイズ学会において、K ラウンジ同様のスペースをオープンさせることにより、その運営を行うための募金活動を行いました。		
連絡先 東京都立駒込病院感染症科外来		

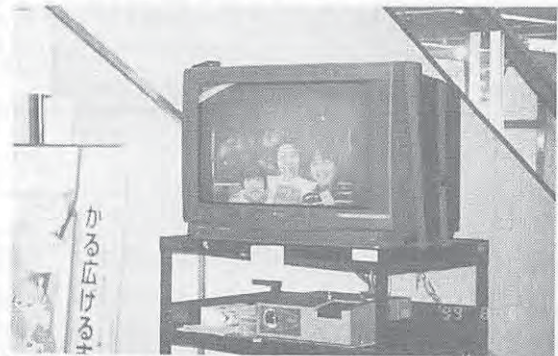
No. 19	主催者名	RED KNOT
内容 RED KNOTは、HIV感染者の就労を通じた社会参加を目的に設立されました。今回「AIDS文化フォーラム in 横浜」において会の設立に協力していただいた団体/個人の紹介やソーイング部署でも作りました数多い商品を表示、販売いたしました。		
この会自体何か患者を持った団体ではなく、作り上がった商品を見てさわってもらうことにより私たちの思いを伝えていければと今回参加させていただきました。全体の流れとして少し残念だったのは、会の今回の参加目的をきちんと伝えられず、展示意図を多くの方に見てもらえなかったことがあげられます。		
連絡先 東京都北区東十條 5-15-20-203 TEL&FAX 03-3598-2901		

No. 20	主催者名	HEARTY NETWORK (ハーティー・ネットワーク)
内容 ニューズレターの配付とT-シャツ販売、パフォーマンスによるHIVの啓発活動		
ハーティー・ネットワークは99年1月、横浜エイズ市民活動センター内に事務所を開設した新しいNGOです。ゲイのHIVポジティブのための相互扶助を目的とし、毎月1回ゲイ・HIVポジティブの懇親会を開催しています。この懇親会では医療のことは勿論のこと、セーフターセックスやパートナーシップ、障害手帳の申請手続きなどについて話し合っています。参加してみたいと思う方がいましたら、お気軽にご連絡ください。今回のAIDS文化フォーラムへの参加を通じて多くの人たちと出会えたことは、ハーティー・ネットワークにとっても良い刺激となりました。これからも懇親会の継続と同時に、HIVポジティブを取り巻く問題にしっかりと取り組んでいきたいと思ひます。		
連絡先 〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町 2-66 満利屋ビル 8階 横浜エイズ市民活動センター HEARTY NETWORK 電話/FAX 045-262-8914 メールアドレス heartynetwork@mail.goo.ne.jp		

**No. 21 | 主催者名 神奈川県衛生部保健予防課**

**内容** DVD「聞かせて！教えて！エイズのあれこれ」を用いたエイズについての基礎知識の普及。

この機材は、①平成11年4月に各県・政令市にエイズ予防啓発機材として(財)エイズ予防財団から配布された。②この機材をイベント等で活用してエイズ予防啓発活動ができることをPRしたく、会場に設置した。③DVDの他、啓発パネル(10種類)イーゼル(5本)がセットになった機材。電源が確保でき、屋内であれば自由に活用できる。④くわしい内容や貸し出しについては保健予防課まで。



当日の機材操作は、地域の保健所保健婦が担当した。また、(財)エイズ予防財団の協力で、会場内のクイズに答えた人に来場者の写真をシールに加工して渡した。

**連絡先** 神奈川県衛生部保健予防課 エイズ感染症対策班

〒231-8588 (住所表記不要)

TEL 045-210-1111 (内5116) FAX 045-210-8863

**No. 22 | 主催者名 HIV/AIDS電話相談**

**内容** ソーシャルワーカーによる電話相談会を8月8日(日)に実施した。

**連絡先** HIVソーシャルワーカーネットワーク (代表 磐井 静江)

**事務局** 〒289-2511 千葉県旭市イー1326 総合病院国保旭中央病院 医療相談室内 本橋宏一

TEL 0479-63-8111 FAX 0479-62-3785

No.	タイトル	「今を生きる」
	主催	神奈川県衛生部保健予防課
	展示期間	1999年7月31日～8月8日（9日間）

ねらい HIV/AIDSに関係する作品はこれまでのAIDS文化フォーラムでも展示をされてきたが、AIDSに向き合った作品から「生きる」ことや「HIV/AIDSとともに過ごす」ということを感じ、日本国内だけではなく、海外の状況にも関心を持ってほしいと思い、様々な視点でを持った写真から紹介していきたいと協力をお願いし、これまでAIDS文化フォーラムで紹介した写真を中心に、6名の写真展を行った。

展示作品 ※参考記事「Junction」を次ページに掲載

ビリー・ハワード「おそれずに人生を」

アメリカの初期の感染者、患者からのメッセージ。（訳 飼牛万里）

石田吉明「いのちの輝き」

薬害エイズ被害者として闘い続けた石田吉明さんが訪ねた各地の風景・植物の写真とエッセイ。

土橋正之「エイズを生きる」

アメリカの様々な立場にいる感染者、患者の前向きな生き方とメッセージ。

大塚敦子「いのちの贈り物」

29才でこの世を去ったアメリカ人女性、ジェニーとその家族の、最後の1年間の記録。

李 東桓「生きたい」

タイ中部、ロップリーの寺院兼ホスピス、プランバートナンプ寺の感染者、患者の姿。

長沢 勲「アジアの子どもたち」

国際協力の現場で撮られた子どもたちの写真。

感想 素晴らしい写真展。とくに「いのちの贈り物」のジェニーは、映画を見ているようだ。／90年代始めに告知を受け、HIVに関する情報をおそろおそろ求めていた頃、書店に並んでいる写真集を見て、怖くてページがめくれなかった。でもそれからずっと考えていたが、それは「おそれずに人生を」だった。7～8年前だろうか。久しぶりに昔の自分を思いだした。涙が出た。／生きる力の尊さを知ることが出来た。／被写体の人の生き方、ひたむきさがよく伝わってきた。／「いのちの輝き」◎。／写真とメッセージに心打たれるものがあった。／「エイズを生きる」被写体のそのままの様子が伝わってくる。支える人の存在に救われる思い。／展示方法がいまいち散漫。／胸が熱くなる作品があった。よかった。／カメラマンの思いを直接聞く機会もあればうれしいのだが。／「生きたい」訴えるようなまなざしがショッキング。一人ひとりの表情がとても切ない。／ふらっと訪れたが、感動した。／エイズのコワさだけではなく、生きる喜びを考えさせられた。／「いのちの贈り物」は前にもみたが素晴らしい。ジェニーが退院したときの写真に思わず涙。ジミー、これからも頑張る！／「おそれずに人生を」いろいろな人のメッセージ、寂しさ、悲しさなどが伝わってきた。顔を隠している写真がショックだった。／この世の中、人が生きていくことはたいへんなことだと思った。／「いのちの輝き」1枚1枚の写真がとても美しい。撮る人の生き方が反映しているのかもしれない。／エイズについてもっと知りたいと思った。／「アジアの子どもたち」素朴でかわいい子どもたちが売春の道具にされるのは忍びない。日本人も多く関係していると知り、同じ国民として恥ずかしさと憤りを感じる。／生と死を大切にとりあげる社会になったらいいと思った。／写真に写っているひとりひとりに個性があった。／患者、感染者が少しでも心穏やかにいられるよう、願って止まない。そのことは彼らだけの問題ではなく、私たちの責任でもある。／エイズに対する理解もまだまだ足りないのでは、と思った。私もここにきていろいろな視点があるのに気づき、驚いた。私なりにしかできないが、周囲にだけでも今日得た知識を広げていきたい。

連絡先 神奈川県衛生部保健予防課 エイズ・感染症対策班

〒231-8588（住所表記不要）TEL 045-210-1111（内5116）FAX 045-210-8863

## 1999AIDS文化フォーラムin横浜紙上写真展

1999AIDS文化フォーラムの中から、写真展「今を生きる」に出品された方々の写真を、一足早く紙上でのご紹介です。展覧会は7月31日(土)～8月8日(日)まで、県民センター1階展示場で行われます。

こんにちは! 私はティー。  
これが家で毎日の生活を楽しんでいる私よ。  
心配ごとなんてひとつもないみたいに見えるでしょうね。  
でも私はエイズ患者なの。  
そんなに驚かないで。  
だって、みんなと何のかわりもないんだから。  
ティー (88年6月)

### ビリー・ハワード 『おそれずに人生を』



### 大塚敦子 『いのちの贈りもの』



夫や犬、猫、小鳥たちに支えられ、最後まで働くこと、そして誰かの役に立つことを生きる原動力としていたジェニー。若くして死に至る病を宣告され、29歳でエイズで逝ったアメリカ人女性とその家族の最後の1年間の記録。

### 石田吉明 『いのちの輝き』



「エイズは自分の体の状況が、今日の辺りまで進んだかが見える病気なのだ。ちょうど、それは砂時計の砂がサラサラと落ちていくのを、じっと眺めている情景に似ている。人は未来への希望と期待なしには生きられないのだと思う。それにしても、残り時間を意識した瞬間から、命が輝いてみえるのはなぜだろう。」葉巻エイズ被害者として闘い続けた石田吉明さんの写真集から。

### 李東桓 『生きたい』

エイズ感染した父親を見舞う娘。エイズホスピスでは患者の家族の姿はほとんど見ない。患者は家族や社会から見捨てられ、孤独な死を迎える場合が多い。  
(タイ、ロブプリーのプラバートナンプ寺にて)



## 土橋正之『エイズを生きる』



肌の色、文化、宗教、年齢、職業、社会的地位、そして感染経路もさまざまに異なっている、HIV感染者たちのフォトドキュメント。

写真は、コメディアンのアライアン。いつも笑い、笑わせ続ける。目下の夢はテレビに出演すること。相談相手もいないような状況で苦しんでいるHIV感染者に届けたいメッセージがあるからだ。彼は言う「T-セル値5でも俺は立派に生きてるぞー」。

(※T-セル値とは、体の中の免疫システムの司令官であるヘルパーT細胞の血液ICC中の値。健康な人の場合は1000~1500)

## 長澤勲『アジアの子どもたち』



ミャンマーの中部ピンマナ県イェジン村。そこにはカレン族や山岳少数民族が多く住んでいる。この村の子どもたちの多くは、良く妹や弟の面倒をみるのが日常である。

### 「1999AIDS文化フォーラムin横浜」プログラム

1999.7.13.現在

時刻	8月6日(金)	8月7日(土)	8月8日(日)
10時~12時	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開会式(12:30~)</li> <li>◆1階展示場では写真展「今を生きる」(7/30~8/8)及び市民グループ活動紹介展(8/6~8/8)開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朗読ワークショップ</li> <li>●HIV感染者支援物販コーナー(18:00)</li> <li>●知っていますか? HIV検査のこと</li> <li>●AIDS教育昔と今、高校生は何を考える</li> <li>●リラクスのためのマッサージ</li> <li>●お茶会はじめ</li> <li>●タイ北部の子どもたちとAIDS(仮)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●エイズ検査を受けてみて~新聞記者が語るAIDS(仮)</li> <li>●HIV感染者支援物販コーナー(18:00)</li> <li>●東京地裁の判決から控訴まで(仮)</li> <li>●性的志向と健康問題</li> <li>●免疫力を高めるためのマッサージ</li> <li>●YSP(ヤング・シェアリング・プログラム)①</li> <li>●保健婦が語るHIV/AIDS~地域から見てきたもの</li> <li>●ビル・ワークショップ part.2</li> <li>●ピアカウンセリングへの取り組み</li> <li>●ソーシャルワーカーによるエイズ電話相談(17:00)</li> </ul>
13時~15時	<ul style="list-style-type: none"> <li>●シンポジウム&lt;ボランティア&gt;AIDS文化フォーラムから見たボランティア</li> <li>●公開! 実践模擬授業</li> <li>●一緒に縫おうベビーキルト</li> <li>●タイ北部の子どもたちとAIDS(仮)</li> <li>●医師が語るエイズ基礎知識</li> <li>●HIV感染者支援物販コーナー(18:00)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●シンポジウム&lt;教育&gt;現場が使える手法とは</li> <li>●保健福祉職・ホームヘルパーのためのエイズ講座</li> <li>●医療者と患者のコミュニケーションギャップをなくすために(仮)</li> <li>●新しい「エイズに関する特定感染症予防指針」理解のために</li> <li>●ぼーたま報告(サポーターとしての食・料理)</li> <li>●子ども買春・子どもポルノ根絶のために</li> <li>●はじめての性教育-中・高校生編-</li> <li>●ちょっと待って! ビルって安全なの?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●シンポジウム&lt;医療&gt;医師と患者のトークバトル</li> <li>●中学校でのAIDS教育の実態(仮)</li> <li>●地域における直接支援活動の報告(仮)</li> <li>●AIDSと都市政策</li> <li>●アロマテラピー(仮)</li> <li>●YSP(ヤング・シェアリング・プログラム)②</li> <li>●薬害エイズ被害者の現状と今後の課題(仮)</li> <li>●HIV啓発パンフレットの効果はいかに</li> </ul>
16時~18時	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ますますPositive</li> <li>●性教育とエイズ学習</li> <li>●バリアフリー'99</li> <li>●女性とAIDS</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「神様もう少しだけ」を百倍楽しく見る方法</li> <li>●医師が語るエイズ基礎知識</li> <li>●ゲイ・ユース・セッション(対象者限定)</li> <li>●エイズ教育における感染者の役割</li> <li>●3年B組ホン先生</li> <li>●エイズとアロマテラピーを考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開会式/交流会(15:30~)</li> <li>●はじめての性教育-おとな編-(8/7)</li> <li>●身体表現+交流サロン(8/7)</li> </ul>
◆6日・7日の18:00~20:00には、交流スペース・バブ「レッドリボン」がオープンします。			

## 関連プログラム

### ■Yokohama AIDS Week '99 in JOINUS■

1. 日時 1999年7月31日(土) 8月1日(日) 10:00~20:00
2. 場所 横浜駅西口 相鉄ジョイナス4F「自然の広場」
3. 内容 写真展「自らとの関わりのなかで」・パネルクイズラリー・パンフレット配布 等
4. 主催 横浜AIDS市民活動センター

### ■かわさきエイズボランティア養成講座■

1. スケジュール 1999年7月17日(土) ボランティアを理解する/AIDSの基礎知識  
7月31日(土) 患者・感染者の思い (H.I.Voice 朗読)  
8月6日~8日 フィールドワーク  
「AIDS文化フォーラム」ボランティア体験  
8月14日(土) カウンセリングマインドの実際  
エイズボランティアの実際  
8月21日(土) 今後の活動を目指して(まとめ)

2. 受講者数 13名

#### 3. 受講者の感想

いろいろなもの(人生についての)を考えるよい刺激になった/“エイズ”への接し方、考え方を学んだような気がした/ボランティア活動だけが前面に出ていて、当事者は満足できているのかなという疑問が残った/エイズが特定の人の問題でないことが理解でき、今後、どのような関わりが持てるか考えてみたい/人それぞれの考え方があり勉強になった/

### ■かながわエイズボランティア育成講座■

1. スケジュール 1999年7月17日(土) “大人のための性教育”ワークショップ  
7月24日(土) “H.I.Voice”朗読ワークショップ  
7月31日(土) ワークで学ぶエイズの基礎知識  
8月6日~8日 フィールドワーク  
「AIDS文化フォーラム」ボランティア体験  
8月28日(土) フィールドワーク評価  
8月29日(日) これからの活動を目指して(まとめ)

2. 受講者数 20名

#### 3. 受講者の感想

初めての経験だったが面白かった/エイズボランティア育成講座出身者の企画があり、よかった/朗読を通して感染者の気持ちが伝わってきた/エイズ予防についていろいろな方法、考え方があることを再認識した/ワークが多く主体的に参加できた/もう少し知識が欲しかった/最初の一步は踏み出せたような気がした/なごやかな雰囲気ですらリラックスできた/

### ■JAWS JAZZ CONCERT JAPAN TOUR '99■

1. 日時 1999年9月23日(祝日)
2. 場所 MM21地区ドッグヤードガーデン
3. 内容 (財)エイズ予防財団のキャンペーンに「AIDS文化フォーラム」会場ボランティア約35名がボランティアとして協力した。当日は主に募金活動を担当し、10万円を超えるAIDSストップ基金を集めた。
4. 主催 (財)エイズ予防財団

# 資料・統計報告

# 来場者の動向

来場者アンケートにみるAIDS文化フォーラム

## 1. 「1999 AIDS文化フォーラム in 横浜」 来場者数

\*会場ボランティア集計

日付	会場	10:00~12:00	13:00~15:00	16:00~18:00	小計(会場)	
8月6日	ホール	118	30	***	148	
	301	***	56	66	122	
	304	***	26	30	56	
	305	***	***	25	25	
	306	***	37	***	37	
	403	***	44	18	62	
	開会式/交流会			150	40	190
	展示場他					297
小計					937	
8月7日	ホール	65	50	67	182	
	301	20	29	51	100	
	303	45	40	10	95	
	304	47	30	31	108	
	305	24	22	46	92	
	306	***	22	10	32	
	403	29	37	32	98	
	405	31	34	18	83	
	交流会				60	60
	展示場他					525
	小計					1,375
8月8日	ホール	***	64	***	64	
	301	47	38	***	85	
	303	16	44	***	60	
	304	17	13	***	30	
	305	24	25	***	49	
	306	28	23	***	51	
	403	25	21	***	46	
	404	28	20	***	48	
	405	39	17	***	56	
	閉会式/交流会				112	112
	展示場他					323
小計					924	

合計

3,236

\*\*\*\*\*

### 「AIDS文化フォーラム」の感想・今後実施して欲しいプログラム・その他意見(来場者アンケートより)

参加者が減っている。AIDSに対する関心がうすれている事を実感/レクチャーではなく参加型プログラムを増やして欲しい/日本の現状だけでなく、外国の現状も紹介して欲しい/「性風俗とHIV/AIDS」の復活を求む/AIDSを通して多様な文化像が見えてくるともっとよい。Pop-cultureやSub-cultureでもいい/多角的な取り組みに興味をもてる/リラックス系の講座はぜひ継続して/写真展がよかった/昨年の方が充実していた/市民主体がよい/価値観の相違を認め、相手のことを考える場として貴重/祝祭ムードがもっとあってもよい/太鼓のようなアトラクションも増やして欲しい/笑える企画をぜひ/差別否定・肯定それぞれの意見を



## 2. 来場者統計 (1997年-2年前との比較)

性別	1997年	1999年
男性	25.9%	33.2%
女性	74.1%	66.8%
年代	1997年	1999年
10代	15.9%	3.1%
20代	19.4%	24.0%
30代	20.1%	31.4%
40代	24.4%	13.1%
50代	15.2%	13.1%
60代~	5.0%	3.6%
職業	1997年	1999年
学生	30.9%	15.7%
教員	13.3%	12.1%
公務員	9.9%	22.1%
会社員	7.2%	14.5%
医療関係者	13.5%	19.3%
主婦	10.3%	5.6%
その他	14.9%	10.7%

2年前のアンケートと比較してみると、男女比では男性の来場者が増えてきたことがわかります。年齢で見ると、10代の減少が目立ちます。職業別でみた場合は、学生が半減していますが、公務員は倍増しています。また、医療関係者も増加しています。HIV/AIDSについての社会の関心が薄れてきたことで、少しでも情報を手に入れたいと思う、地方のエイズ政策担当者や医療関係者が参加してくださったのではないかと、考えています。

今後の課題としては、HIV感染者も多く、感染の可能性も高い、10代~20代が興味をもって参加できるようなプログラム、学生に大きな働きかけができる教育機関むけのアプローチ、特に、先生だけに期待するのではなく、市民と教育機関、保護者が連携してHIV/AIDSに対して取り組むにはどうすればよいかを広く紹介していきたいと感じます。

あなたの地域での取り組みも、ぜひ次回のAIDS文化フォーラムで紹介してください!

## 4. 来場者 (アンケート記入者) の居住地

北海道/青森県/山形県/宮城県/新潟県/福島県  
茨城県/栃木県/群馬県/埼玉県/東京都/千葉県  
神奈川県/山梨県/長野県/静岡県/愛知県/岐阜県  
石川県/京都府/奈良県/大阪府/兵庫県/岡山県  
島根県/愛媛県/高知県/福岡県/大分県/佐賀県  
長崎県/熊本県/宮崎県/沖縄県 (34都道府県)

北は北海道から南は沖縄まで、多くの方が足を運んでくださいました。ありがとうございます。このデータは来場者アンケートの結果をもとに作成されているので、「あれ?〇〇県がはいっていないなあ」「今回参加したのに入っていない」と思われた方は、ぜひ来年は会場に足を運んで、アンケートに協力してください。



\*\*\*\*\*  
 (左ページからの続き) 聞きたい/抗体検査をしてほしい/手作り感には好感が持てるが、もっとマスコミを巻き込んで宣伝して/PRが足りない/会場が地味/マスコミの報道の仕方を問う講座をぜひ開いて欲しい。各マスコミは当事者で出て欲しい/エイズウォークのような会場外イベントを/専門家が増えた。これまでのやり方も曲がり角にきているのではないかと/保健婦向けに相談・カウンセリングについての講座を持って欲しい/気軽に参加できる内容をふやしてほしい/同じ内容の講座が2回あってもよい/歯科に関する講座をぜひ/HIV感染者、患者の実際の暮らしを知りたい/小学生むけ、中学生向けのプログラムをやってほしい/医療従事者への教育プログラムを市民の目でぜひ/教育プログラムの充実/新しい医療情報、社会保障制度についての紹介をしてほしい/ボランティア団体が幅を利かせすぎ。もっと患者、感染者自身が安心して参加できる場を/参加すると他の参加者から良い刺激をもらう。これを継続できるよう頑張りたい。  
 ※いろいろな意見がありましたが、このフォーラムを作るのは、私たち一人ひとりです。こんな企画があったらと思ったら、まずはあなたから始めてみませんか?

# 参加団体アンケート

参加団体/個人へのアンケート(回答数25通) ※ご協力感謝です。

## 1. 「1999 AIDS文化フォーラム in 横浜」全体評価

とてもよい-7 よい-11 普通-4 不満-2 とても不満-0 未回答-1

内容が充実している/様々な立場の人が交流できる/スムーズな運営/ボランティアがてきばきしていた/個々の団体の自主的な参加/継続して実施していることがよい/活気がいまいち/関係者以外の来場者が少ない印象/行政共催の割には行政職員、関係者が少ない/感染者の意見が出しやすい/発表が分散しすぎている/市民主体のフォーラムでよい/NGOの活動をバックアップしている/全国から参加者がきている/もっとターゲットの絞り込みを/専門家の参加は定着してきたが、若い人や一般の人に足を運んでもらえるような手を考えることが課題/もっと明るく、楽しいものに/ボランティア団体のPRだけでなく当事者の交流、支援、差別の緩和について伝える場であってほしい/

## 2. 参加したメリットとデメリット(複数回答可)

##### メリット #####			
団体活動のPRの場として有効	14	会員拡大につながった	2
新しい情報が手に入った	14	ワークショップなど実験ができた	7
他団体などとの交流がうまれた	7	その他(関係者との交流等)	4
##### デメリット #####			
金銭面での負担が大きい	3	暑さがこたえた	2
メンバー調整がたいへん	2	その他(デメリットはとくになし)	1

## 3. 会期について(毎年1回・8月を前提として)

金・土・日-19 木・金・土-1 土・日-3 その他(8月以外で)-1 未回答-1

週末は集まりやすい/平日は業務として参加できる人が増える/夏休み中の日曜日はかえって忙しい/職場の夏休みと重なりよい/職場の夏休みと重なるのでよくない/

## 4. 会場について(かながわ県民センターでの開催を前提として)

現状どおり-18 もっと広く-1 もっと狭く-2 その他-1 未回答-3

駅から近くて良い/駅から会場までのアプローチを強化する/同一時間帯の発表を少なくして同じフロアに集約させた方がよい/ブース展示は発表フロアと同じ階か2Fホールを利用したほうがよい/休憩中の人を吸収する仕組みを仕掛ける/駅と直結した会場のほうがよい/1Fロビーやエスカレーターホールの活用/

## 5. プログラムについて

【プログラム数】 現状でよい-14 大きくすべき-2 小さくすべき-4 その他-1 未回答-4

プログラム数が多くて選択に困る/数を増やすよりも質の確保が大切/他のものを見ていないのでわからない/プログラム数の割には興味を持ってない/

【プログラム構成】 適正-12 なんともいえない-5 適正ではない-2 その他-1 未回答-5

夜間プログラムの復活を/プログラムとプログラムの間が1時間あったのがよかった/一コマあたりの時間には検討の余地あり/内容をバランス良く配置してほしい/出入り自由のプログラムがほしい/交流会が毎日あったのはよい/11:00 開始にしてはどうか

### ※実行委員会主催する企画案のアイデア

エイズ検査(必要条件がクリアできたら)/交流会で新しい知り合いをつくれるようなきっかけ作り  
エイズ対策に関する前向きな討論会/誰でも自由に提言できるコーナー/啓発プログラムのコンペ/  
夏休みの自由研究に役立つコーナー/参加者を横断するような企画(共通テーマで発表等)/

## 6. 会場ボランティアについて (人数)

多い-0 適切-21 少ない-0 未回答-4

良く動いていた/頑張っていて好感が持てた/とっさのことに対応できない部分もあった/黒子に徹していた/機材操作のできる人がずっとついて欲しい/今回のボランティアだけに終わらせない工夫を/写真展の説明係を設けた方がよかった/参加者として入ることを断られたが、参加者として会場を盛り上げる役目もボランティアと思って欲しかった/分科会前の挨拶が若者らしく感じがよかった/

## 7. AIDS文化フォーラムはどんな人を対象にしたらよいか (複数回答可)

保健・医療関係者	3	保健・医療関係者や教育関係者が研修の位置づけで参加できる工夫
教育関係者	4	を/企業と社会貢献の視点や人事研修としての利用を/プログラム
NGO・NPO	5	を見て誰を対象をしたものかがわかると良い/AIDSに取り組む
企業関係者	4	学生サークルの参加を促す/NGOの定例会を行う/美術系の学生
若者	8	にAIDSをテーマにした作品を展示してもらう/教育委員会との
女性	3	連携/学校関係者のサポート/インターネットを活用する/マスメ
幅広く一般	16	ディアを利用して一般の人をよびこむ/一般はつかみ所がないので
その他(全て/行政関係者等)	6	集団へのPRを工夫/ホールでAIDS関連の映画を連続上映/

## 8. このフォーラムは、日本や神奈川県のエイズ対策の推進に寄与したか

非常に寄与した	10	94年の国際会議以降に継続しているのはフォーラムだけ/手法が個性的/
寄与した	12	全国から人が集まる/行政がらみのイベントで最もNGOが参加し、対等な立
なんともいえない	1	場で作られている、しかもAIDSというテーマである点は評価できる/課題
寄与していない	0	は多いが評価できる/広く一般を対象にしている/様々な価値観の人が集まる
逆にマイナス	0	機会を提供している/AIDSは特別な人の問題ではないことを実証している
未回答	2	神奈川県がすすんでいると他の自治体に言われるのもフォーラムあってこそ/

## 9. AIDS文化フォーラムは、今後も開催すべきか

当然、継続すべき-22 どちらともいえない-2 継続する必要はない-0 未回答-1

「継続は力なり」/継続は必要だが方向転換が必要/感染者・患者は増えているのにPRの場が少ないため継続して欲しい/当事者が参加しやすい工夫を/入場者数をとにかく増やす/広報をもっと早く・広く・メディア活用を/専門職の研修利用を/助成金の情報がほしい/参加団体同士の交流を広げる工夫を/AIDSに関した市民ベースの取り組みが一同に会するのはここだけであり、必要/自分たちの活動の確認、評価の場として必要/社会の関心が低下しているからこそフォーラムが必要/

## 10. 来年、AIDS文化フォーラムを開催するとしたら参加するか

参加する-20 なんともいえない-3 参加しない-1 未回答-1

もっと多くの人に体験して欲しいので参加する/視野を広げたいので参加する/新たな出会いの場/やってみることはあるが現状維持では難しい/継続することに意義がある/デメリットが多かったのでなんともいえない/同時並行のプログラムがあり人の出入りが激しい場合は自分には不向き/今回は来場者の期待に応えられなかったので来年は充実を図りたい/夏のイベントとして定着している/様々なNGOが参加できる場を応援したい/その場にいることで得られるものがある/来年にむけて参加する目的が今はない/参加するとまた1年頑張ろうという気になる/

## 番外 報告書について

資料として大切/PRを兼ねて早めに作成してほしい/他の内容がわかってよい/コンパクトにできている/若干読みにくいがワープロ編集?(その通りです)/スタッフの努力を感じる(ありがとうございます)

## 参加団体との連携

AIDS文化フォーラムは、会を重ねる中で、発表の場を求めて集まる全国からの参加団体や、最新情報とHIV/AIDSに関わる者同士の交流を求める数千人規模の来場者を迎えるようになってきました。フォーラムがこのように巨大化する中で、最初の頃の「手弁当熱血型」の持ち寄りイベントというスタンスをフォーラムに関わる団体や個人にうまく伝えることが、なかなか難しくなってきました。

特に参加団体が「お客さん」になってしまい、それぞれの発表／展示の主催者として事務局との打ち合わせ、事前準備、会場ボランティアとの関係づくり、資料配布などについて責任をもって参加することができなくなってきた団体も出現してきました。前回（1998年・第5回）のフォーラムでは「受け入れ準備が悪い」、「機材のセッティングができていない」という発言や、資料が1部しかないなど、用意された会場にただ講演をしに来たという感覚で、要求だけが強く出てくる団体もいくつかありました。

反面、実行委員会や事務局も巨大化したフォーラムの会場運営に追われ、各参加団体との連絡調整を十分にできないまま開催の日を迎えてしまい、参加団体が当日の受付も経ぬまま会場に直接入って、ボランティアと参加団体との顔合わせや打ち合わせも設定できずに講座が始まってしまうというように、さまざまな課題が噴出してきました。その場その場でボランティアがばたばたと右往左往する、落ち着きのない会場進行は、各講座の深まりのある進行を阻害する場面も生み出してしまいました。

そこで、今回のフォーラムではこれらの課題を少しでも改善すべく、参加団体に対してはAIDS文化フォーラムの基本的な考え方やこれまでの開催経過、各参加団体に事前・当日・事後にお願いしたことを、発表・展示それぞれのプログラム毎に「参加団体マニュアル」としてまとめ、参加申し込みを受けた団体や個人に配布して、共通の理解ができるようにしました。

また、会期中は参加団体のチェックイン、チェックアウトを徹底できるよう、参加団体と会場ボランティアに呼びかけ、参加団体と実行委員、事務局スタッフが顔を合わせるようにしました。

その結果は、参加団体、ボランティア、来場者からの「今回は会場運営がスムーズだった」という評価に結びつきました。

実行委員会では、マニュアルの改善や連絡方法の改善など、今後も参加団体とより連携を深めたフォーラムを作ってゆけるよう、努力を重ねていきたいと考えています。

◆次ページに「参加団体マニュアル」を掲載⇒

参加団体のみなさんへ

参加団体の皆さんへ／ このマニュアルは、参加団体の皆様に「1999 AIDS 文化フォーラム in 横浜」に関する基本的な考え方（情報）を知っていただくとともに、フォーラムをスムーズに運営するために協力していただきたい事項をまとめたものです。

このフォーラムは、HIV/AIDSに関わる市民による市民のための手作りフォーラムとして、それぞれが「資源・知恵・できる事・考え方」を持ち寄って回を重ねてきました。

今回も、皆さん自身が主催者であり、運営主体として、実行委員会と一緒に、全国からの参加者に「活動発表する場」、「交流を深める場」、「情報交換の場」を提供して下さい。

今年も、多様な価値観と文化が出会うフォーラムの新しい歴史を皆さんと一緒に作り「今を生きる」を実践したいと思います。

### 1 文化フォーラムの概要と目的

1994年8月に横浜で開催された第10回国際エイズ会議に連動して始まった、このフォーラムは今年でもう6回目となります。エイズの問題を単に医療問題としてだけとらえるのではなく、幅広い市民の視点でとらえ、世界の問題、人権の問題として、様々な文化的側面からアプローチしてきました。

今年は、制度や利害や価値観の壁を乗り越えて、だれもが一人の人間としての尊厳を保ち、自律して生きていけることをテーマとし、「今を生きる」としました。

### 2 文化フォーラムの構成

このフォーラムの責任の所在として「組織委員会」があり、プログラムを含めた構成・全体広報・ボランティア募集を「実行委員会」が受持ち、総合的な連絡・調整機能は「事務局」が担います。

そして、個々の参加プログラムは、各参加団体の皆さんが、そのプログラムについての企画・広報・実施の全てを責任を持ってやっていただくこととなります。

### 3 文化フォーラムの経費

フォーラムの全体運営の経費は、毎年、単年度予算として、団体からの助成金や個人的な寄付金に支えられています。行政からの直接的な資金提供は受けていませんが、会場提供、広報支援、プログラム参加、関連イベント開催という形で支援を受けてきました。

各団体には、自分たちのプログラムを独立採算で実施していただきます。参加費・会場費などの徴収はありませんが、入場無料で実施していただきます。

### 4 ボランティアについて

このフォーラムは、多くのボランティアに支えられています。参加団体の皆様には、会場運営ボランティアと一緒にの講座進行をお願いします。この運営ボランティアは、HIV/AIDSに関わることやボランティア活動が初めてという人が多数を占めていますので、事前に十分な説明と打合せをお願いします。そして、このフォーラムでの経験と貴団体との出会いを、各人の今後の活動継続に結び付けたいとも思っています。ボランティアの先輩としての助言・指導をお願いします。

(想定する仕事) ・会場と機材の準備、後片付け ・入場者受付とカウント ・事務局との連絡  
・アンケートの配布、回収 ・報告書用の記録と写真撮影 等

(当日、チーフボランティアと役割分担等についての事前打合せをお願いします。)

## 5 各団体をお願いしたいこと

### (1) 事前

- ①プログラム要約の提出 = 会場で期間中配布する個別プログラム紹介用に、80～100字程度の要約原稿を7月31日(土)までに事務局に提出してください。
- ②参加者配付資料の用意 = 参加者へ配布資料は、教室定員の倍の部数を用意して下さい。  
(定員を超えるプログラムもあり、追加印刷などで混乱を避けるため)  
余った資料は、資料コーナーに展示し配布したいと思います。
- ③会報等へのパンフ同封 = 個別プログラムと同時に、文化フォーラム全体の広報もお願いします。  
会報等へ、文化フォーラムの全体パンフレットの同封もお願いします。  
全体パンフレットは必要部数を事務局に連絡いただければ送付します。

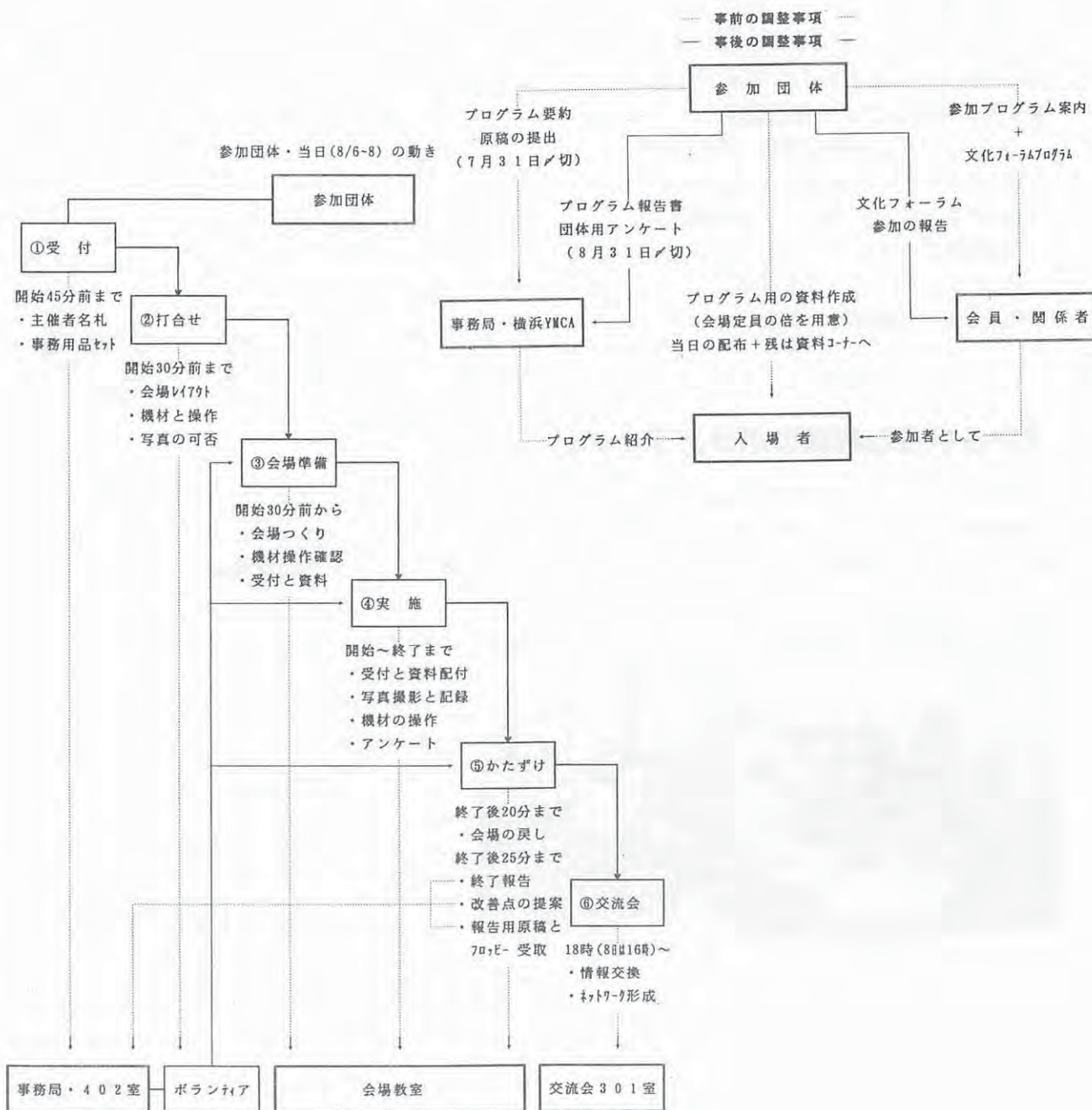
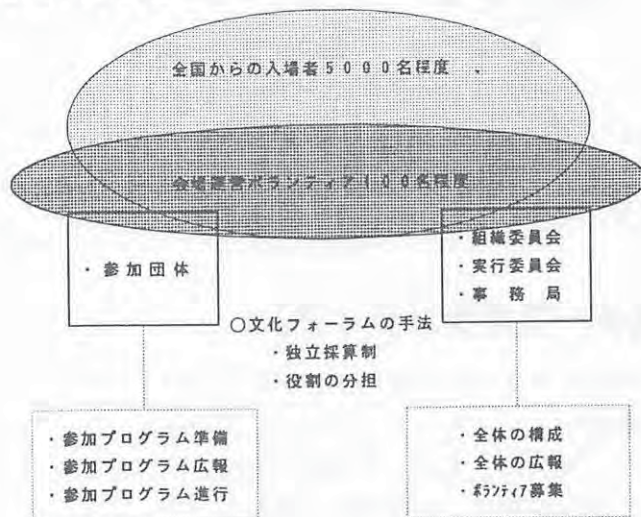
### (2) 当日

- ①事務局での受付 = 当日、会場に着きましたら、まず最初に事務局で受付をしてください。  
(事務局は402号室) 主催者名札と記録用紙などの事務用品セットをお渡しいたします。  
それぞれのコマの開始45分前には受付を済ませてください。
- ②ボランティアへの説明 = その後、事務局で会場運営ボランティアと進行打合せをお願いします。  
(402号室) (会場のレイアウト・使用機材と操作要員・写真撮影の可否等について)  
それぞれのコマの開始30分前までには打合せを済ませてください。
- ③準備・実施・かたづけ = 30分前から各教室でボランティアと一緒に会場作りをしてください。  
(各割当教室) 機材を使用する場合は、作動確認を含め準備時間を設定してください。  
写真撮影の可否については、開始前に入場者の確認もとってください。  
進行中の問題点は、ボランティア経由で事務局まで連絡してください。  
全ての入場者に共通アンケート調査を実施しますのでご了承ください。  
時間枠後、20分以内に会場を現状復帰し、全てを終了させてください。
- ④事務局への終了報告 = 時間枠後、25分以内に終了報告を事務局までお願いします。  
会場やボランティアの問題について改善すべき点をお知らせください。  
報告書用の原稿用紙とフロッピーを受け取ってください。
- ⑤参加の他団体との交流 = 毎日18時(最終日は16時)から参加団体同士の交流の時間を設けます。  
(301号室) 各地の団体との情報の交換とネットワーク形成の場として活用してください。  
この交流会はボランティアや、一般入場者にも開かれた会となります。  
報告書用に、会場で回収した入場者アンケートを受け取ってください。

### (3) 事後

- ①参加プログラム報告書 = フォーラムの報告書の原稿を指定のフォーマットで提出してください。  
原稿はフロッピーと用紙の両方をお願いします。(写真も添付して)  
フォーマットは実施日にお渡しします。締切りは8月31日(火)です。
- ②参加団体用アンケート = 今後の文化フォーラムを考えていく資料としますのでご協力ください。  
その他、今回の文化フォーラムで感じたことを何でも書いてください。  
アンケート用紙は当日にお渡しします。締切りは8月31日(火)です。
- ③会報等で報告した記事 = 文化フォーラムの参加報告を掲載した場合は参考送付してください。

○ 文化フォーラムの構成



## ボランティアについて

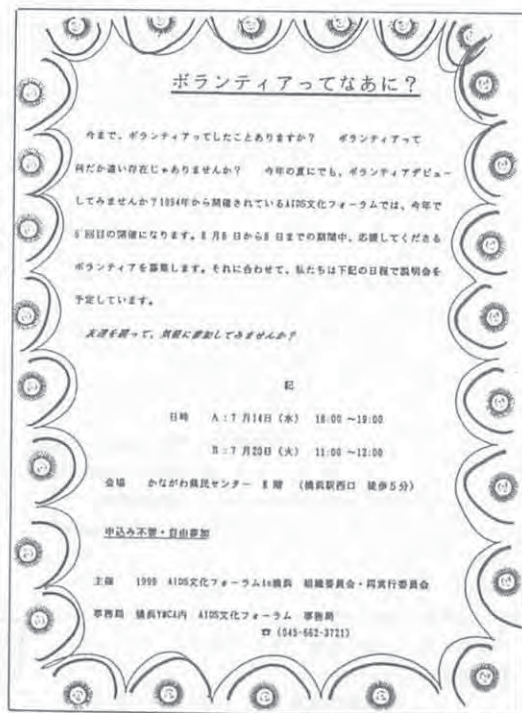
AIDS文化フォーラム開催中の会場運営・整理はボランティアが担っています。このことによって、ボランティアをした方が(1)フォーラムの会場運営について学ぶ(2)AIDSについて感心を持つ(3)多くの方と交流しお互いに学び合うことを願っています。そして「1999 AIDS文化フォーラムin横浜」では、よりスムーズな会場運営と、より多くのことをボランティアの方に学んでいただくため、次のような新しいアイデアを取り入れました。

### 【チーフボランティア】

過去のAIDS文化フォーラムなどのボランティア経験者の方からチーフボランティアを募集したところ、学生、社会人、主婦、定年後の方など約20名の方から申し込みがあり、実際に約15名の方がチーフボランティアとしてフォーラムの事前・当日・事後を通して、さまざまな活動を行いました。特に、ボランティア説明会やオリエンテーションについては、過去の体験を活かした意見やアイデアを活かした運営ができました。

#### ◆チーフボランティアの役割◆

- (1)フォーラムの事前準備(案内発送・広報)
- (2)ボランティア募集チラシの作成
- (3)ボランティアマニュアル作成
- (4)説明会やオリエンテーションのコーディネート
- (5)ボランティアシフト作成
- (6)当日の会場運営(講座ボランティアのリーダー)



※チーフボランティアが作成したボランティア募集チラシ

### 【いろいろな種類のボランティア】

過去のフォーラムではボランティアの活動内容は事務局でコーディネートをしていましたが、今回はボランティアをする方が自分の興味や関心に合った活動ができるように、さまざまな種類のボランティアを募集しました。



※会期中のボランティア控え室

#### ◆ボランティアの種類◆

- (1)チーフボランティア(上記参照)
- (2)講座ボランティア  
各会場セッティング・アンケート配布及び回収・進行補助など
- (3)機材ボランティア  
機材管理・運搬・会場内写真撮影
- (4)展示場ボランティア  
設営補助・受付・書籍販売など
- (5)事務局ボランティア  
アンケート集計・参加団体受付など



## 【ボランティア説明会】

ボランティアに興味のある方を対象に、ボランティア説明会を実施しました。当日はチーフボランティアが昨年のフォーラムの様子や感想を話したり、参加者に話しかけて交流を深めるなど、アットホームな雰囲気の説明会となりました。

日時：1999年7月14日（水）・20日（祝）

場所：かながわ県民センター

内容：AIDS文化フォーラム概要・特徴／ビデオ上映（昨年のフォーラムの様子）  
会場での役割説明／質疑応答

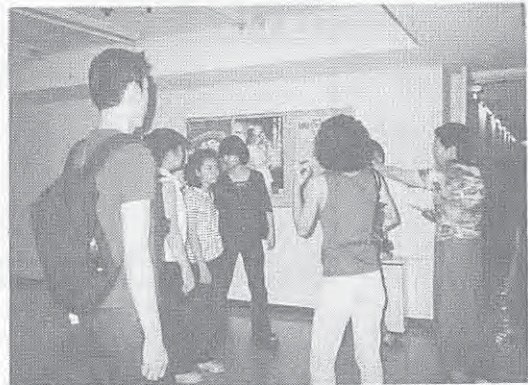
## 【ボランティアオリエンテーション】

ボランティア申込者を対象に実施しました。前半にフォーラムの説明を中心に行い、後半では当日一緒に活動するボランティア同士の顔合わせや自己紹介をし、更に館内ツアーを行いました。フォーラム当日のイメージがわくように、また、チーフボランティアとボランティア、ボランティア同士が顔を合わせることによって緊張感をほぐし、当日頑張ろうという気持ちを盛り上げるオリエンテーションを目指しました。

日時：1999年7月27日（火）・8月1日（日）

場所：かながわ県民センター

内容：AIDS文化フォーラム概要・特徴  
ビデオ上映（昨年のフォーラムの様子）  
ボランティアの役割について  
ボランティアマニュアルについて  
グループタイム（自己紹介）  
館内ツアー（当日の会場や必要な場所の確認）



※チーフボランティアと館内ツアーに

## 【全体評価】

今回のフォーラムでは、ボランティアをひとつの重点項目として取り組みました。チーフボランティアがフォーラムの準備から関わり、フォーラム全体の流れやボランティアの流れを把握していたことにより、当日のボランティアの動きはいままで以上にスムーズでした。同じ会場を同じチーフボランティアと講座ボランティアが担当することによってボランティア同士の交流が深められたことも、今回のフォーラムの成果のひとつです。また、機材・展示場・事務局ボランティアの役割や、その他の種類のボランティアの募集については今後も検討し、フォーラムのより円滑な運営とボランティアの役割の更なる充実を目指したいと考えています。

## 【ボランティアの感想より】

- ・会場の整備、受付、プログラム終了後の後片付けなど、堅苦しく考えなくてもできる仕事ばかりだった。初めてボランティアをしたが、友達も増え、夏の暑い中、良い経験になりました。
- ・ボランティアの年代が広がったので交流がよく行われていたと思います。親子で参加しているボランティアや、中・高校生のボランティアには心強く感じました。
- ・期間中は毎日交流会があつてよかったです。昨年までは終了するとそのまま帰ってしまっていたが、交流会があることで、ボランティアで参加した人とさらに交流が持てたり、フォーラム参加団体の方と交流ができました。

◆次ページにボランティアマニュアルを掲載⇒

# ボランティアマニュアル

1999 AIDS文化フォーラムin横浜 講座ボランティア

時間	全体のながれ	講座ボランティア A	講座ボランティア B
9:15		事務局に集合・出席リスト・名札作成 チーフボランティアと打ち合わせ 主催者と打ち合わせ 会場へ移動	
9:45	プログラム開始 プログラム終了	講座受付開始/アンケート配布	
10:00		プログラム開始	
12:00		プログラム終了/アンケート回収 事務局に集合・報告用紙提出	
12:15		A・Bシフト頭合わせ 主催者と打ち合わせ 会場へ移動	事務局に集合・出席リスト・名札作成 チーフボランティアと打ち合わせ A・Bシフト頭合わせ 主催者と打ち合わせ 会場へ移動
12:45		講座受付開始/アンケート配布 Aシフトの方は交代で昼食(12:00~13:00)	講座受付開始/アンケート配布
13:00	プログラム開始	プログラム開始	プログラム開始
15:00	プログラム終了	プログラム終了/アンケート回収	プログラム終了/アンケート回収
15:15		事務局に集合・報告用紙提出 名札を返却し、終了	事務局に集合・報告用紙提出 主催者と打ち合わせ 会場へ移動
15:45			講座受付開始/アンケート配布 アンケート配布
16:00	プログラム開始	プログラム開始	プログラム開始
18:00	プログラム終了	プログラム終了/アンケート回収 事務局に集合・報告用紙提出 名札を返却し、終了	プログラム終了/アンケート回収 事務局に集合・報告用紙提出 名札を返却し、終了

プログラム準備
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催者との打ち合わせ(配置・配布物・写真撮影)</li> <li>・備品の確認</li> <li>・アンケート配布</li> <li>・会場設営</li> <li>・資料配付</li> <li>・役割確認(報告用紙記入者・参加者数カウント者)</li> </ul>

プログラム中
<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真撮影の確認</li> <li>・イス等の不足の対応</li> <li>・資料不足の対応</li> <li>・冷房等の会議室環境への対応</li> <li>・参加者数のカウント</li> <li>・報告用紙記入</li> </ul>

プログラム後
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート回収</li> <li>・会場を元にもどす</li> <li>・備品の返却</li> <li>・配布資料一部事務局に</li> </ul>

次の場合は事務局に連絡
<ul style="list-style-type: none"> <li>・クレーム</li> <li>・マスコミの取付(7月用の名札がない場合)</li> <li>・体調の悪い方がでた場合</li> <li>・その他何か問題が起きた場合</li> </ul>

8/6(金)10:00~12:00はプログラムなし 8/8(日)18:00~18:00は閉会式・交流会のみ

**チーフボランティア**・講座ボランティアの方は、チーフボランティアの方と協力して講座の会場運営をサポートして下さい。

注意事項	
服装	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動きやすい服装、靴で来て下さい。</li> <li>・ボランティア中は名札を着用して下さい。</li> </ul>
持ち物・貴重品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・靴・上着などは、事務局においておくことができます。</li> <li>・貴重品に関しましては、必ずご自身で管理して下さい。</li> </ul>
食事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弁当類の持参は可能です。事務局で食事をしていただいてもかまいません。</li> <li>・シフトAの方は12時~1時の間に交代で食事して下さい。</li> </ul>

運営上の注経	
プライバシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座内、会場内で知った個人のプライバシー (HIV感染・セクハラ・仮名を使っている方の本名など) を厳守して下さい。</li> </ul>
クレーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クレームを受けた場合はかならず事務局に報告して下さい。</li> <li>○講座の内容について <ul style="list-style-type: none"> <li>・主催者にクレームの内容を伝え、対処してもらう。</li> <li>・主催者がいない場合は、事務局を通して主催者にそのことを伝える。</li> </ul> </li> <li>○会場運営について <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局にクレームの内容を伝え、対処してもらう。</li> </ul> </li> </ul>
主催者ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催者サイドの会場ボランティアがいる場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加団体によっては、主催者独自で会場ボランティアを募集している場合があります。</li> <li>その場合は、主催者と相談して講座ボランティアの役割を確認して下さい。</li> <li>(例) (1)一緒に活動する。(2)会場運営の仕事を部分的に分担する。(参加者数把握・アンケート配布回収等)</li> </ul> </li> </ul>
講座終了時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間になっても講座が終わらないとき <ul style="list-style-type: none"> <li>・主催者に講座の時間が終了していることを伝える。</li> <li>・質疑応答など、どうしても終了しないようなら会場を移してもらう。オプションは事務局に確認。</li> <li>・次の時間帯の講座主催者・来場者には前の講座が終了していないことを伝え、会場前で待機していただく。</li> </ul> </li> </ul>

**その他**

- ・会場運営で気が付いたことがあれば、チーフボランティア及び事務局に提案して下さい。
- ・例年、会場案内表示などがボランティアのみなさんのアイデアで付けられています。

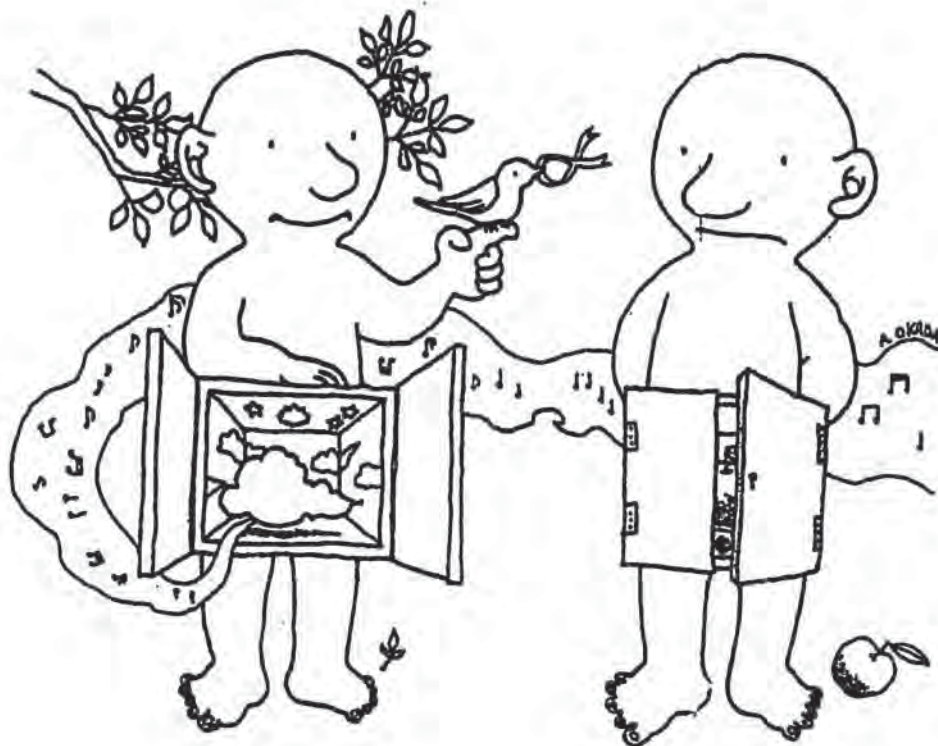
実行委員	・ボランティア担当の実行委員は、大川・桜庭・高村・矢部です。
事務局	・事務局及びボランティア控え室は402会議室です。

# 1999

# AIDS文化フォーラム

## in 横浜

### ～今を生きる～



日 程: 1999年8月6日(金)～8日(日)3日間

会 場: かながわ県民センター(横浜駅西口より徒歩5分)

入 場: 自由／無料

主 催: 「1999AIDS文化フォーラム in 横浜」組織委員会

共 催: 神奈川県

後 援: 横浜市・川崎市・横須賀市・横浜商工会議所エイズ問題対策懇談会

8月5日版

1999年(平成11年)7月28日 水曜日

### 「はまっこ」

「AIDS文化フォーラム」事務局 千代木 ひかるさん

エイズ啓発に関する「エイズ文化フォーラム」の開催が、今年で六回目を迎える。市民団体や高校生、医療関係者がそれぞれの立場からエイズ問題を取り上げる。横浜商工会議所や横浜YMCA、横浜市の各団体の協力を得て開催される。

「はまっこ」は、エイズ啓発に関する「エイズ文化フォーラム」事務局 千代木 ひかるさん。エイズ啓発に関する「エイズ文化フォーラム」の開催が、今年で六回目を迎える。市民団体や高校生、医療関係者がそれぞれの立場からエイズ問題を取り上げる。横浜商工会議所や横浜YMCA、横浜市の各団体の協力を得て開催される。

# 「それぞれのエイズ」語ろう



1998 AIDS文化フォーラム

8日までの3日間わたって開かれる「エイズ文化フォーラム in 横浜」は昨年のフォーラムから

今年の特集は「今を生きている」をテーマとし、エイズ文化フォーラムの開催が、今年で六回目を迎える。市民団体や高校生、医療関係者がそれぞれの立場からエイズ問題を取り上げる。横浜商工会議所や横浜YMCA、横浜市の各団体の協力を得て開催される。

## 「今を生きている」主題

### きょうから横浜で50講座

今年の特集は「今を生きている」をテーマとし、エイズ文化フォーラムの開催が、今年で六回目を迎える。市民団体や高校生、医療関係者がそれぞれの立場からエイズ問題を取り上げる。横浜商工会議所や横浜YMCA、横浜市の各団体の協力を得て開催される。

1999年(平成11年)8月7日 土曜日

# 正しい知識 身につけて

エイズ文化フォーラム

## 性教育の実演も

六回目を迎えた「エイズ文化フォーラム」が、市民団体や高校生、医療関係者がそれぞれの立場からエイズ問題を取り上げる。横浜商工会議所や横浜YMCA、横浜市の各団体の協力を得て開催される。



## HIV感染知らず献血

エイズ文化フォーラム

## 無自覚「他人事」のエイズ事情

エイズ文化フォーラム

## 漸増中

エイズ文化フォーラム

## 九州など全国から参加

エイズ文化フォーラム



「1999 AIDS文化フォーラム in 横浜」を支えた人・グループ（順不同・敬称略）

組織委員

川本譲次 榎原高尋 鈴木美鈴 高橋 稔 田代正樹 細井保路 山根誠之

実行委員

廣瀬 誠 小島隆士 岩室紳也 高村文子 吉永陽子 藤沢智晴 岡島龍彦  
 矢部尚美 濱村嘉允 取出涼子 岡田阿礼 多田由加里 岩本雅子 大川東三  
 桜庭禎子 長澤 勲 横山良一 松浦芳文 千代木ひかる

ボランティア

脇加津枝 北島久枝 松岡久仁子 梶原たつこ 藤本洋一郎 石田麻希子 名嘉涼子  
 吉川明子 益田ゆり子 田中玲子 岩室亨子 重村英子 木下芳余 中川直子  
 森井葉子 下屋裕美 下屋悦子 吉永千尋 吉永さやか 吉永重成 多田弘美  
 上野智子 千葉ハツ子 小島亜希子 小野寺一枝 甲斐久美子 高田良典子 村本俊子  
 高橋早苗 桜井伸治 山口ちづこ 菊池恭子 藤原まどか 原田久子 前澤 薫  
 正木淳子 西村奈巳 熊田彩子 大串文子 山本道子 小林誠司 桑島和子  
 小池綾子 白石知恵子 柳町敦子 三浦祐美子 竹内弥生 大塚ヒサミ 松本恵美子  
 服部喜昭 太田哲平 河野泰雄 石原誉一 大内絵里 桑山和也 門倉若菜  
 日比野浩 藤井悦子 木幡勢津子 佐々竜太郎 沼田雅子 田辺芳恵 海老沢ちはる  
 中島未来 安斉 耕 矢野和子 佐々木瑞穂 長井竜太郎 原洋一郎 太田佐保子  
 室山孝子 秋山さつき 雨宮則夫 鈴木重則 河合美智江 青木 勇 杉本知子  
 若林幸枝 内田明宏 椎名千恵 丸田知子 中村佳代子 大川智恵子 大塚裕子  
 桑島知子 神部さつき 高倉幸子 堀内志絵 黒田美智子 鈴木政彦 山口みのり  
 井上三香 市村理恵 石原春菜 武藤 豊 伊藤創一 内海真琴 安藤俊正  
 市川多加子 山口由起容 奥田朝子 大和佳子 片岡繁花 綾城範之 神田橋良隆

その他支援

(1) 資金援助

横浜商工会議所エイズストップ基金	財団法人エイズ予防財団エイズストップ基金
カトリック横浜司教区福祉委員会	山手カトリック教会
横浜いのちの電話	かながわともしび財団
横浜青年会議所	横浜商工会議所
カトリック横浜司教区	横浜YWCA
横浜YMCA	廣瀬 誠
吉永陽子	岡島龍彦

(2) 物品・機材提供/貸し出し

株式会社ユニマツトコーポレーション  
 小岩井乳業株式会社  
 財)エイズ予防財団

(3) その他

東京急行株式会社 相模鉄道株式会社 京浜急行株式会社 横浜新都市交通株式会社  
 開成町

「1999 AIDS文化フォーラム in 横浜」報告書

発行日：2000年4月30日

発行：AIDS文化フォーラム事務局

発行者：山根誠之

編集：「1999 AIDS文化フォーラム in 横浜」報告書作成委員会

印刷：東京コロニー

編集後記：今回の報告書では、WORD・オアシス・一太郎・エクセルを駆使しました。  
手作業のあとがにじみ出ていますか？（H）

99年も報告書が出来上がり、ほっと胸をなでおろしています。でも、2000年の  
夏は間近です。今年もがんばります！（N）

